

# 東京大学構内遺跡調査研究年報 16

2022 年度

東京大学埋蔵文化財調査室



## 例 言

1. 本書は2022年4月1日から2023年3月31日までに東京大学埋蔵文化財調査室が実施した、埋蔵文化財発掘調査およびそれに関わる研究、教育、普及などの諸活動をまとめた東京大学構内遺跡調査研究年報と東京大学構内遺跡に関わる調査・研究成果である東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要を合冊したものである。
2. 上記期間に行った発掘調査のうち、埋蔵文化財が確認できたものについて略報を掲載した。
3. 遺構の略号は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所で採用している方式を参照し、前に遺構の性格、後ろに各調査地点ごとに1から通し番号を付与した。前に付した遺構番号の性格の略称は、個々の報告の凡例を参考にされたい。
4. 本書の作成は室員があたり、堀内、香取が編集を行った。
5. 本書(pdf形式)および本書に関わる本文には掲載されていない遺構一覧表(詳細版)、遺物観察表(以上、xlsx形式)、遺構写真、遺物写真(以上、jpeg形式)は東京大学埋蔵文化財調査室公式サイト(<http://www.aru.u-tokyo.ac.jp/index.htm>)に収録した。
6. 本書掲載・収録の諸データは、営利を伴わない学術目的の個人論文などの使用を除いて無断転載を禁止する。
7. 発掘調査に伴う図面、出土遺物等は、東京大学埋蔵文化財調査室が、東京大学駒場Ⅰ教養キャンパス(東京都目黒区駒場3-8-1)、東京大学駒場Ⅱリサーチキャンパス(東京都目黒区駒場4-6-1)、東京大学工学系研究科柿岡教育研究施設(茨城県石岡市柿岡414)において管理、運用、保管を行っている。

## 目 次

### 例 言 目 次

#### 年報編

東京大学構内遺跡の調査 .....	3
東京大学構内遺跡調査一覧 .....	4

第Ⅰ章 埋蔵文化財調査の概要（事前・試掘・立会）.....	19
第1節 本郷構内の立会調査	
1. 本郷 333 赤門耐震基礎診断 .....	20
第2節 駒場構内の試掘調査	
1. 駒 I 58 講義棟地点 .....	24
第3節 白山構内の立会調査	
1. 白山 12 チェコ共和国 EU 議長国事業ウクライナ連帯支援桜植樹 .....	31

#### 第Ⅱ章 調査資料の整理・研究および公開・活用

第1節 調査資料の整理	
1. 整理事業概要 .....	35
2. 外部委託 .....	35
第2節 調査・研究成果の公開・活用	
1. 報告書・年報 .....	35
2. 広報活動 .....	35
3. 教育・普及 .....	35
4. 資料の提供・貸出 .....	36
附 埋蔵文化財調査室要項 .....	39
埋蔵文化財調査室規則 .....	39
埋蔵文化財調査室組織表 .....	39

#### 報告編

東京大学構内遺跡発掘調査報告	
本郷 75 工学系総合研究棟立坑地点 .....	43
本郷 288 野球場北側擁壁改修地点 .....	61

紀要編

東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要 16

前田邸御成記の分析 2 元禄

湯沢 丈 ..... 83



# 年 報 編

---

2022 年度





## 東京大学構内遺跡の調査

東京大学は、農学生命科学研究科附属演習林を併せると全国 21 都道府県におよび、326,809,180 m<sup>2</sup>を所有（一部借入）している。このうち本郷（東京都文京区）、駒場（東京都目黒区）、柏（千葉県柏市）の 3 構内を拠点キャンパスと位置付けている。本郷構内は本郷、弥生、浅野の 3 キャンパス全体で 559,176 m<sup>2</sup>、駒場構内は I（教養学部など）、II（リサーチキャンパス）全体で 352,180 m<sup>2</sup>、柏構内は 412,291 m<sup>2</sup>を所有している。

また、その他周知の遺跡として登録され、現在までに試掘を含め調査を実施した所有地に、研究関連施設では理学系研究科附属植物園本園、農学生命科学研究科附属技術基盤センター（小石川樹木園）、総合研究博物館小石川分館が所在する白山構内（東京都文京区、160,787 m<sup>2</sup>）、医科学研究所が所在する白金台構内（東京都港区、68,907 m<sup>2</sup>）、理学系研究科附属臨海実験所（神奈川県三浦市、68,737 m<sup>2</sup>）、福利厚生関連施設では追分インターナショナルハウス（東京都文京区、1,576 m<sup>2</sup>）、白金台ロッジ（東京都港区、2,453 m<sup>2</sup>）、三鷹国際学生宿舎（東京都三鷹市、29,438 m<sup>2</sup>）、検見川総合運動場（千葉県千葉市、273,027 m<sup>2</sup>）、目白台インターナショナル・ビレッジ（東京都文京区、28,509.35 m<sup>2</sup>）がある。

本郷構内では旧石器時代（ブロック・礫群）、縄文時代（早期末～前期集落・後晩期包蔵地）、弥生時代（中・後期集落）、古墳時代（前～後期集落）、平安時代（集落）、江戸時代（大名屋敷・武家地・町地・寺社地）、近代にわたる大規模複合遺跡群で、「文京区 No.47 本郷台遺跡群」として登録されている。また、その一部（浅野地区内）は、「文京区 No.28 弥生町遺跡群」として登録され、1975 年に文学部考古学研究室、理学部人類学教室が合同調査を行った「向ヶ岡貝塚」（No.28-C 地点）は、1976 年に国史跡に指定されている。

駒場構内のうち駒場 II 地区は、近年の再開発に伴い構内の試掘調査を実施しているが、遺跡は確認されていない。駒場 I 地区は、旧石器時代（ブロック・礫群）、縄文時代（早期集落）、平安時代、近世（農村）の遺跡が確認され、全体が「目黒区 No.1 東京大学駒場構内遺跡」として登録されている。

柏構内（現状所有範囲）は開発前に千葉県教育委員会による試掘調査が行われたが、遺跡は確認されていない。

白山構内は、すでに明治初頭、エドワード・S・モースによって貝塚の存在が紹介されており、「小石川植物園内貝塚」として周知されてきた。また、1918 年には

東京府の旧跡として指定された歴史を持つ。現在では構内全域が縄文時代（前～晩期集落・貝塚）、江戸時代（大名屋敷・幕府御用地・武家地）の複合遺跡「文京区 No.81 小石川御薬園跡」、その一部が「文京区 No.21 小石川植物園内貝塚・原町遺跡」として登録されている。2012 年 9 月 19 日には「小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）」として、161,588.4 m<sup>2</sup>が国の史跡名勝に指定された。

医科学研究所は、2000 年度の発掘調査（白金台 5）で旧石器時代（ブロック）、江戸時代（大名屋敷）の遺跡が確認され、その一部は、「港区 No.135 遺跡」として登録されていたが、2021 年の囲障改修地点の調査結果から、研究所全域（68,907 m<sup>2</sup>）に 2022 年 3 月 11 日に埋蔵文化財包蔵地が拡大された。

## 東京大学構内遺跡調査一覧

## 本郷構内調査一覧

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	1	1983	(U)	山上会館	事前	1984.3.7 ~ 1986.7.17	1500	西田・谷・大貫	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 4 山上会館・御殿下記念館地点』
本郷	2-1	1984	HHB	(法)	事前	1984.4.1 ~ 1985.3.31	2500	大塚	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 2 法学部 4 号館・文学部 3 号館建設地遺跡』
	(文)								
本郷	3	1985	HGS (G)	御殿下記念館	事前	1985.7.29 ~ 1987.6.30	6000	寺島・大貫・倉林	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 4 山上会館・御殿下記念館地点』
本郷	4-1	1984	HHC	(病中)	事前	1984.10.1 ~ 1987.3.31	7700	藤本・小川	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 3 医学部附属病院地点』
	(エネセン)								
	(給水)								
	(共同溝)								
本郷	5	1984	HS7 (理 D)	理学部 7 号館	事前	1985.2.1 ~ 10.8	750	羽生	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 1 理学部 7 号館地点』
本郷	6	1986	-	文京区湯島 4 丁目-弥生 2 丁目地先開配水管布設替	立会	1986.5.12 ~ 7.20	-	寺島	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 所収
本郷	7	1987	-	新タンDEM棟	試掘	1988.2.15 ~ 17	28	成瀬・武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 所収
本郷	8	1987	-	弥生門脇変電施設	立会	1987.12.15 ~ 16	-	武藤	近世
本郷	9	1989	VMC	農学部家畜病院	事前	1990.1.31 ~ 3.14	1040	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』1 所収
本郷	10	1990	HG	医学部附属病院外来診療棟	事前	1990.6.27 ~ 1991.2.21	5500	成瀬・堀内・武藤	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 5 医学部附属病院外来診療棟地点』
本郷	11	1991	-	農学部ガラス室	試掘	1991.8.12 ~ 13	7	堀内	遺構・遺物なし
本郷	12	1992	FAL	農学部図書館	事前	1993.3.9 ~ 3.25	408	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	13	1992	FA792	農学部 7 号館I期	事前	1992.10.6 ~ 11.16	1170	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	14	1992	K14 (工 14)	工学部 14 号館	事前	1992.11.26 ~ 1993.2.23	1785	成瀬・堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 7 工学部 14 号館地点』
本郷	15	1992	YS	薬学部南館 [薬学部新館]	事前	1992.10.21 ~ 12.18	1300	堀内・寺島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 16 薬学部南館地点・薬学部資料館地点』
本郷	16	1993	FA793	農学部 7 号館II期	事前	1993.11.3 ~ 26	1000	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	17	1993	FE1	工学部 1 号館	事前	1993.12.6 ~ 1994.2.10	616	武藤	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 6 工学部 1 号館地点』
本郷	18	1993	SK	教育学部総合研究棟	事前	1993.11.18 ~ 12.28	1007	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 10 教育学部総合研究棟地点・IML 地点』
本郷	19	1993	HN	看護職員等宿舍 1 号棟 [看護婦宿舍]	事前	1993.8.4 ~ 1994.1.17	746	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 15 医学部附属病院看護職員等宿舍 1 号棟地点・臨床試験棟地点・看護職員等宿舍 3 号棟地点 (1)』
本郷	20	1993	TUM	総合研究博物館新館	事前	1994.2.14 ~ 4.8	600	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 11 総合研究博物館新館地点』
本郷	21	1993	MRI	臨床試験棟 [MRI-CT 棟]	事前	1994.1.18 ~ 3.12	400	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 15 医学部附属病院看護職員等宿舍 1 号棟地点・臨床試験棟地点・看護職員等宿舍 3 号棟地点 (1)』
本郷	22	1994	HF	山上会館龍岡門別館	事前	1994.8.17 ~ 10.17	593	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	23	1994	HW (病棟)	医学部附属病院入院棟 A	事前	1994.4.21 ~ 11.16、 1995.1.31 ~ 1996.6.6	6096	成瀬・原・鯨島・大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13 医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	24	1994	HIKN (医研)	医学部教育研究棟	事前	1994.11.17 ~ 1995.4.28、 1997.3.10 ~ 4.25、 1998.11.2 ~ 12.25、 2002.9.3 ~ 12.25	2901	堀内・鯨島・大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14 医学部研教育究棟地点』
本郷	25	1994	HND	医学部附属病院看護師宿舍ゴミ置き場	事前	1995.1.30 ~ 3.3	45	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』1 所収
本郷	26	1994	-	法文十字路外灯	立会	1994.9.5	-	成瀬・鯨島	近世
本郷	27	1994	-	理学部 1 号館	立会	1994.10.3 ~ 18	-	寺島	遺構・遺物なし
本郷	28	1995	FPS	薬学部資料館	事前	1995.7.24 ~ 9.1	540	武藤	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 16 薬学部南館地点・薬学部資料館地点』
本郷	29	1995	ACC	情報基盤センター変電室 1	事前	1995.7.18 ~ 31	78	鯨島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 浅野地区I』
本郷	30	1995	AFC	工学部風工学実験室支障ケーブル地点	事前	1995.8.22 ~ 9.22	63	鯨島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 浅野地区I』
本郷	31	1995	-	ATM ネットワーク施設整備	立会	1995.11.20 ~ 24	-	武藤・堀内・鯨島・原	近世
本郷	32	1994	-	医学部附属病院看護師宿舍電気ケーブル埋設	立会	1995.3.2	-	原	遺構・遺物なし
本郷	33	1996	EQL	地震研テレメタリング地震観測施設	事前	1996.4.15 ~ 5.2	360	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	34	1996	-	野球グラウンド	立会	1996	-	寺島	遺構・遺物なし
本郷	35	1993	-	経済学部前路面陥没	立会	1993.9.28、1994.5.14	-	成瀬	近世
本郷	36	1993	-	農学部ガス管理設	立会	1993.10.15	-	成瀬	近世

東京大学構内遺跡の調査

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	37	1994	-	屋外環境整備等龍岡門～附属病院	立会	1994.10.13	-	成瀬・原	近世
本郷	38	1994	-	医学部附属病院内エアタンク設置	立会	1994.12.18	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	39	1994	-	史料編纂所前埋設	立会	1995.3.10	-	成瀬	近世
本郷	40	1995	AFL	工学部風工学実験室	事前	1996.1.22 ~ 3.7	252	鮫島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 浅野地区I』
本郷	41	1996	IML	インテリジェント・モデリング・ラボラトリー	事前	1996.4.15 ~ 6.20	626	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 10 教育学部総合研究棟地点・IML 地点』
本郷	42	1996	-	医学部附属病院基幹整備に伴う樹木移植	立会	1996.4	-	成瀬	近世
本郷	43	1996	HWK1	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.5.12 ~ 5.18	20	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13 医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	44	1996	HWK2	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.5.27 ~ 6.27	102	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13 医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	45	1996	HWK3	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.6.3 ~ 6.20	184	大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13 医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	46	1994	-	龍岡門門衛所移築	立会	1994.8.24	-	成瀬	近世
本郷	47	1996	HWK4	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.6.24 ~ 6.28	5	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13 医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	48	1996	HN II	看護職員等宿舍 3 号棟 [看護婦宿舍II期]	事前	1996.11.5 ~ 1997.1.31	525	原・大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 15 医学部附属病院看護職員等宿舍 1 号棟地点・臨床試験棟地点・看護職員等宿舍 3 号棟地点 (1)』
本郷	49	1997	-	外灯整備 1	立会	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	50	1997	-	外灯整備 2	立会	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	51	1997	-	外灯整備 3	立会	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	52	1997	-	農学部 (21 世紀館) 木質ホール	試掘	1997.7.14 ~ 18	50	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 所収
本郷	53	1998	AF IV	工学部環境シミュレーション風洞実験室	事前	1999.1.7 ~ 25	300	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 浅野地区I』
本郷	54	1999	HES99	経済学研究科棟	事前	1999.5.24 ~ 11.2	1026	堀内・追川	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 18 経済学研究科棟地点』
本郷	55	1999	HHC299 (2 中)	医学部附属病院第 2 中央診療棟	事前	1999.10.12 ~ 2000.2.25、 2001.7.23 ~ 2002.12.19	4017	成瀬・原・ 追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	56	1999	-	文系 4 研究所等暫定建物	試掘	1999.12.16 ~ 17	16	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』3 所収
本郷	57	1999	-	環境安全センター	立会	2000.1.17	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	58	1999	YM	医学部附属病院受変電設備棟II期	事前	2000.2.5 ~ 3.31	300	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 12 医学部附属病院受変電設備棟地点』
本郷	59	2000	KK	工学部基幹整備共同溝	事前	2000.7.3 ~ 7.12、10.11 ~ 10.14、2001.2.21 ~ 2.28	900	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8 所収
本郷	60	2000	HWK6	医学部附属病院基幹整備外構施設等	事前	2000.9.21 ~ 11.14	200	成瀬・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	61	2001	TS	工学部武田先端知ビル	事前	2001.6.4 ~ 8.7、 2001.11.28 ~ 12.28	740	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 浅野地区I』
本郷	62	2001	NSK01	農学部生命科学総合研究棟	事前	2001.9.21 ~ 10.19	1800	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 所収
本郷	63	2001	-	薬学部暫定建物	立会	2002.2.5 ~ 6	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	64	2001	-	情報学環暫定建物	立会	2002.2.7	-	成瀬	近世
本郷	65	2002	LS03	法学系総合研究棟	事前	2003.2.17 ~ 4.18	946	成瀬・大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	66-1	2002	YGS	薬学系総合研究棟 (薬学系総合研究棟 1 期)	事前	2002.8.1 ~ 2003.2.28	1260	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	66-2	2004		薬学系総合研究棟 (薬学系総合研究棟 2 期)		2004.7.26 ~ 8.4、 2004.11.17 ~ 2005.2.4	540		『東京大学構内遺跡調査研究年報』5 所収
本郷	67	2002	-	地震研究所総合研究棟	試掘	2002.5.9 ~ 17	32	堀内	縄文・弥生・古墳・近世・近代
本郷	68	2002	INC	インキュベーション施設	事前	2003.3.6 ~ 6.7	1051	堀内・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収
本郷	69	2002	-	地震研仮設建物	立会	2002.5.14 ~ 16	-	堀内	遺構・遺物なし
本郷	70	2002	-	工学系総合研究棟	立会	2003.2.28	-	堀内	遺構・遺物なし
本郷	71	2004	HEQ04	地震研究所総合研究棟	事前	2004.8.30 ~ 2005.2.28	1474	追川・大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5 所収
本郷	72	2004	SC1	理学部 1 号館前	事前	2004.11.29 ~ 12.3	32	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5 所収
本郷	73	2004	-	クリニカルリサーチセンター A 棟I期 [疾患生命研究センター]	試掘	2004.11.29 ~ 12.1	24	成瀬	古墳・近世
本郷	74	2008	HHN308	医学部附属病院看護師宿舍III期	事前	2008.4.1 ~ 8.1	550	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8 所収
本郷	75	2005	KOS05	工学系総合研究棟立坑	事前	2005.9.13 ~ 14	17	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6 所収
本郷	76	2005	HVP06	ベンチャープラザ	事前	2006.3.6 ~ 5.16	760	追川・堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6 所収
本郷	77	2005	-	農学部弥生講堂アネックス	立会	2006.1.12	5	大成	近世
本郷	78	2006	HJF06	情報学環・福武ホール	事前	2006.6.5 ~ 12.8、2007.2.5 ~ 23	1766	大成・成瀬・ 追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6 所収
本郷	79	2006	-	農学部コイトロン温室	立会	2007.1.16	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	80	2006	-	工学部もの作り実験工房	立会	2007.2.22	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	81	2007	HEA07	経済学研究科学術交流棟	事前	2008.3.17 ~ 7.11、9.11 ~ 24、2009.2.2 ~ 10	451	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 所収
本郷	82	2007	HKM07	懐徳門	事前	2007.6.20 ~ 7.20	34	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	83	2007	-	向ヶ丘ファカルティハウス	試掘	2007.10.22 ~ 25	50	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 所収
本郷	84	1984	NK84	農学部共同溝	事前	1984.7.9 ~ 23	50	今村啓爾	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6 所収
本郷	85	2007	-	薬学部東法面階段設置	立会	2008.3.14	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	86	2008	-	雨水管改修	立会	2009.2.2 ~ 16	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	87	2008	HTG08	東京都下水道	事前	2008.12.7 ~ 12.25、 2009.11.27 ~ 12.8	39	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代		
本郷	88-1	2008	-	耐震対策事業ガス管改修	立会	2008.11.19、11.20	26	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収		
	88-2	2009				2009.5.11～13、15、23、31、6.18、8.27	-		『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	89	2008	-	弥生地区屋外ガス配管改修	立会	2008.11.25～12.17	193	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収		
本郷	90	2009	-	薬学部研究実験棟	試掘	2009.4.16	10	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	91	2009	HHP09	医学部附属病院立体駐車場	事前	2009.12.13～2010.2.25	3034	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	92	2009	HGG09	学生支援センター	事前	2009.7.21～7.30	440	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	93	2009	H7109	伊藤国際学術研究センター	事前	2009.7.30～2010.2.12.5.17 ～5.31、2011.7.21～26、 9.16～10.28	1710	成瀬・大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	94	2009	HNS09	分生研・農学部総合研究棟	事前	2010.1.25～3.31、 2010.7.28～8.11	1731	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	95	2009	-	農学生命科学研究科フードサイエンス棟	立会	2009.10.22、11.2	-	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	96	2009	-	工学部新3号館建替時待避用仮設建物	試掘	2009.12.14～12.17	64	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	97-1	2009	HKS09	基幹整備 (流域⑧排水) A区	事前	2010.3.3～3.19	26	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収		
本郷	97-2	2010				2010.11.27～12.6	42				
本郷	98	2010	-	原子動力実験棟	試掘	2010.4.9	16	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	99-1	2010	HLS10	(HLS10-1) 法学部3号館増築	事前	2010.7.20～8.23	60	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	99-2	2010				(HLS10-2)	2011.1.18～26			268	大成
本郷	99-3	2011				(HLS10-3)	2011.5.16～7.26			406	追川
本郷	100	2010	HK311	工学部新3号館	事前	2011.1.4～10.11	4595	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	101	2010	HM10	医学部附属病院ドナルド・マクドナルド・ハウス地点	事前	2010.12.9～2011.1.26	30	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	102	2010	-	本郷通り開閉改修	立会	2010.12.2、12.13	-	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	103	2011	HKK11	春日門横教育研究棟	事前	2011.12.1～2012.7.20	949	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8、9所収		
本郷	104	2010	-	防犯用ネットワークカメラ貸借	立会	2010.7.30～8.11	-	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	105	2010	-	弥生地区屋外ガス配管改修	立会	2010.8.31～9.11	-	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	106	2010	-	薬学ゲート前舗装改修	立会	2011.2.7、9、15～16、 18、21～22	-	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収		
本郷	107	2011	-	総合図書館前クスノキ移植	立会	2011.6.9～15	-	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	108	2011	-	旧原子力センター別館改修	立会	2011.6.22	16	堀内	遺構・遺物なし		
本郷	109	2011	-	仮設キュービクル設置	立会	2011.9.1	18	大成	遺構・遺物なし		
本郷	110	2011	-	クリニカルリサーチセンター A棟II期	試掘	2011.11.29～12.2	6	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	111	2011	-	総合図書館西側道路構造調査	立会	2011.10.18	4	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	112	2011	-	クリニカルリサーチセンター B棟	試掘	2011.11.29～12.2	25	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	113	2011	HHWB12	医学部附属病院入院棟II期	事前	2012.3.1～11.30、 2013.8.19～10.3、 2014.2.5～2015.2.19	4391	成瀬・香取・ 小川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収		
本郷	114	2010	-	下水本管改修	立会	2010.6.17、21	-	原	遺構・遺物なし		
本郷	115	2012	HTP12	図書館前クスノキ移植	事前	2012.5.7～6.18	60	追川	近世		
本郷	116	2011	-	旧原子力研究総合センター別館電気設備	立会	2011.9.20、10.25	-	原	遺構・遺物なし		
本郷	117	2011	-	農学部3号館西側舗装改修	試掘	2011.12.14～2012.1.13	14	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収		
本郷	118	2011	-	ガス管改修	試掘	2011.9.5～9.19	18	原	遺構・遺物なし		
本郷	119	2011	HNS09	分生研・農学部総合研究棟	事前	2011.7.26～27	7	原	遺物ののみ		
本郷	120	2011	-	分生研・農学部総合研究棟基幹整備	試掘	2011.9.10～17、11.20～ 21	9	原	遺構・遺物なし		
本郷	121	2012	-	農学部1号館北側舗装改修	立会	2012.7.10～14	2	原	近代		
本郷	122	2012	-	伊藤国際舗装改修	立会	2012.7.14	1	原	遺構・遺物なし		
本郷	123	2012	-	春日門扉やりかえ	立会	2012.9.4、10	5	大成	遺構・遺物なし		
本郷	124	2012	-	農学生命科学研究科閉鎖系温室	立会	2012.9.26～27	31	原	遺構・遺物なし		
本郷	125-1	2012	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟I期	事前	2012.12.17～2014.9.12	3341	追川・小川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収		
本郷	126	2012	-	原子力別館北側雨水配管改修	立会	2012.12.17～20	21	原	遺構・遺物なし		
本郷	127	2012	-	工学部4号館屋外排水管改修	試掘	2012.2.20	10	原	遺構・遺物なし		
本郷	128	2012	-	農学部1号館北側他舗装改修	立会	2013.1.21、21、20、3.7、 11、12、14、15、18、19	2750	原	遺構・遺物なし		
本郷	129	2012	-	理学部2号館舗装改修	立会	2012.12.25、26、 2013.1.21、21、3	1000	原	遺構・遺物なし		
本郷	130	2012	-	工学部3号館施設整備 (ガス)	事前	2012.11.5、13	-	成瀬・堀内	遺構・遺物なし		
本郷	131	2012	-	医学部モニュメント	立会	2013.3.25	11	追川	近代		
本郷	132	2013	-	タンデム加速器研究棟北側側溝改修	立会	2013.4.8	16	原	遺構・遺物なし		
本郷	133	2013	-	工学部9号館西側舗装改修	立会	2013.4.10	23	原	遺構・遺物なし		
本郷	134	2012	-	工学部3号館施設整備 (下水他)	事前	2013.3.18、27、4.1、8～ 10、22、23、30、5.1、9、 17、18、24～26、28、7.1 ～3、5	490	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収		
本郷	135	2013	-	農学部水田取設	試掘	2013.6.4、5、7、8、10	101	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収		
本郷	136	2013	-	農学部正門舗装改修	試掘	2013.6.17	3	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収		
本郷	137	2013	-	浅野民間地	試掘	2013.7.18	44	原	遺構・遺物なし		
本郷	138	2013	-	工学部3号館施設整備 (雨水)	立会	2013.7.22、26、31	41	堀内	近世遺構面確認		
本郷	139	2013	-	保育園前歩道植栽	立会	2013.8.4	42	堀内	遺構・遺物なし		
本郷	140	2013	-	春日門総合研究棟外構	立会	2013.7.29、31、8.1、5、 2014.1.29、24	107	大成	近世遺構面確認		
本郷	141	2013	-	工学部3号館施設整備 (下水2)	立会	2013.8.24	-	堀内	遺構・遺物なし		

東京大学構内遺跡の調査

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (m <sup>2</sup> )	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	142	2013	-	農学部東側外構	試掘	2013.9.10	7	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	143	2013	HKO13	講堂改修	事前	2013.9.26、10.21～25、 11.5、11、12.12、13、 15、18、19、27、28、 12.5、9、11、13、15、17	539	原・清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	144	2013	-	看護職員等宿舍5号棟擁壁	試掘	2013.9.2、3	13	香取	近世・近代整地層
本郷	145	2013	-	医学部中央総合館前誘導ブロック設置	立会	2013.9.27	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	146	2013	HAC13	アカデミックcommons	事前	2013.9.10～2014.3.31	1200	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	147	2013	-	国際科学イノベーション総括棟	試掘	2013.7.23～7.26	48	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	148	2013	HIN14	国際科学イノベーション総括棟	事前	2014.1.14～7.23、 2014.8.18～8.21	1480	大成・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	149	2013	-	(弥生) テニスコート夜間照明設置	立会	2013.12.20	4	大成	遺構・遺物なし、時期不明硬化面
本郷	150	2013	-	農学部正門舗装改修	立会	2014.1.29、2.3、16～18	510	原	遺構・遺物なし
本郷	151	2013	-	農学生命科学研究科閉鎖系温室	試掘	2014.1.29	18	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	152	2013	-	地震研究所北側開閉改修	試掘	2014.2.13、17、21	40	原	遺構・遺物なし
本郷	153	2014	-	理学部1号館	試掘	2014.5.16、19	21	原・清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	154	2013	-	保育園前漏水	立会	2014.1.10、14	1	堀内	遺構・遺物なし
本郷	155	2013	-	懐徳門舗装	立会	2014.1.29、2.5、2.10	277	堀内	遺構・遺物なし
本郷	156	2013	-	博物館 AMS ラボ電気改修	立会	2014.2.6	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	157	2013	-	第2本部棟外構	立会	2014.2.22～23	4	堀内	遺構・遺物なし
本郷	158	2013	-	街灯整備	立会	2014.3.11～14	46	堀内	遺構・遺物なし
本郷	159	2014	-	弓道場脇フェンス	立会	2014.4.7	5	堀内	遺構・遺物なし
本郷	160	2014	-	文系総合研究棟	試掘	2014.4.9～11	27	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	161	2014	-	懐徳館庭園給水引き込み	立会	2014.4.22	-	原・清水	遺構・遺物なし
本郷	162	2014	-	工学部4号館改修	試掘	2014.6.23、27、7.3、4、 10、8.12	47	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	163	2014	-	法文2号館給水管改修	立会	2014.6.4	8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	164	2014	-	イノベーション棟現場事務所	立会	2014.6.5	-	追川	遺構・遺物なし
本郷	165	2014	-	弓道場テント基礎移設	立会	2014.7.3	1	清水	遺構・遺物なし
本郷	166	2014	-	農学部門衛所漏水対応	立会	2014.7.15	-	原	遺構・遺物なし
本郷	167	2014	-	安田講堂花壇漏水対応	立会	2014.7.30	1	小川	遺構・遺物なし
本郷	168	2014	-	アカデミックcommons2次調査	事前	2014.8.13～10.31、11.25、 12.10、12	475	堀内・清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	169	2014	HEK14	文系総合研究棟	事前	2014.10.14～11.5	180	堀内・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	170	2014	-	七徳堂改修外構	立会	2014.11.21、2015.1.13、 14	130	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	171	2014	-	図書館横仮設建物建設に伴う舗装石除去	立会	2014.9.4	930	堀内	遺構・遺物なし
本郷	172	2014	-	第二食堂前カーゲート付近舗装改修	立会	2014.11.21	78	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	173	2014	-	医学部附属病院第二中央診療棟前車道 バリカー設置	立会	2014.12.19	1	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	174	2014	-	本郷キャンパスノビアフリー関係整備	立会	2014.12.22、2015.1.20、 21	169	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	175	2014	-	図書館仮設キュービクル設置	立会	2014.11.26	8	清水	遺構・遺物なし
本郷	176	2014	-	ネットワーク監視カメラ設置	立会	2014.12.2	5	清水	遺構なし、近世磁器1点
本郷	177	2014	-	工学部1号館前広場シタレザクラ移植	試掘	2015.1.6、7	5	香取	近世遺構・遺物
本郷	178	2014	HN614	農学部6号館改修	事前	2015.1.7～9、4.27、28	38	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	179	2014	-	安田講堂前広場の整備	試掘	2015.1.6、7、2.18	405	香取	近現代
本郷	180	2014	-	生物環境ガラス温室	立会	2015.1.16	9	原	遺構・遺物なし
本郷	181	2014	-	農学部グラウンド門扉改修	立会	2015.1.21、2.3	3	香取	近世
本郷	182	2014	HCRG15	医学部附属病院 CRC 棟ほか外構	事前	2015.3.16～9.25	162	追川	近世
本郷	183	2014	-	地震研究所北側開閉改修	立会	2015.2.6	153	原	遺構・遺物なし
本郷	184	2014	-	上野英三郎博士とハチ公(仮)台座	立会	2015.2.6	3	原	遺構・遺物なし
本郷	185	2014	-	バス通り誘導ブロック整備	立会	2015.2.20、23、24	25	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	186	2014	-	薬学本館埋設配管	立会	2015.2.23、24	14	小川	遺構・遺物なし
本郷	187	2014	-	工学部船舶運動性能試験水槽埋設配管	立会	2015.3.16	5	清水	遺構・遺物なし
本郷	188	2015	-	総合研究棟(理学系)	試掘	2015.4.7、9、10	36	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	189	2015	-	上野英三郎博士とハチ公(仮)解説板	立会	2015.5.11	5	原	遺構・遺物なし
本郷	190	2015	-	農学部正門守衛所	立会	2015.5.1	1	原	遺構・遺物なし
本郷	191	2015	-	情報学環・福武ホール漏水補修	立会	2015.5.2	3	清水	遺構なし、近世磁器1点
本郷	192	2015	-	安田講堂監視カメラ	立会	2015.5.25	52	原	遺構・遺物なし
本郷	193	2015	-	中央食堂第二購買部散水栓修理	立会	2015.6.28	0.3	原	遺構・遺物なし
本郷	194	2015	-	理学部1号館新営に伴う支障排水管盛替	立会	2015.6.25	4	原	遺構・遺物なし
本郷	195	2015	-	農学部東別館漏水補修	立会	2015.5.4	1	香取	遺構・遺物なし
本郷	196	2015	-	総合研究博物館裏街灯取替	立会	2015.6.8	2	小川	遺構・遺物なし
本郷	197	2015	-	文系総合研究棟仮設電気	立会	2015.7.15～7.17	2	平石・香取	遺構・遺物なし
本郷	198	2015	HR115	理学部1号館	事前	2015.8.17～12.9	530	原・小川・ 平石	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	199	2015	-	御殿下グラウンド北側チェーンゲート取設	立会	2015.8.20、21	9	原	遺構・遺物なし
本郷	200	2015	-	農学部1号館西側外構	立会	2015.9.1、15	20	原	遺構・遺物なし
本郷	201	2015	-	浅野街灯整備	試掘	2015.9.7	2	香取	遺構・遺物なし
本郷	202	2015	-	安田講堂マンホール	立会	2015.11.27	1	原	遺構・遺物なし
本郷	203	2015	-	国際科学イノベーション総括棟外構	立会	2015.12.14	82	大成	遺構・遺物なし
本郷	204	2015	-	農学部漏水	立会	2016.1.12	0.6	香取	遺構・遺物なし
本郷	205	2015	-	理学系総合研究棟仮設電気	立会	2016.1.19	0.6	小川	遺構・遺物なし

年 報 編

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査 種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	206	2015	HR115	理学部1号館外構	事前	2016.1.19、22、25、28、 2016.2.12、16、17、19	175	小川・平石	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	207	2015	HMK16	各門サイン設置	事前	2016.2.1～3	8	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	208	2015	-	工学部3号館外周道路舗装部補修	立会	2016.2.19	36	平石	遺構・遺物なし
本郷	209	2015	-	医学部総合中央館西側駐車場改修	立会	2016.3.4	218	平石	遺構・遺物なし
本郷	210	2015	-	環境安全研究センター漏水	立会	2016.2.10	0.5	堀内	遺構・遺物なし
本郷	211	2015	-	附属図書館(教育学部等)改修	立会	2016.1.6、9、2.15、16、2.29 ～3.2	81	清水	近世陶器数点。遺構なし
本郷	212	2015	-	安田講堂南側舗装改修	立会	2016.3.1、8	38	香取	遺構・遺物なし
本郷	213	2015	-	理学部2号館前生垣	立会	2016.3.14	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	214	2016	-	低温センター A004室アース	立会	2016.4.19	3	原	遺構・遺物なし
本郷	215	2016	-	第一研究棟西側圃場整備	立会	2016.6.3	21	平石	遺構・遺物なし
本郷	125-2	2015	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期(13区)	事前	2016.3.28～4.14	9	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	125-3	2016	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期 (ガス配管)	立会	2016.4.26	31	追川	遺構・遺物なし
本郷	125-4	2016	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期 (14区)	事前	2016.8.26～9.2	124	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	125-5	2016	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期 (ガス配管堅坑)	立会	2016.5.26	0.4	追川	遺構・遺物なし
本郷	125-6	2016	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期(15区)	事前	2016.5.19	23	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	216	2016	-	教育学部機械設備改修	立会	2016.7.4	7	小川	遺構・遺物なし
本郷	217	2016	-	附属図書館(教育学部等)改修 電気設備	立会	2016.8.29	3	平石	遺構・遺物なし
本郷	218	2016	-	農学部正門ステンレスポール更新	立会	2016.10.19	0.2	原	遺構・遺物なし
本郷	219	2016	-	構内各所サイン設置	立会	2016.11.16～19、21	10	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	220	2016	-	育徳園内倒木樹木の撤去作業	立会	2016.10.22	1	原	遺構・遺物なし
本郷	221	2016	-	安田講堂北側誘導ブロック	立会	2017.1.12、13	8	原	遺構・遺物なし
本郷	222	2016	-	附属図書館(教育学部等)改修 機械設備	立会	2017.1.11	7	原	遺構・遺物なし
本郷	223	2016	-	朱舜水碑現設置場所	立会	2017.2.7、8、16	86	原	遺構・遺物なし
本郷	224	2016	-	朱舜水碑移転先	立会	2017.2.17、20、25	32	原	遺構・遺物なし
本郷	225	2016	-	医学部附属病院内駐輪場	立会	2017.2.13	10	追川	遺構・遺物なし
本郷	226	2016	-	附属図書館ダムウェーター新設	立会	2017.1.24	16	堀内	遺構・遺物なし
本郷	227	2016	-	正門整備	立会	2017.3.9、13、15、16	209	原	遺構・遺物なし
本郷	228	2016	-	医学部本館脇樹木	立会	2017.2.23	0.2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	229	2016	-	農学部サッカー部室	立会	2017.3.1、4.17、8.29	109	堀内・大成	遺構・遺物なし
本郷	230	2016	-	育徳園柵修理	立会	2017.3.22～24、28、30	(35)	原	遺構・遺物なし
本郷	125-7	2017	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A棟II期 (16区・17区)	事前	2017.4.1～7.28	3621	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
本郷	231	2017	HR115	理学部1号館南側外構	事前	2017.5.10、29	7	原	遺構・遺物なし
本郷	232	2017	-	動物センター前土質調査	立会	2017.4.25	1	原	遺構・遺物なし
本郷	233	2017	-	アカデミックコモンズ雨水排水管	立会	2017.4.12・13	7	堀内	遺構・遺物なし
本郷	234	2017	-	アカデミックコモンズ補給水管盛替え	立会	2017.5.25	11	大成	遺構・遺物なし
本郷	235	2017	HNY	看護職員等宿舍5号棟擁壁	事前	2017.8.4～20	53	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13所収
本郷	236	2017	-	野球場アルペン改修	立会	2017.7.14.15.22.23	376	原	遺構・遺物なし
本郷	237	2017	-	理学部1号館ガス管・配水管	立会	2017.8.23.29	15	原	遺構・遺物なし
本郷	238	2016	-	第一研究棟中庭排水切り替え	立会	2016.5.19、20	13	追川	近世
本郷	239	2017	-	御殿下グラウンド西側舗装改修	立会	2017.9.16	4.7	清水	遺構・遺物なし
本郷	240	2017	-	工学部6号館北立ち枯れ樹木伐採	立会	2017.9.19	8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	241	2017	-	列品館西側舗装改修	立会	2017.9.20	13	原	遺構・遺物なし
本郷	242	2017	-	入院棟B棟東側道路改修	立会	2017.9.14	500	追川	遺構・遺物なし
本郷	243	2017	-	中央食堂その他改修(EV新設)	立会	2017.12.4	12	原	遺構・遺物なし
本郷	244	2017	HKO18	基幹・環境整備(言問い通り横断管路)	事前	2018.3.30～4.2、5、12、 16、5.10、16、17、12.17	203	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
本郷	245	2017	HCRB17	クリニカルリサーチセンターB棟	事前	2018.1.15～4.4	93	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
本郷	246	2017	-	育徳園石組補修	立会	2017.12.6	0.6	原	近代(裏込から磁器、レンガ)
本郷	247	2017	-	中央食堂改修機械設備	立会	2018.1.18、19	26	原	遺構・遺物なし
本郷	248	2017	-	農学部グラウンド防球フェンス新設	立会	2018.1.16	5	堀内	遺構・遺物なし
本郷	249	2017	-	医学部総合中央館1階改修・既設管接続	立会	2018.2.15	4	大成	遺構・遺物なし
本郷	250	2017	-	山上会館龍岡門別館東側及び広報 センター東側実生木伐採・抜根作業	立会	2018.3.20	8	香取	遺構・遺物なし
本郷	251	2017	-	医学部総合中央館中庭照明改修	立会	2018.3.22	1	香取	遺構・遺物なし
本郷	252	2017	-	旧東大出版会北側植栽整備	立会	2018.3.23	3	堀内	遺構・遺物なし
本郷	253	2017	-	外來診療棟西側配管	立会	2018.3.23～24	6	小川	遺構・遺物なし
本郷	254	2017	-	育徳園低木撤去植替え	立会	2018.3.27	50	大成	遺構・遺物なし
本郷	255	2018	-	外來診療棟南側こいのぼり基礎	立会	2018.4.6	0.6	小川	遺構・遺物なし
本郷	256	2018	-	医学部附属病院バス停渡り配管	立会	2018.5.2	10	小川	遺構・遺物なし
本郷	257	2018	-	学生第二食堂横広場整備	立会	2018.5.10	15	大成	遺構・遺物なし
本郷	258	2018	-	学生第二食堂前外構	立会	2018.6.22	506	大成	遺構・遺物なし
本郷	259	2018	-	医学部附属病院南研究棟外構	立会	2018.7.23	53	追川	遺構・遺物なし
本郷	260	2018	-	農学部7号館西側道路漏水	立会	2018.10.9	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	261	2018	-	工学部11号館南側ハンドホール補修	立会	2018.10.22	0.2	小川	遺構・遺物なし
本郷	262	2018	-	プレハブ研究A棟案内表示板設置	立会	2018.10.25	0.5	小川	遺構・遺物なし
本郷	263	2018	-	育徳園倒木	立会	2018.10.1、16、17	7	原	近代盛土、遺物なし
本郷	264	2018	-	向ヶ丘ファカルティハウス中庭整備	立会	2018.11.5	96	香取	遺構・遺物なし

東京大学構内遺跡の調査

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	265	2018	-	最先端臨床研究センター西側喫煙所 衛立設置	立会	2018.121	3	香取	遺構・遺物なし
本郷	266	2018	HKD18	基幹・環境整備 (電気管路)	事前	2018.12.17 ~ 21、 2019.1.28 ~ 2.5	57	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	267	2018	-	東御長屋井戸跡サイン板設置	立会	2019.1.24	0.5	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	268	2018	-	育徳園路等補修	立会	2019.1.21、22、23、25、 28、29、30、31、2.1	-	原	池底確認、遺物なし。一段目護岸杭列園路側 10.5 m、二段目護岸杭列池側 21 m
本郷	269	2018	-	農学部ファカルティハウス外構ブロック塀 補強	立会	2019.1.31、2.1	9	原	遺構・遺物なし
本郷	270	2018	-	野球場防球ネット増設	立会	2019.2.20、21、27	6	香取	遺構・遺物なし
本郷	271	2018	-	東洋文化研究所北側外構スロープ手摺 撤去	立会	2019.2.28	1	小川	遺構・遺物なし
本郷	272	2018	-	野球場フェンス補修	立会	2019.3.6	2	原	遺構・遺物なし
本郷	273	2018	-	第二食堂前植栽帯改修	立会	2019.3.8	105	小川	遺構・遺物なし
本郷	274	2018	-	本郷通り囲障改修	立会	2019.3.20	8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	275	2019	-	野球場正面入口前マンホール嵩下げ	立会	2019.4.24	3	香取	遺構・遺物なし
本郷	276	2019	-	言問通り横断管路	試掘	2019.7.8 ~ 8.2	112	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収
本郷	277	2019	HWK19	医学部附属病院基幹整備共同溝	事前	2019.8.5 ~ 2021.2.22	281	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	278	2019	-	農学生命科学図書館他ブロック塀改修	立会	2019.8.2	1	原	遺構・遺物なし
本郷	279	2019	-	第2本部棟系統排水管改修	立会	2019.8.3	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	280	2019	-	仮設テラス取説	立会	2019.8.23、24、26	16	香取	遺構・遺物なし
本郷	281	2019	-	工学部別品館耐震	立会	2019.10.8	31	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収
本郷	282	2019	-	安田講堂サイン設置	立会	2019.10.18	1	堀内	遺構・遺物なし
本郷	283	2019	-	給水管改修	立会	2019.12.9	352	原・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収
本郷	284	2019	-	医学部5号館改修 (その1) 同 (その2)	立会	2019.12.5、2020.3.2、16	1224	堀内	遺構・遺物なし (レンガ基礎確認)
本郷	285	2019	-	医学部2号館本館耐震改修	立会	2019.12.10	2	追川	遺構・遺物なし
本郷	286	2019	-	農学部1号館耐震改修工事に伴う仮設 建物	試掘	2019.12.18、19、2020.2.25	361	大成	A ~ D 区あり。A 区調査必要なし、B 区立会、C・ D 区試掘遺構なし (震災に伴う灰層にバックされたレ ンガ基礎確認)
本郷	287	2019	-	医学部3号館南西側高圧ケーブル敷設	立会	2020.1.22、29	40	大成	遺構・遺物なし
本郷	288	2019	HYK20	野球場北側擁壁改修	試掘	2020.1.9 ~ 11.9	387	堀内・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』16 所収
本郷	289	2019	-	理学部三角広場改修	立会	2020.2.3、2.12 ~ 13、3.2 ~ 3、3.16、4.1、4.11、4.16、 5.22、6.10、6.26、7.14、8.20	1,341	小川・堀内	遺構・遺物なし
本郷	290	2020	-	総合研究博物館改修機械設備	立会	2020.5.13	3	大成	遺構・遺物なし
本郷	291	2010	-	農学部3・5号館間	立会	2010.6.10	16	原	遺構・遺物なし
本郷	292	2010	-	弥生門前掘削	立会	2010.6.11	30	原	遺構・遺物なし
本郷	293	2020	-	農学部1号館電気	立会	2020.5.11	39	堀内	遺構・遺物なし
本郷	294	2019	-	附属図書館改修Ⅳ期	立会	2020.3.26、7.20	62	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	295	2019	-	七徳堂東側樹木樹勢回復作業	立会	2019.3.26	5	大成	遺構・遺物なし
本郷	296	2019	-	浅野地区旧宿舍付近車止め設置	立会	2020.3.30	0.4	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	297	2020	HOK II 20A HOK II 20Y	基幹・環境整備 (言問通り横断管路) Ⅱ期	事前	2020.4.7、5.7 ~ 7.31	369	大成・堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	298	2020	HA120	農学部1号館機械設備	試掘	2020.6.8 ~ 6.16	148	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	299	2020	-	共同溝東側階段	立会	2020.9.3 ~ 7	4	追川	遺構・遺物なし
本郷	300	2020	-	工学部5号館改修電気設備	立会	2020.09.14	4	小川	遺構・遺物なし
本郷	301	2020	-	赤門前銀杏根系調査	立会	2020.10.6	5	香取	遺構・遺物なし
本郷	302	2020	-	農学部1号館改修 (設備)	立会	2020.10.20	7	堀内	遺構・遺物なし
本郷	303	2020	-	弥生キャンパス消火栓改修	立会	2020.12.19	5	小川	遺構・遺物なし
本郷	304	2020	-	工学部1号館地下1階部材実験室改修 機械設備	立会	2021.12.21	2	大成	遺構・遺物なし
本郷	305	2020	-	中央食堂熱源改修その他	立会	2021.1.26、2.10、4.5	173	小川	遺構・遺物なし
本郷	306	2020	-	情報基盤センター Hub サイト移設に伴う 通信設備改修	立会	2021.2.12	4	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	307	2020	-	第2期誘導ブロック敷設に伴う雨水枡移設	立会	2021.2.18	2	小川	遺構・遺物なし。※福武ホール前
本郷	308	2020	-	外灯 C-5_C-61 電源改修	事前	2021.3.12	9	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15 所収
本郷	309	2021	-	農学部1号館 (2期) 配管	立会	2021.6.29	13	小川	遺構・遺物なし
本郷	310	2021	-	文学部アネックス南側囲障改修	立会	2021.6.30	9	大成	遺構なし。硬化面1枚。肥前磁器片1点、 瀬戸・美濃系プリント碗片1点、焼瓦
本郷	311	2021	-	医学部附属病院共同溝給水主管改修	立会	2021.9.24 ~ 29	19	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15 所収
本郷	312	2021	-	農学部1号館エレベーターピット新設	立会	2021.7.16、7.26	12	堀内	遺構・遺物なし
本郷	313	2021	-	文学部アネックス南側囲障改修2	立会	2021.9.7	12	大成	遺構・遺物なし
本郷	314	2021	-	農学部東側外構ツバキ移植	立会	2021.9.15	4	香取	遺構・遺物なし
本郷	315	2021	-	医学部附属病院管理棟耐震改修	立会	2021.11.8	172	追川	遺構・遺物なし
本郷	316	2021	-	医学部附属病院臨床研究棟西改修 電気設備工事	立会	2021.11.11 ~ 12	8	追川	遺構・遺物なし
本郷	317	2021	-	赤門脇トイレ樹木調査	立会	2021.10.15	4	香取	遺構・遺物なし
本郷	318	2021	-	工学部5号館 (Ⅱ期) 改修電気設備	立会	2021.11.26	1	香取	遺構・遺物なし
本郷	319	2021	-	伊藤国際学術研究センター門 (仮称) サイン板設置	立会	2021.12.27	2	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	320	2021	-	農学部3号館ヘリウム回収配管改修	立会	2022.1.27	22	小川	遺構・遺物なし
本郷	321	2021	-	医学部本館2号館付近標識修繕	立会	2022.1.28	0.1	山下	遺構・遺物なし
本郷	322	2021	HN121	農学部1号館スロープ等新設	事前	2022.2.8 ~ 15	51	山下	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15 所収
本郷	323	2021	-	薬学部本館漏水	立会	2022.1.22	0.8	堀内	遺構・遺物なし

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	324	2021	-	医学部附属病院臨床研究棟西改修鉄骨階段	立会	2022.3.8	11	追川	遺構・遺物なし
本郷	325	2021	-	医学部附属病院臨床研究棟西改修機械設備	立会	2022.3.16	3	追川	遺構・遺物なし
本郷	326	2021	-	農学第2号館西側バイク駐車場浸透槽設置	立会	2022.3.15	0.9	小川	遺構・遺物なし
本郷	327	2021	-	本郷通り囲障改修 (その2)	立会	2022.2.28、3.4	52	堀内	遺構・遺物なし
本郷	328	2022	-	工学部5号館 (Ⅱ期) 改修その他	立会	2022.3.30、4.15	276	堀内	遺構・遺物なし
本郷	329	2022	-	附属病院内科動物舎取壊しに伴うガス配管撤去	立会	2022.5.13	0.1	追川	遺構・遺物なし
本郷	330	2022	-	環境安全研究センターバグフィルター跡地土間撤去	立会	2022.07.22	30	香取	遺構・遺物なし
本郷	331	2022	-	薬学系総合研究棟前グレーチング整備	立会	2022.07.30	12	小川	遺構・遺物なし
本郷	332	2022	-	山上会館本館1階汚水配管更新	立会	2022.8.24.26	19.5	追川	遺構なし・瓦片1点
本郷	333	2022	-	赤門耐震基礎診断	立会	2022.11.28～30	1.7	堀内	赤門基礎構造を確認
本郷	334	2022	-	弥生宿舍撤去作業他	立会	2023.1.11、12	2.5	小川	遺構・遺物なし
本郷	335	2022	-	本郷通り囲障掘削	立会	2023.1.24、30	2.9	小川	遺構・遺物なし

駒場 I 地区調査一覧

地区	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
駒I	1	1991	-	教養学部保健センター	試掘	1992.3.19	28	武藤	遺構・遺物なし
駒I	2	1993	FGE	教養学部情報教育棟	事前	1993.8.10～10.20	940	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	3	1993	-	数理学部研究科棟	試掘	1993.5.8～15	350	堀内	縄文
駒I	4	1994	-	数理学部研究科棟擁壁	立会	1995.1.20～27	-	武藤	近代
駒I	5	1994	-	数理学部研究科棟関連東電マンホール増設・管路新設	立会	1995.1.24～4.12	-	武藤	縄文・平安
駒I	6	1995	-	教養学部伝統文化活動施設	試掘	1995.9.11	8	武藤	遺構・遺物なし
駒I	7	1995	-	教養学部学生用浴室・シャワー施設	試掘	1995.9.11	8	武藤	遺構・遺物なし
駒I	8	1995	-	数理学部研究科棟ガス・水道管理設	立会	1995.5.17～18、6.27～28	-	武藤	遺構・遺物なし
駒I	9	1996	数理	数理学部研究科Ⅱ期棟	事前	1996.12.12～1997.2.6	1160	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2所収
駒I	10	1997	-	教養学部キャンパス・プラザ	試掘	1997.4.24	41	武藤	遺構・遺物なし
駒I	11	1999	-	教養学部総合研究棟	試掘	1999.7.26～8.3	130	原	遺構・遺物なし
駒I	12	2000	KL	駒場図書館	事前	2000.7.27～8.30	1778	大成・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
駒I	13	2001	-	教養学部総合研究棟	試掘	2001.10.24～25	60	堀内	遺物・遺構なし
駒I	14	2001	-	教養学部総合研究棟	試掘	2002.3.25～26	53	大成	遺物・遺構なし
駒I	15	2005	KCP	コミュニケーションプラザ	事前	2005.4.22～7.21	4327	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	16	2003	KGK	国際学術交流棟	事前	2003.5.16～7.9	620	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
駒I	17	2005	-	教養学部5号館他改修	立会	2005.8.10、17、19	300	大成	遺構・遺物なし
駒I	18	2006	-	教養学部8号館エレベーター敷設	立会	2006.10.20	-	堀内	遺構・遺物なし
駒I	19	2006	-	教養学部ロッカー棟	試掘	2006.11.13～16	21	堀内	遺構・遺物なし
駒I	20	2007	-	初年次活動センター新築	立会	2007.12.20	85	追川	遺構・遺物なし
駒I	21	2009	-	基幹整備 (排水)	立会	2010.1.14、21、28	34	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	22	2009	-	理想の教育棟	試掘	2010.2.1～5	220	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	23	2011	-	巻薬練習場	立会	2012.1.23	12	成瀬	遺構・遺物なし
駒I	28	2014	-	教養学部並木通り根上り対策	立会	2014.9.4、8、10	64	大成	遺構・遺物なし
駒I	29	2014	-	電話交換機設備更新	立会	2014.11.29	7	堀内	遺構・遺物なし
駒I	30	2014	-	教養学部並木通り舗装改修	立会	2015.2.3、12、23、3.10	77	大成	遺構・遺物なし
駒I	31	2015	-	6号館改修に伴う埋設管敷設	立会	2015.7.23	4	小川・平石	遺構・遺物なし
駒I	32	2015	-	正門前排水改修	立会	2015.8.21、25	50	香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
駒I	33	2015	-	並木通り舗装改修 (Ⅱ期)	立会	2016.2.4、15、17、22、3.10、14	824	原	遺構・遺物なし
駒I	34	2016	-	野球場排水改修	立会	2017.2.8、14	121	原	遺構・遺物なし
駒I	35	2016	-	教養学部5号館引込幹線	立会	2017.3.6～8	28	原	遺構・遺物なし
駒I	36	2017	-	並木通り舗装改修 (Ⅲ期)	立会	2018.1.30	481	原	遺構・遺物なし
駒I	37	2017	KKT18	駒場仮設体育館	事前	2018.2.5～16	376	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	38	2017	-	駒場体育館	試掘	2018.3.5～3.26	155	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	39	2018	-	大隈良典博士ノーベル賞受賞記念碑	立会	2018.4.16	0.4	成瀬	遺構・遺物なし
駒I	40	2018	-	駒場体育館新営に伴う電気配管掘削	立会	2018.5.3～5、15、21、6.6、7、22、25～27、7.26	183	原	遺構・遺物なし
駒I	41	2018	KKT18	駒場仮設体育館外構	立会	2018.6.6、6.8	38	堀内	遺構・遺物なし
駒I	42	2018	KTS18	駒場体育館新営に伴う機械設備切廻	事前	2018.6.28、7.2、3、18	25	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	43	2018	KTK18	駒場体育館	事前	2018.7.2～8.27	430	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	44	2018	-	7号館西側排水管破損修理	立会	2018.10.18	22	小川	緊急対応遺構・遺物なし
駒I	45	2018	-	テニスコート夜間照明設置	立会	2018.11.30	36	大成	遺構・遺物なし
駒I	46	2018	-	野外トイレ解体	立会	2018.12.20、21、25、2019.2.4、4.24	90	原	遺構・遺物なし
駒I	47	2018	-	駒場体育館	立会	2019.2.27、3.8、4.5	416	原	遺構・遺物なし
駒I	48	2018	-	第一グラウンド改修	立会	2019.2.6	1	香取	遺構・遺物なし
駒I	49	2019	-	東京電力ケーブル等撤去	立会	2019.12.6、12.13、18	47	堀内	遺構・遺物なし
駒I	50	2019	-	駒場体育館雨水浸透	立会	2020.2.27	20	堀内	遺構・遺物なし
駒I	51	2019	-	駒場体育館周辺	立会	2020.3.2、4、13	84	堀内	遺構・遺物なし
駒I	52	2019	-	駒場Iブロック掘削対策	立会	2020.1.31、2.6、17、27	86	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収



東京大学構内遺跡の調査

地区	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
駒I	53	2020	-	美術博物館学際交流展示室空調設備改修	立会	2020.6.2、7.13、9.3、9.14	17	小川	遺構・遺物なし
駒I	54	2020	-	トレーニング体育館下の土壌汚染調査	立会	2020.9.3、4	0.3	香取	遺構・遺物なし
駒I	55	2021	-	5号館他教室コンセント増設その他	立会	2022.2.2	49	小川	遺構・遺物なし。煉瓦基礎あり
駒I	56	2022	-	裏門防犯カメラ用ポール設置	立会	2022.7.25	0.8	香取	煉瓦基礎、遺構?プランあり
駒I	57	2022	-	講義棟給水管等切廻	立会	2022.8.31、10.13	184	追川	遺構・遺物なし
駒I	58	2022	-	講義棟	試掘	2022.10.17 ~ 21	65	追川	近代・近世
駒I	59	2022	-	講義棟	事前			追川	
駒I	60	2022	-	北側テニスコート照明増設	立会	2023.2.16	1.3	追川	遺構・遺物なし
駒I	61	2022	-	北側テニスコート南側での苗圃整備	立会	2023.2.16	25	追川	遺構・遺物なし

駒場II地区調査一覧

地区	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	遺構・遺物の年代
駒II	1	1996	-	生産技術研究所校舎	試掘	1996.5.14	25	武藤	遺構・遺物なし
駒II	2	1996	-	先端科学技術研究センター校舎4号館	試掘	1996.5.15 ~ 17	92	武藤	遺構・遺物なし
駒II	3	1996	-	生産技術研究所校舎	試掘	1996.10.24 ~ 25	20	武藤	遺構・遺物なし
駒II	4	1998	-	設備センター	試掘	1998.4.27	13	武藤	遺構・遺物なし
駒II	5	1998	-	国際・産学共同研究センター	試掘	1998.8.5	90	原	縄文
駒II	6	1998	-	生産技術研究所事務図書棟暫設施設	試掘	1998.12.13 ~ 15	50	大成	遺構・遺物なし
駒II	7	2002	-	駒場オーブンプラトリー	試掘	2002.12.5	55	成瀬	縄文土器 (阿玉台)
駒II	8	2003	-	総合研究実験棟	試掘	2003.8.6	34	追川	遺構・遺物なし
駒II	9	2008	-	保育施設	立会	2008.7.9 ~ 14	-	大成	遺構・遺物なし

白山構内調査一覧

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
白山	1	1991	-	理学部附属植物園研究温室I期 (原町遺跡)	試掘	1991.7.24 ~ 25	5	武藤	縄文
白山	2	1992	KO	理学部附属植物園研究温室II期 (原町遺跡)	事前	1992.5.25 ~ 6.6	200	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
白山	3	2000	KI	総合研究博物館小石川分館増築	事前	2000.11.27 ~ 12.4	70	成瀬・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
白山	4	2002	KNK	農学生命科学研究科附属小石川樹木園・根圏観察室	事前	2002.9.24 ~ 10.7	91	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
白山	5	2007	BGY07	理学系研究科附属植物園・医学部創設150周年記念 (小石川養生所復元) 建物	試掘	2007.9.3 ~ 4	43	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
白山	6	2010	KBG10	理学系研究科附属植物園本園・下水・電源ケーブル埋設柵・埋設溝	事前	2010.9.6 ~ 15	102	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
白山	7	2010	-	理学系研究科附属植物園本園・旧小石川養生所井戸柵改修	立会	2011.1.17	-	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
白山	8	2011	-	農学生命科学研究科小石川樹木園・万年柵改修	立会	2011.4.1	30	成瀬	遺構・遺物なし
白山	9	2016	B-KSH-H28	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第1地点	事前	2016.9.24 ~ 2018.1.31	2,715	成瀬・香取・小川・平石	文京区支援事業 縄文・近世・近代・現代
白山	10	2017	B-KSH-3T	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第3地点	試掘	2018.1.22 ~ 2.2	111	成瀬・香取・小川	文京区支援事業 近世・近代・現代
白山	11	2019	B-KSH-3	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第3地点	事前	2019.5.21 ~ 11.29	526	成瀬・小川	文京区支援事業 縄文・近世・近代・現代
白山	12	2022	-	チェコ共和国 EU 議長国事業 ウクライナ連帯支援桜植樹	立会	2022.11.22	0.28	成瀬	縄文

白金台構内調査一覧

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
白金台	1	1992	-	医科学研究所看護師宿舎	試掘	1992.7.1	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	2	1994	-	医科学研究所 MRI - CT 棟装置棟	試掘	1995.3.9	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	3	1995	-	医科学研究所ヒトゲノム解析センター棟	試掘	1995.7.11	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	4	2000	-	医科学研究所附属病院診療棟・総合研究棟新営	試掘	2000.7.5 ~ 7	53	追川	江戸
白金台	5	2000	SBS00	医科学研究所附属病院診療棟・総合研究棟	事前	2000.10.27 ~ 2001.3.9	4280	堀内・大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 17 医科学研究所附属病院 A 棟地点』所収
白金台	6	2021	SY21	白金台開階改修	事前	2020.2.3、6.3、2021.2.1 ~ 2.10、2.24 ~ 6.21	589	堀内・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収
白金台	7	2022	-	NTT 電柱	立会	2022.9.16	0.3	香取	遺構・遺物なし
白金台	8	2022	-	医科学研究所3号館 (II期) 改修	立会	2022.11.29、11.30、12.20	31	香取	遺構・遺物なし

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
白金台	9	2022	-	合同ラボ棟改修	立会	2023.2.2	79.6	堀内	遺構・遺物なし

その他の構内調査一覧

構内	行政区	年度	略称 (旧略称)	調査名 [旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
他	文京区	1991	-	追分学寮	試掘	1991.8.23 ~ 24	16	成瀬	近世
他	豊島区	1991	-	豊島学寮	試掘	1991.8.26 ~ 30	29	武藤	遺構・遺物なし
他	三鷹市	1991	-	井の頭学寮	試掘	1991.9.30 ~ 10.15	20	成瀬	遺構・遺物なし
他	港区	1991	-	白金学寮	試掘	1991.11.25 ~ 26	10	武藤	近世
他	三鷹市	1992	三广 1	三鷹国際交流会館 (長嶋遺跡) I期	事前	1992.6.29 ~ 9.19	2100	堀内・成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 8 長嶋遺跡』
他	三浦市	1992	MMBS	理学部附属臨海実験所新研究棟 (新井城)	事前	1992.7.20 ~ 9.25	1700	武藤・寺島	『東京大学構内遺跡調査研究年報』1 所収
他	三浦市	1993	-	理学部附属臨海実験所新研究棟関連電機・水道管路新設	立会	1993.4.20 ~ 23	-	武藤	中世
他	三浦市	1993	-	理学部附属臨海実験所新研究棟関連海水循環水路新築	立会	1993.5.7 ~ 8	-	武藤	中世
他	三鷹市	1993	三广 2	三鷹国際交流会館 (長嶋遺跡) II期	事前	1993.5.28 ~ 11.8	3280	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 8 長嶋遺跡』
他	三鷹市	1994	三广 3	三鷹国際交流会館 (長嶋遺跡) III期	事前	1994.5.13 ~ 8.17	1950	堀内・鮫島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 8 長嶋遺跡』
他	千葉市	1994	GMB	検見川運動場体育セミナーハウス (玄藩所遺跡)	事前	1994.7.19 ~ 8.21	496	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9 所収
他	柏市	1996	-	柏キャンパス校舎	試掘	1996.10.28 ~ 29	125	武藤	遺構・遺物なし
他	文京区	2007	-	追分国際学生宿舎	事前	2007.12.3 ~ 2008.3.25	776	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 所収
他	文京区	2016	メジロ 15	目白台国際宿舎	事前	2016.6.17、21、 2016.7.20 ~ 2017.4.4	9373	大成・小川 平石	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
他	文京区	2018	-	目白台国際宿舎・外構樹木	立会	2018.9.26	15	大成	遺構・遺物なし
他	文京区	2019	-	目白台国際宿舎・外構整備その 2	立会	2019.4.3、4、25、5.16	-	大成	遺構・遺物なし



世界測地系  
S=1/4000

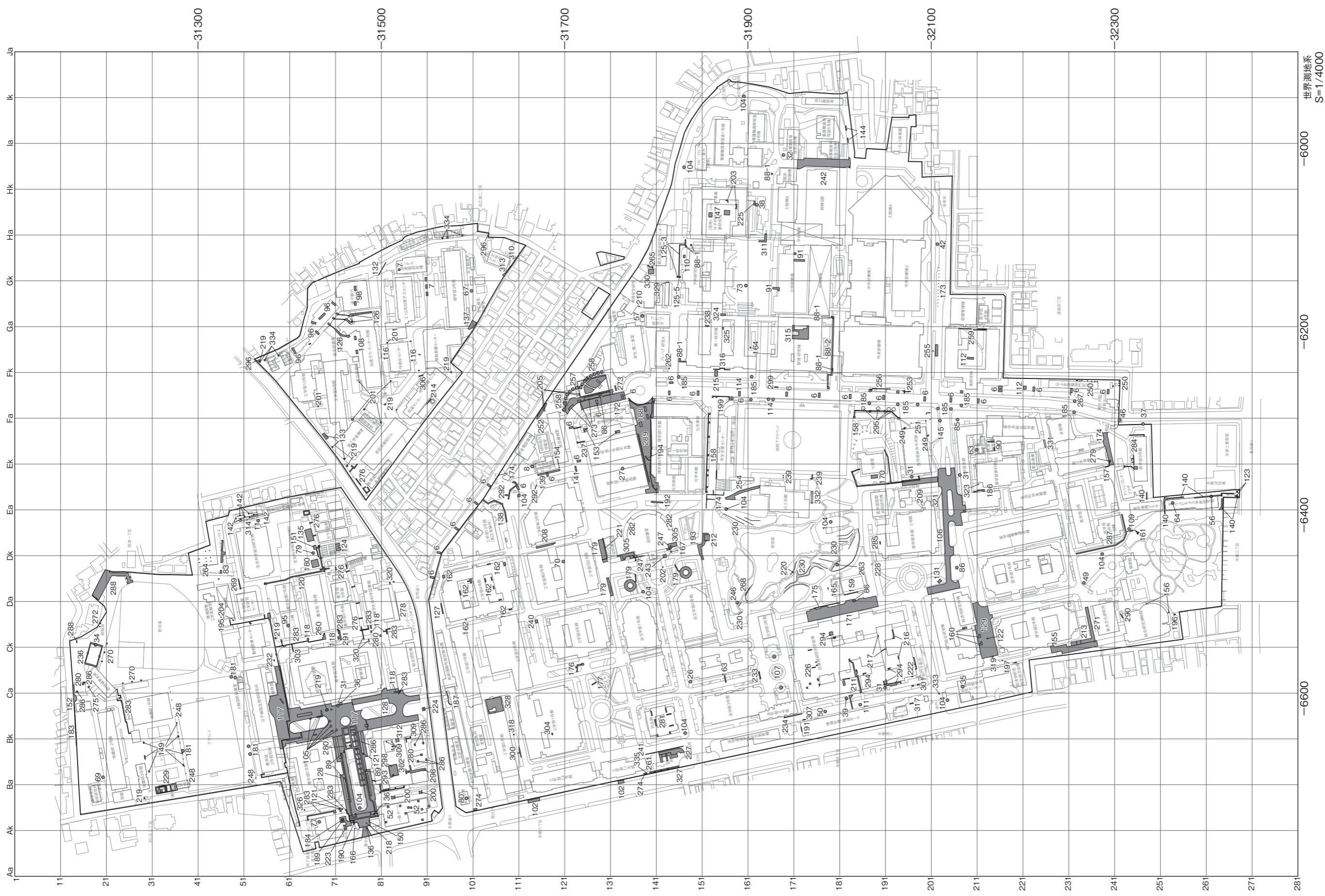
-6000

-6200

-6400

-6600

本郷構内調査地点(1)事前調査



-31300

-31500

-31700

-31900

-32100

-32300

世界測地系  
S=1/4000

-6000

-6200

-6400

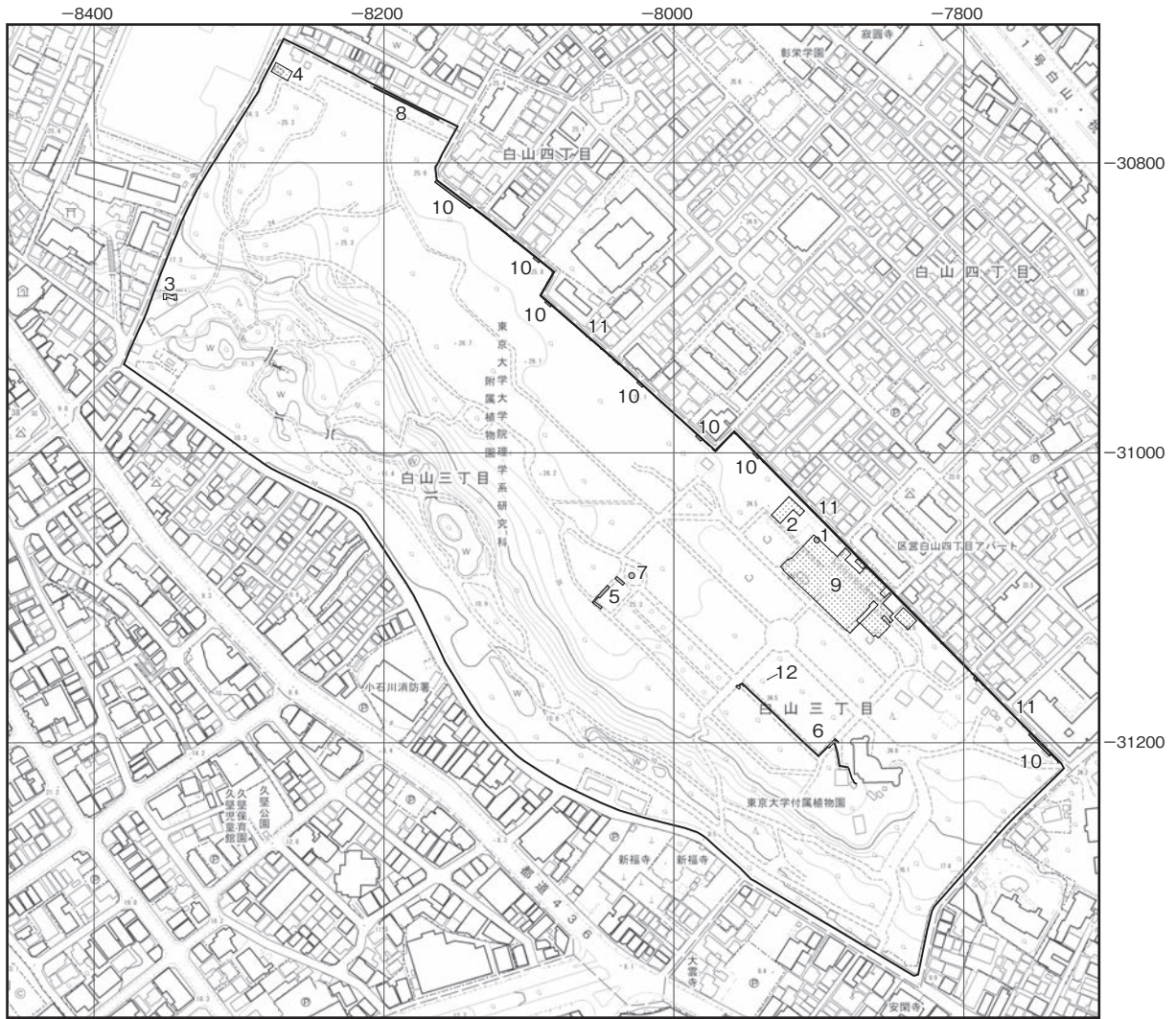
-6600

本郷構内調査地点(2) 試掘・立会調査



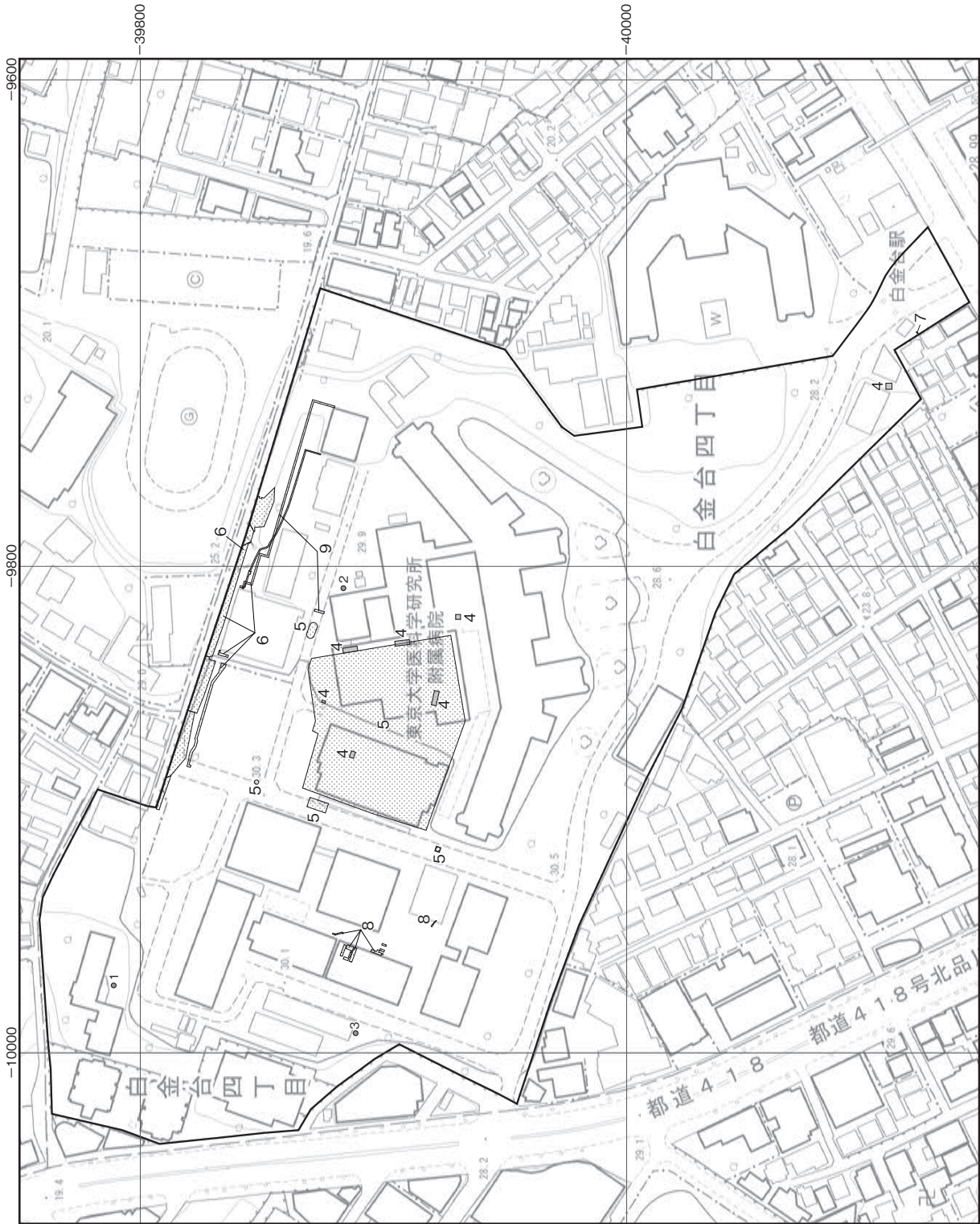
世界測地系  
S=1/4000

駒場I地区調査地点



白山構内調査地点

世界測地系  
S=1/5000



世界測地系  
S=1/2500

白金台構内調査地点





## 第 I 章 埋蔵文化財調査の概要（事前・試掘・立会）

2022年度は、本郷構内、駒場 I 地区、白山構内、白金台構内調査において、以下の通りの調査を室員 7 名で対応した。

本郷構内では立会調査 8 件を実施した。駒場 I 地区では試掘調査が 1 件、立会調査が 4 件、白山構内では立会調査が 1 件、白金台構内では立会調査 3 件を実施した。

また 2023 年度にかけて継続中の、駒場 I 地区の講義棟新営、目白台の（仮称）文京区目白台 3 丁目計画の事前調査は、実施年度は 2023 年度として扱う。

### 本郷構内

＜立会調査＞ 8 件

2022 年 3 月 30 日、4 月 15 日 本郷 328 工学部 5 号館（Ⅱ期）改修その他（担当：堀内）

2022 年 5 月 30 日 本郷 329 附属病院内科動物舎取壊しに伴うガス配管撤去（担当：追川）

2022 年 7 月 22 日 本郷 330 環境安全研究センターバグフィルター跡地土間撤去（担当：香取）

2022 年 7 月 30 日 本郷 331 薬学系総合研究棟前グレーチング整備（担当：小川）

2022 年 8 月 24、26 日 本郷 332 山上会館本館 1 階污水配管更新（担当：追川）

2022 年 11 月 28、30 日 本郷 333 赤門耐震基礎診断（担当：堀内）

2023 年 1 月 11～12 日 本郷 334 弥生宿舎撤去作業他（担当：小川）

2023 年 1 月 24、30 日 本郷 335 本郷通り困障掘削（担当：小川）

### 駒場 I 地区

＜試掘調査＞ 1 件

2022 年 10 月 17～21 日 駒 I 58 講義棟新営（担当：追川）

＜立会調査＞ 4 件

2022 年 7 月 25 日 駒 I 56 裏門防犯カメラ用ポール設置（担当：香取）

2022 年 8 月 31 日、10 月 13 日 駒 I 57 講義棟給水管等切廻（担当：追川）

2023 年 2 月 16 日 駒 I 60 北側テニスコート照明増設（担当：追川）

2023 年 2 月 16 日 駒 I 61 北側テニスコート南側での苗圃整備（担当：追川）

### 白山構内

＜立会調査＞ 1 件

2022 年 11 月 22 日 白山 12 ウクライナ連携支援桜植樹（担当：成瀬）

### 白金台構内

＜立会調査＞ 3 件

2022 年 9 月 16 日 白金台 7NTT 電柱（担当：香取）

2022 年 11 月 29、30 日、12 月 20 日 白金台 8 医科学研究所 3 号館（Ⅱ期）改修（担当：香取）

2022 年 2 月 2 日 白金台 9 合同ラボ棟改修（担当：堀内）

## 第1節 本郷構内の立会調査

### 1. 本郷 333 赤門耐震基礎診断

所在地 東京都文京区本郷 7-3-1 (文京区 No.47 本郷台遺跡群内)

調査期間 2022年11月28日～30日

調査面積 1.68 m<sup>2</sup>

調査担当 堀内秀樹

#### 1. 調査の経緯と経過

東京大学は、赤門（重要文化財旧加賀屋敷御守殿門）における耐震補強事業を進めており、補強に際しての工法を検討するために、赤門の基礎構造の状況を確認することを計画した（1、2図）。確認のための試掘地点は、文京区 No.47「本郷台遺跡群」として周知の遺跡として登録されており、これを行うにあたって埋蔵文化財の状況を確認する必要があった。文京区との協議を行い、立会調査を行うこととなった。

調査は、2022年11月28～30日に行い、面積は1.68 m<sup>2</sup>である。調査は埋蔵文化財調査室によって行われ、同室員堀内秀樹が担当した。

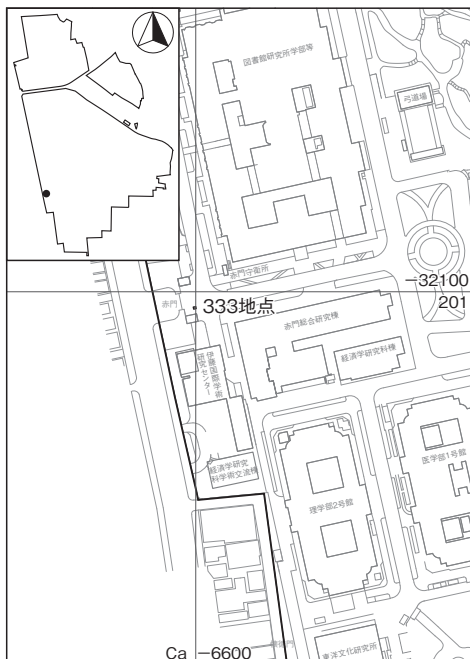
#### 2. 立会調査の概要

調査は、赤門を支える4本の柱のうち、南東の柱の南側を東西1.4m、南北1.2mの範囲を対象に行った（3図）。掘削は基本的に人力で行った。現表アスファルトにカッターを入れ調査を開始したところ、GL-20cm

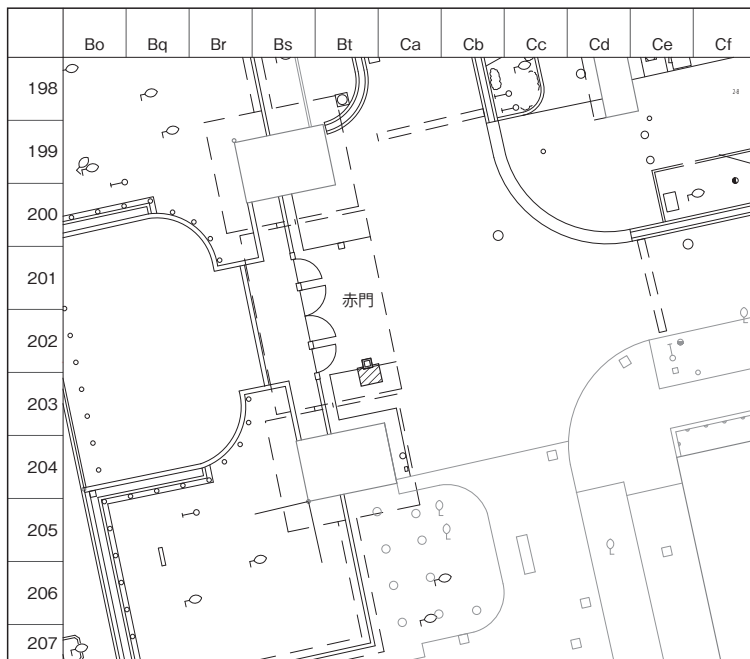
（標高23.6m付近）で調査範囲全体にコンクリートのタタキが確認された（5図）。タタキの上面までは、流れたようなタールが付いた破碎礫が充填されていた。そのタールは門柱礎石、タタキ上面にも付着していた（6図）。以下は、土層の観察のために西半を残して東側の調査を行った。

コンクリートのタタキの厚さは15cm程度で、これを剥がすと門柱の礎石の下からコンクリートが確認された。このコンクリートの上部は平滑な面を作り出しており、門柱礎石はこの面に設置されていると推定されたことから、これが礎石下部の基礎と判断された。さらに礎石周囲はセメントによって固定されていたことが確認された（7図）。また、このコンクリート基礎を構築した際の掘り込みが、礎石から約80cm外側から確認された。

コンクリート基礎の外表面は平滑で、外表面に残る痕跡から板による型枠にコンクリートを流し込んで構築されたと推定できた（8図）。板枠周囲には、コンクリートの破碎ブロックがいわゆる小端立てで密に配され、



1図 調査地点位置図



2図 調査位置図

※1Grid 5m×5m

補強されていた（3 図土層図 3 層、9 図）。4 層以下は、コンクリート片、瓦片、漆喰片が混じるややしまりの弱い土で埋められていたが、コンクリート基礎下にはセメントが混ざった玉砂利が密に敷かれていた。堀方の坑底は、関東ローム上位層（ローム漸移層と推定された）が南側壁付近の一部で確認されたのみであり、基礎の下付近はさらに落ち込んでいたが、基礎強度を損なわないためそれ以下の調査は行わなかった。したがって、この落ち込みが基礎に伴う掘り方か確認できなかった。

コンクリート基礎西側の状況を把握するために、調査区北西隅の東西 30cm、南北 40cm の範囲でコンクリートのタタキ以下の調査を行ったところ、基礎のコーナーが検出し、基礎の南辺は 90cm（半間）であることが確認された。高さは、礎石を載せる天端より 65cm 程度で、上部 20cm 程度はセメント分が多く平滑な表面であったが、下部 40cm 程は玉砂利が多く混入していた。各面は、ほぼ垂直に作られ、直方体であると推定された（10 図）。

出土遺物は、3～5 層から漆喰が付着した近世～近代の瓦片、18 世紀の陶磁器片などが少量出土した。

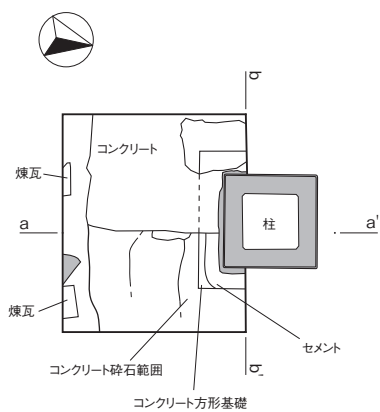
### 3. 考察とまとめ

今回の試掘調査では、現在の赤門基礎がコンクリート基礎の上に礎石を配した構造であることが確認された。近代の赤門修繕工事記録をたどると、基礎構造の変更が可能な全解体修繕を行った工事は、本来の位置から 50 尺（15 m 程度）西へ位置替えを行った明治 36（1903）年と赤門、番所、繫堀、袖堀の解体修繕を行った昭和 36（1961）年の 2 回である。どちらかの修繕工事の際に現在のコンクリートを伴う基礎へと変更されたと推定された。

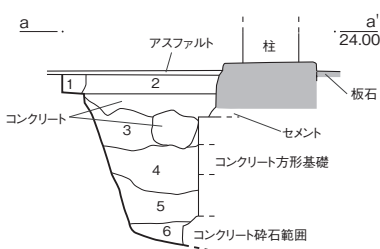
改修記録には、明治次改修記録は残っておらず、昭和次の改修記録は 2 点の資料が知られる。「昭和 35 年度赤門保存修理工事積算書」（文化財保護委員会事務局建造物課 1960）の実施仕様には「礎石、葛石、敷石の沈下しているものは、一旦全部掘起し、据直しを行う。壺堀は、従来にならい鋤取り後、大蜻で充分搗き固め、割栗石を敷石を敷並べ良く搗き締める。」、また、南側番所梁に掲示された昭和 36 年「赤門修理記」には、「基礎礎石の沈下したものは、掘り起こしてコンクリートの基礎を施した」とほぼ同様の記述がある。

今回調査した基礎がこれに相当するかは不明であるが、「昭和 35 年度赤門保存修理工事 積算書」の当初仕

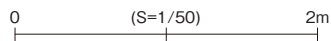
様には「割栗石を小端立てに敷き並べ」と記載されており、調査で確認された割栗の配置と合致しており、また、コンクリートに混じる玉砂利などの含有状況なども勘案すると昭和 36 年の修繕時の可能性が高いと思われる。他方、この「赤門修繕記」からは、「基礎礎石の沈下したものは・・・」とあることから、赤門 4 本の基礎全てがこの構造と同様であるとは限らないことも考えられる。コンクリート基礎上に設置されている礎石の石材も、加賀藩邸で多用されているいわゆる伊豆石、房州石などと異なっている点と礎石下部が小さい点などから、赤門建築時に使用されていたオリジナルの礎石から変更された可能性が高い。



赤門柱基礎掘方



- |  |   |
|--|---|
| <p>1 褐色土<br/>2 礫・砂利層<br/>3 茶褐色土<br/>4 灰褐色土<br/>5 灰褐色土<br/>6 茶褐色土</p> | <p>(煉瓦・コンクリート・アスファルト混入、粘性ややあり、しまり弱)<br/>(タールが所々に認められる)<br/>(コンクリート片・ブロック多量混入、漆喰・瓦片少量混入、粘性弱、しまりやや弱)<br/>(礫・小礫・漆喰・コンクリート片少量混入、粘性弱、しまり弱)<br/>(漆喰片多量混入、礫中量混入、粘性弱、しまり弱)<br/>(ローム粒中量混入、炭化物焼土粒少量混入、粘性やや弱、しまりやや弱)</p> |
|--|---|



3図 平面図と土層図



4図 土層堆積状況



5図 コンクリートのタタキ（南から）



6図 礎石に付着したタール



7図 コンクリート基礎と礎石（南から）



8図 コンクリート基礎外面



9図 コンクリート基礎周囲の堀方（東から）



10図 コンクリート基礎の形状

## 第2節 駒場構内の試掘調査

### 1. 駒 I 58 駒場 I 講義棟地点

所在地 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学駒場構内

目黒区埋蔵文化財包蔵地番号 1 東京大学駒場構内遺跡範囲内

調査期間 2022年10月17日～10月21日

調査面積 65 m<sup>2</sup>

調査担当 追川吉生

#### 1. 調査の経緯と経過

東京大学では駒場 I キャンパスにおいて、トレーニング体育館跡地に新たに講義棟を新営することになった(1図)。

本キャンパスは全域が旧石器時代、縄文時代、江戸時代を含む東京大学駒場構内遺跡(目黒区 No.1)となっている。講義棟建設予定地は空川の湧水源の1つである駒場池から北西約 200 m に位置している。本キャンパスではこれまでの調査で、駒場池の西側のテラス上に立地するコミュニケーションプラザ地点や、同じく空川の湧水池であったと考えられる第二グラウンド(現在の湧水源は目黒区立駒場小学校との境界付近)東側のテラス上に立地するファカルティハウス地点で旧石器時代の遺跡が認められる。特にコミュニケーションプラザ地点では、立川ローム層 V 層と VII 層でナイフ形石器を伴う石器ブロックを検出している(東京大学埋蔵文化財調査室 2019)。

本地点は旧トレーニング体育館の基礎工事によって遺跡が破壊されていると考えられたが、新規建物の掘削深

度が 2.5m で、旧トレーニング体育館のフーチングよりも深くなること、建設予定地中央付近に、旧トレーニング体育館の基礎の影響を受けていない部分が認められることから、工事に先立ち本学埋蔵文化財調査室が試掘調査を実施することとなった。

#### 2. 試掘調査の概要

工事予定地は東京大学駒場構内遺跡(目黒区 No.1)内に位置していることから、試掘調査は遺跡の残り具合を確認するために必要最小限の範囲に留めた。調査区内に 4 × 4m の試掘調査区を 4 箇所(グリッド 1～グリッド 4)を設定し、これらとは別に、南側のガス管工事に伴う掘削については 1 × 1m の試掘区(グリッド 5)を設けて調査を実施した(2図)。

##### グリッド 1

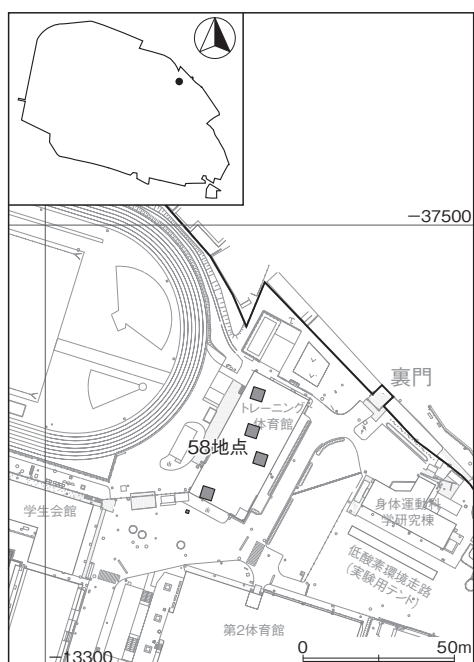
旧トレーニング体育館のフーチングによる遺跡の破壊状況を確認することを目的として設定した。調査区のはほぼ中央に 3m 四方でフーチングが抜き取られており、これに伴って東側も壊されていることを確認した。またフーチングによる破壊は、現地表面から約 2.0m の深度までに留まっていることも確認した。

フーチングとその抜き取り作業によって壊されている部分以外では、堆積状況は極めて良好だった。現地表面下約 1.0m で立川ローム III 層(以下同)の堆積を確認した。掘削は現地表面から 2.5m の深度に到達した時点で終了した。到達面は VII 層である。遺物は出土していない(3図・8図)。

##### グリッド 2

旧トレーニング体育館の基礎構造物の影響が軽微な範囲に設定した。現地表面から 50 cm までは盛土層が堆積しているが、その直下には漸移層が良好に残っている。

遺構は溝 1 基(SD001)、ピット 2 基(SP002・SP003)を検出した。SD001 は底部から江戸時代の陶器片と瓦片が出土している。ピット 2 基からは遺物は出土



1 図 調査地点位置図

していない。SP002は漸移層（Ⅱc層）からの掘り込みのため、縄文時代に帰属する可能性が高い（5図・9図）。

これらの遺構を検出した段階で掘削は中断したため、旧石器時代の遺物の有無は確認していない。

#### グリッド3

グリッド2と同様、旧レーニング体育館の影響が少ない場所に設定した。現地表面から30～40cmまで盛土層が堆積している。その直下で東西方向に平行する数条の溝を検出した。これらの溝はⅡc層よりも上位にあることから、近世あるいは近代（農学校）の畝跡と考えられる（4図・10図）。

現地表面から1.2mの深度まで掘削を行い、Ⅳ層を確認した。遺物は出土していない。

#### グリッド4

グリッド1と同様、旧レーニング体育館のフーチングによる遺跡の破壊状況を確認するために、工事予定地南側に設定した。フーチングとその抜き取りの影響は、グリッドのほぼ全面で現地表面から2.2mの深度まで及んでいる。しかし、それ以下のローム層の堆積は良好だった（6図・11図）。

グリッドの中央部のみ現地表面下2.5mまで掘削を試み、Ⅶ層を確認した。遺物は出土していない。

#### グリッド5

ガス管撤去に伴う掘削予定地のうち、1×1mを掘削した。ガス管が敷設されている現地表面下50cmまでは盛土と碎石が堆積していることを確認した（7図・12図）。

### 3. 調査の成果

旧トレーニング体育館のフーチングが存在した工事予定地北側と南側でも、その影響による遺跡の破壊は最小限に留まっていた。また工事予定地中央付近については、旧体育館の基礎構造物の影響はほぼ受けておらず、盛土層直下から縄文時代、近世・近代の遺構が存在することが明らかになった。

グリッド2で検出した溝（SD001）は工事予定地を東西に貫いている可能性が高い。土壌分析を実施していないため遺構の性格は不明であるが、駒場キャンパスの北側には三田上水が流れており（裏門東側に管路跡が残る）、それとの関係も検討していく必要がある。

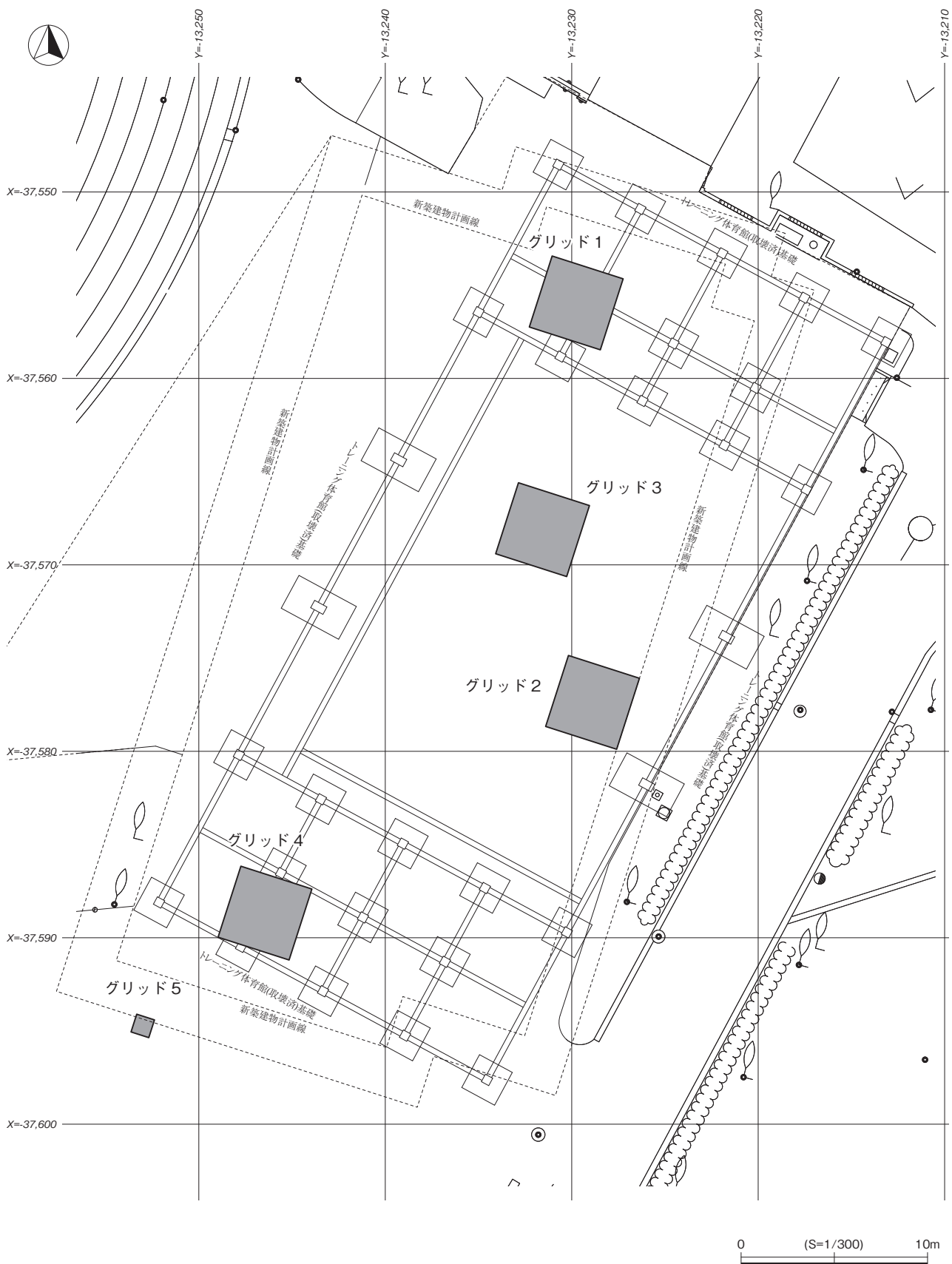
またグリッド3では畝跡を確認した。明治期の農学校構内を描いた地図からは、工事予定地点は圃場として利用されていたことがうかがえる。試掘調査では遺物未出土のため年代を特定するには至っていないが、近世から近代にかけての耕作に関連する遺構が、工事予定地中央付近に良好な状態で遺存していることが推測される。

縄文時代の遺構についてはSP002以外に明確な遺存は検出していないが、漸移層の堆積が良好なことから、遺存している可能性は高い。ただし駒場Iキャンパスでは該期の竪穴住居の検出例は数理学研究科棟での発掘調査でわずかにあるのみで、情報教育棟などではTピットが検出するに留まっている。

グリッド2と3で盛土直下から遺構を検出したため、ローム層の掘削に至らず調査を終了した。したがって旧石器時代の遺物の存否は不明だが、しかしグリッド1で確認したように、フーチングによる破壊を免れた部分でもⅢ層から残っていたことから、旧石器時代の遺物が遺存している可能性は高い。

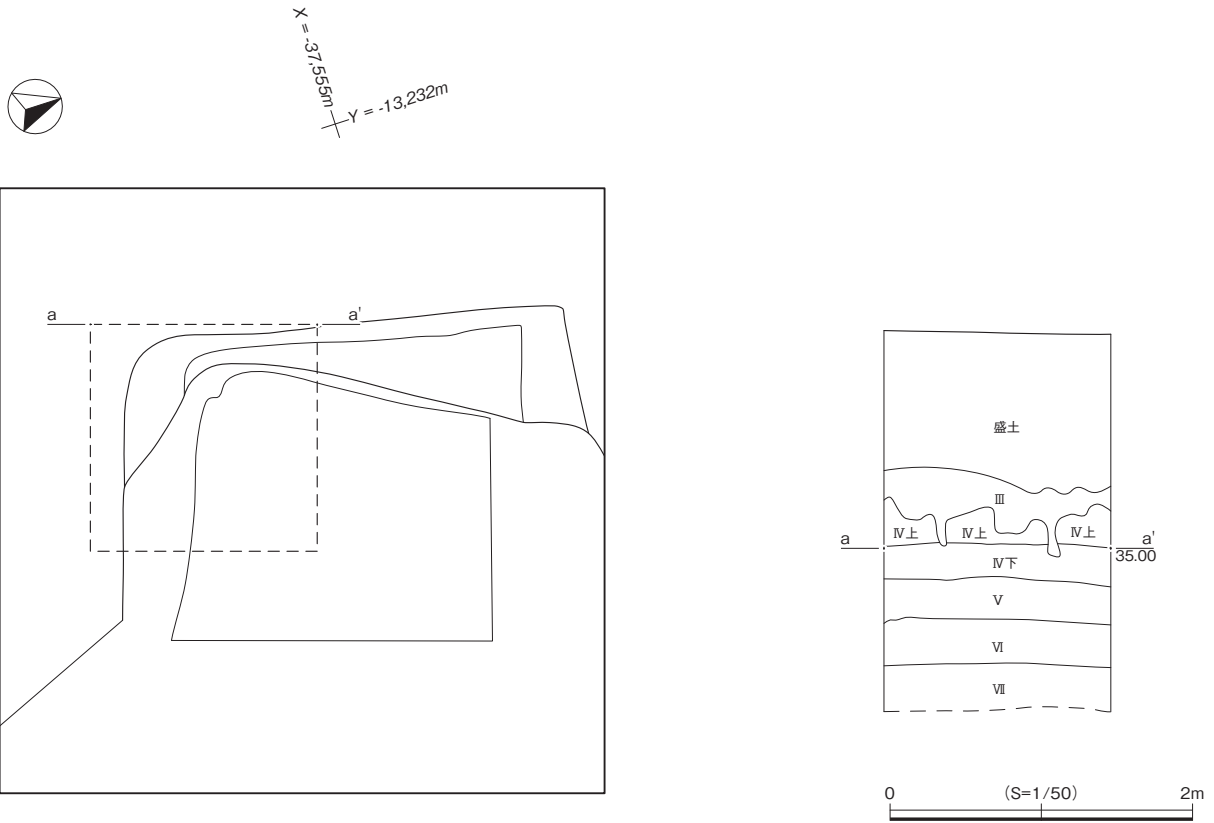
#### 【参考文献】

東京大学埋蔵文化財調査室 2019『駒場コミュニケーションプラザ地点発掘調査報告』（『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収）

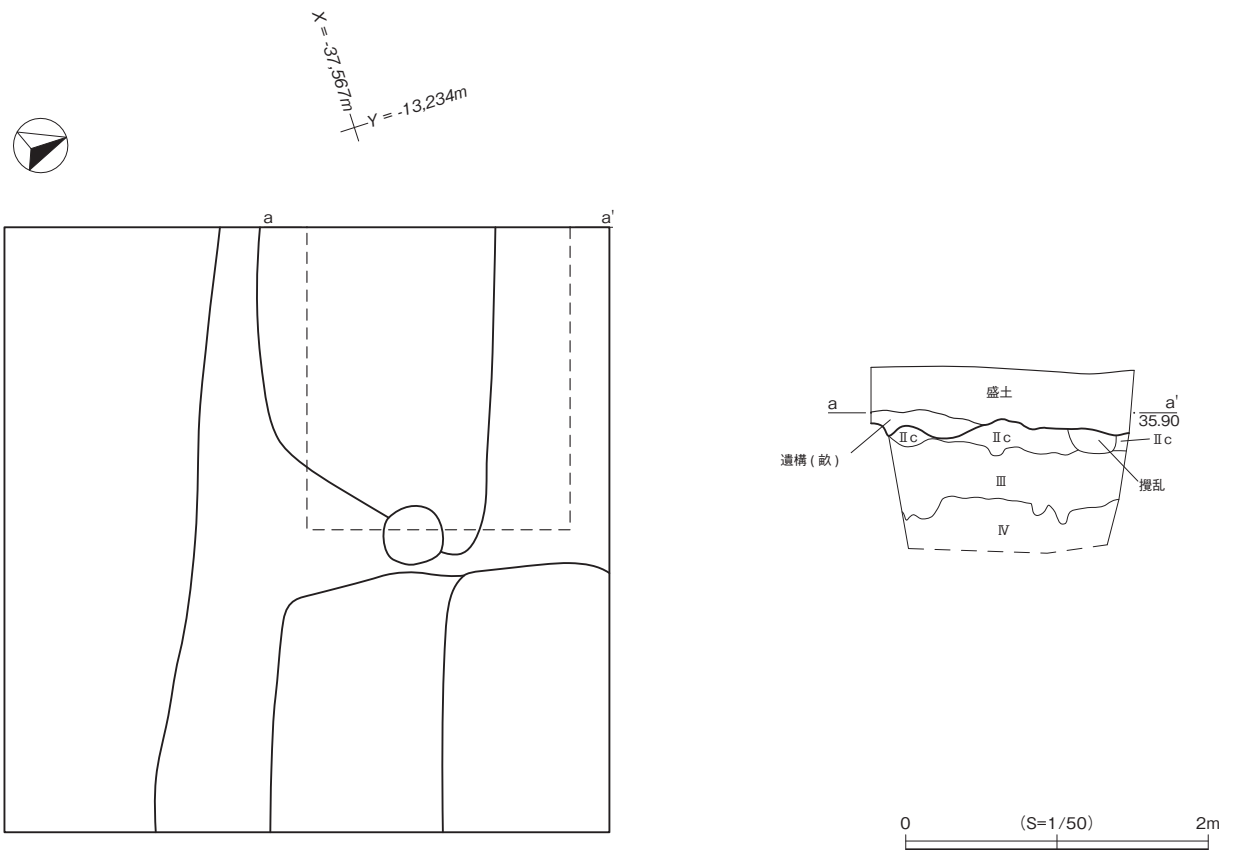


2図 グリッド配置図





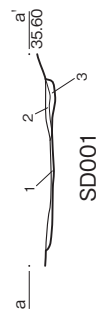
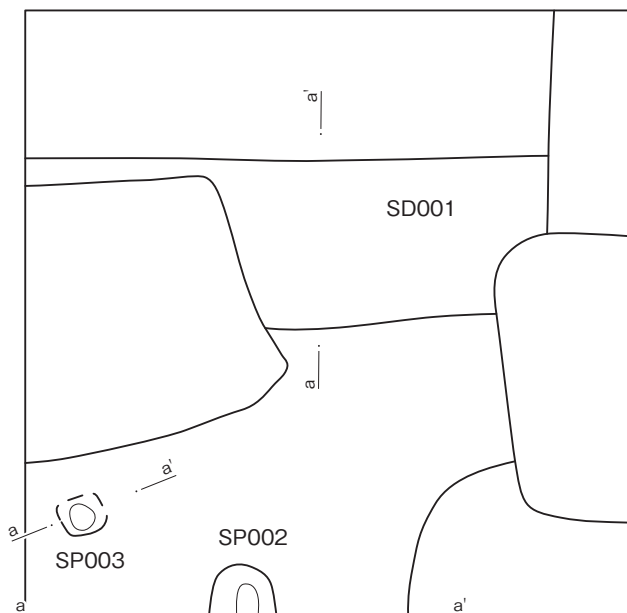
3図 グリッド1平面図・断面図



4図 グリッド3平面図・断面図

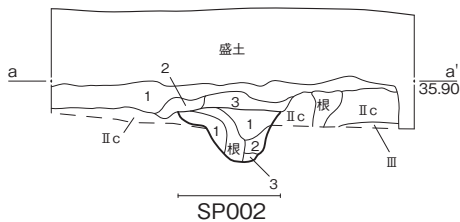


X = -37.575m  
Y = -1.3228m



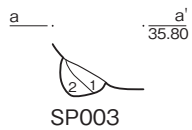
SD001 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR2/2 φ10mmローム粒中量。φ23mm炭化物少量。φ1mm焼土微量。しまりやや強い。粘性やや弱い。
- 2 褐色土 10YR4/4 φ1~5mm黒褐色土粒少量。しまりやや強い。粘性やや強い。
- 3 黒褐色土 10YR2/3 φ5~10mmローム粒少量。しまりやや強い。粘性やや強い。



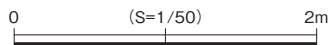
SP002 土層説明

- 1 暗褐色土 10YR3/3 φ1~3mmのローム粒及びφ1~2mmの炭化物少量含む。しまりやや強い。粘性やや強い。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 φ1~3mmのローム粒中量。φ1~2mmの炭化物を少量含む。しまり弱い。粘性やや弱い。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 φ1~3mmのローム粒少量。しまりやや弱い。粘性やや強い。

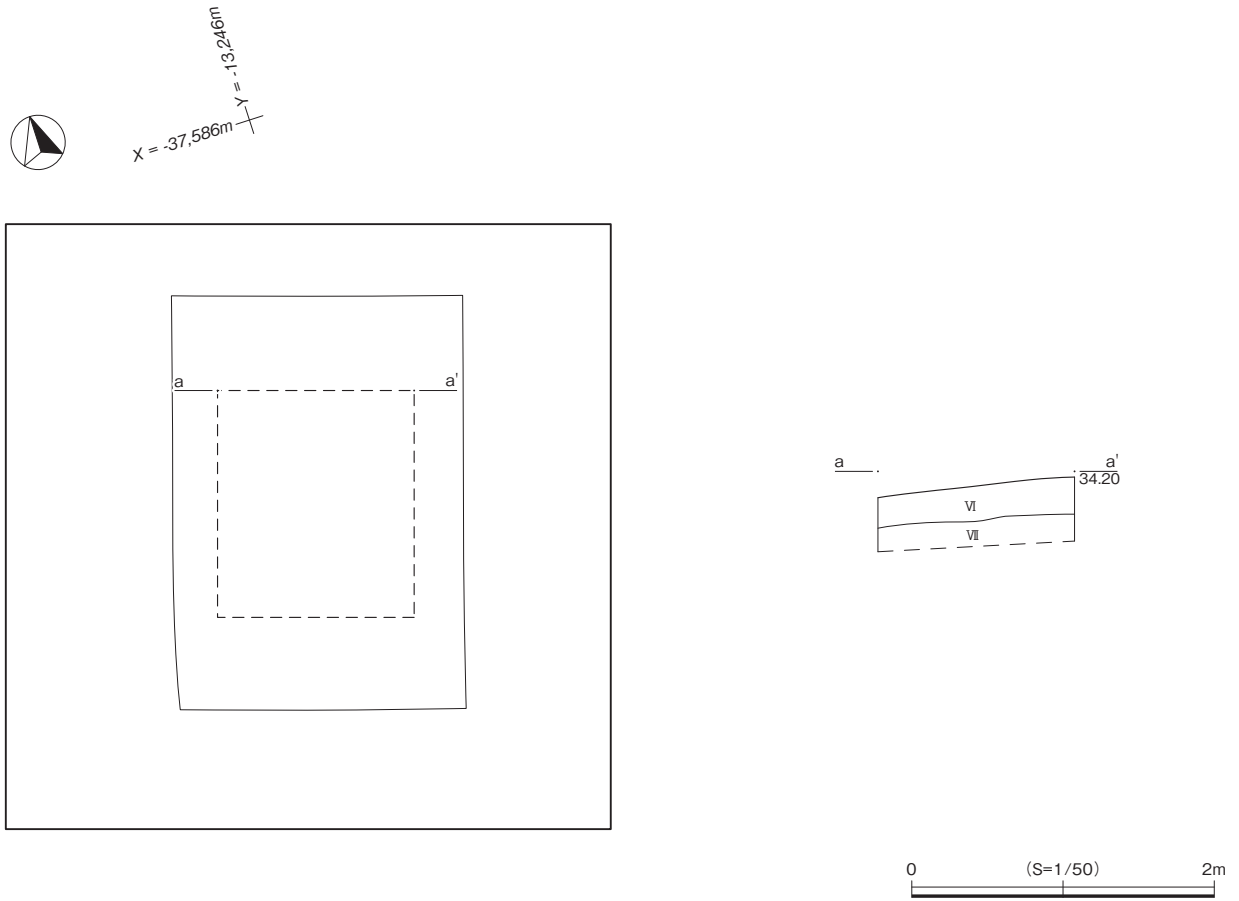


SP003 土層説明

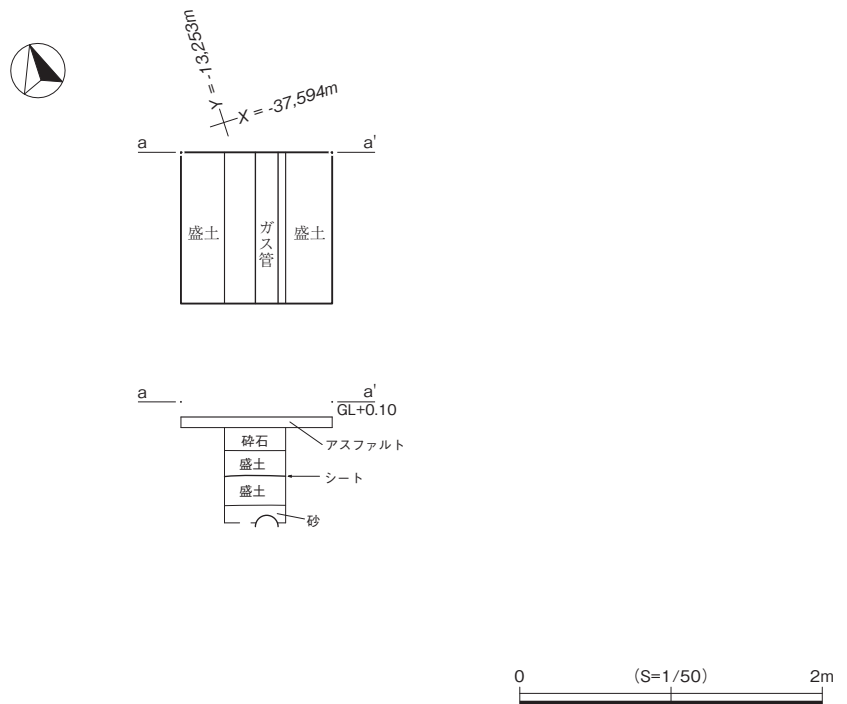
- 1 黒褐色土 10YR2/2 φ1~5mmのローム粒中量。しまり弱い。粘性やや弱い。
- 2 黒褐色土 10YR2/2 φ1~3mmのローム粒少量。しまりやや弱い。粘性やや弱い。



5図 グリッド2平面図・断面図



6図 グリッド4平面図・断面図



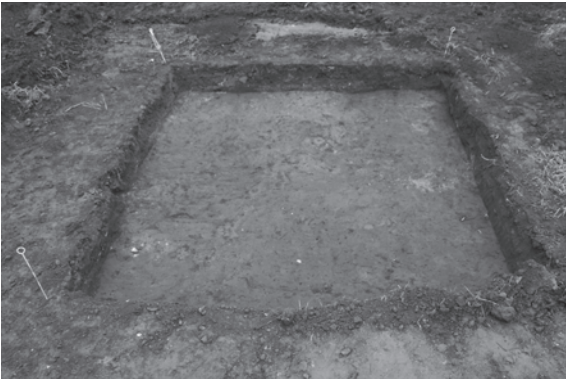
7図 グリッド5平面図・断面図



8図 グリッド1 (東から)



9図 グリッド2 (西から)



10図 グリッド3 (東から)



11図 グリッド4 (南から)



12図 グリッド5 (北から)

### 第 3 節 白山構内の立会調査

#### 1. 白山 12 チェコ共和国 EU 議長国事業ウクライナ連帯支援桜植樹

所在地 東京都文京区白山 3-8-1 東京大学大学院理学系研究科附属植物園内（文京区 No.81 小石川御薬園跡）

調査期間 2022 年 11 月 22 日

調査面積 0.28㎡

調査担当 成瀬晃司

##### 1. 調査の経緯と経過

チェコ共和国は EU 議長国事業の一環としてウクライナ連帯支援記念の桜植樹を計画した。植樹場所選定にあたり、2 月 25 日に発信された本学藤井輝夫総長メッセージがきっかけとなり、本学内への植樹を決定したとされる。チェコ共和国大使館からの打診を受けて学内で植樹場所を検討した結果、比較的広域な桜林を有す理学系研究科附属植物園（以下、小石川植物園）が選定された。

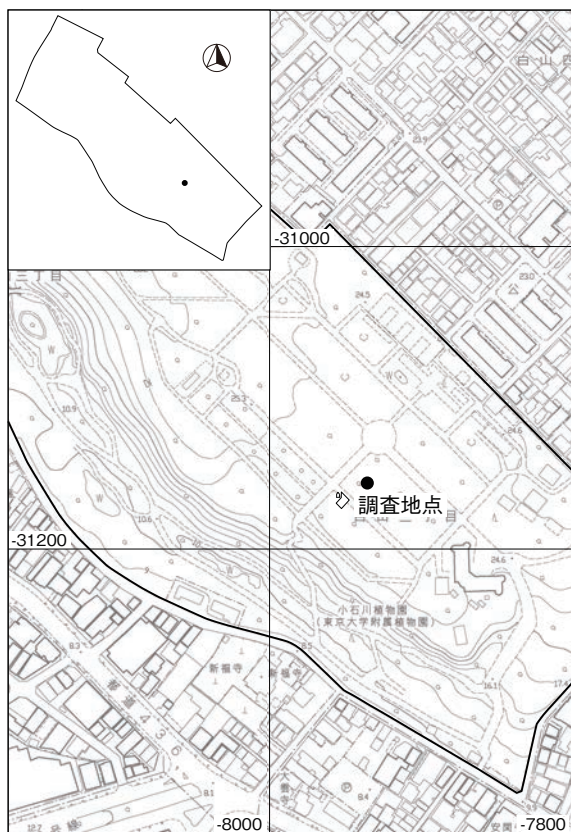
小石川植物園は、平成 24 年に国指定名勝及び史跡小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）に指定されているため、本件掘削に関する対応を文京区、東京都、文化庁に確認したところ、桜林内への桜植樹は、景観を変更する行為に該当しない旨の回答を得たため、文化財保護法第 93 条による手続きを進め、0.36㎡と狭小な掘削面積であることから立会調査を実施することになった。これ

を受けて植樹式典前々日の 11 月 22 日に文京区教育委員会職員（丹野、齊藤）立ち会いの下、植物園職員による手掘り掘削で立会調査を実施した。

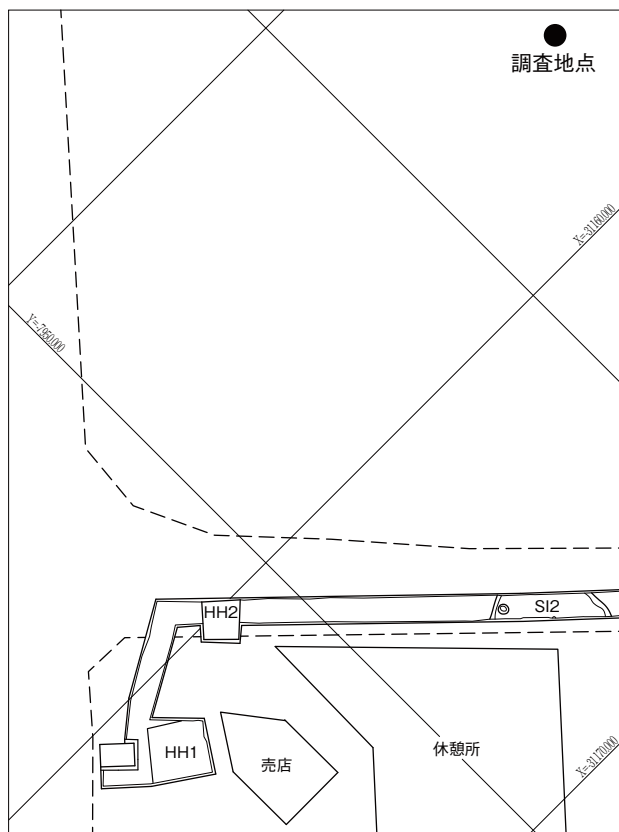
##### 2. 調査の概要

桜植樹場所は、現桜林南西部に位置し（1～3 図）、掘削面積直径 0.6m を測る円形範囲 0.28㎡、掘削深 0.4m を対象とした（4 図）。調査結果を以下に列記する。

基本層序は（5 図）、現表土から 20cm の範囲で、しまりの弱い黒色土の表土が堆積する（1 層）。その直下には粘性、しまりのある橙色スコリアを少量含む黒褐色土が堆積し（2 層）、床付け深度で黄色及び橙色スコリアを含むやや明るい黒褐色土への変化が確認された（3 層）。2 層から 3 層へ移行する層位より縄文時代後晩期と推定される土器小片数点が出土した（6 図）。その堆



1 図 調査地点位置図



2 図 本調査地点と KBG10 地点

積状況から2、3層は自然堆積層もしくは中世以前の非耕作土と推定される。

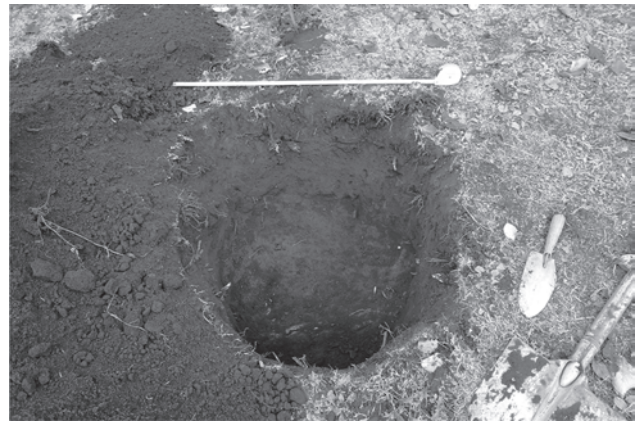
### 3. 調査結果

本調査地点は、平成22年に事前調査を実施した下水・電源ケーブル埋設枒・埋設溝地点（略号KBG10、東京大学埋蔵文化財調査室2019）のうち安行3d期の竪穴建物（SI2）を検出した2トレンチa区の北側約13.5mに位置する（2図）。概所の調査では売店休憩所付近から売店西側の水場にかけて安行3c～3d期の遺物を包含する埋積谷の存在が確認され、休憩所東端付近に位置するSI2西域も埋積土を床面としていた。それより東側では

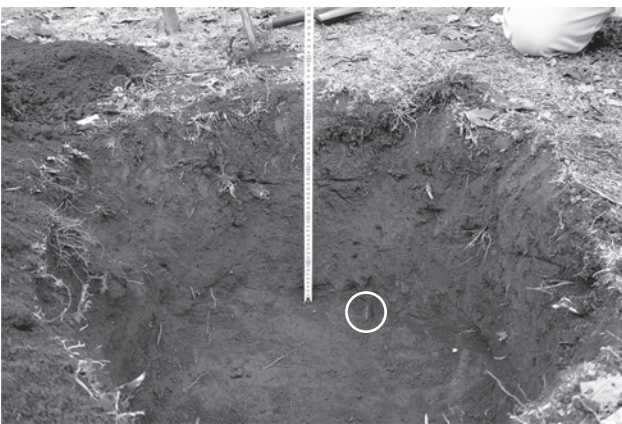
概ね現表下-0.4～0.5mでローム層を確認したが、上位層は全てローム粒を多量に含有する客土だった。一方埋積谷範囲の売店西側から水場では、現表下約0.5～0.7mで埋積土層に至り、工事掘削深度内で3層の層序を確認した（7図、3～5層）。上位の3層は赤色・黄色スコリアを含有する暗茶褐色土、4層は黄色・橙色スコリアを含有する黒褐色土、5層はソフトローム状ブロックを斑状に含む暗黄褐色土で、晩期遺物は4層下部を中心に出土した。このうち5層は縄文前期に由来するいわゆる淡色黒ボク土もしくは褐色森林土と推定されることから、報告では3、4層の形成要因を関東縄文晩期遺跡で確認される環状盛土遺構に類する人為的堆積土と推定した。



3 図 調査地点近景（掘削状況、写真右上が売店）



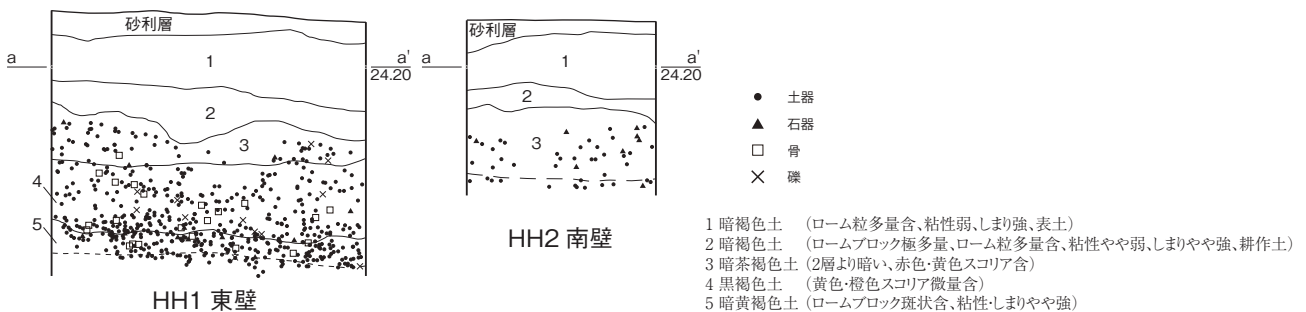
4 図 完掘状況



5 図 土層堆積状況（○内、縄文土器出土状況）



6 図 出土遺物



7 図 KBG10 地点基本層序・遺物出土状況（1/40）

今回の調査で確認された 3 層は、色調、含有物が 4 層に類似していることから、売店付近で検出された縄文晩期の盛土遺構の一部もしくは同時期の遺構覆土の可能性が示唆される。

**【参考文献】**

東京大学埋蔵文化財調査 2019「東京大学白山構内の遺跡 理学系研究科附属植物園本園下水・電源ケーブル埋設枘・埋設溝地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報』





## 第Ⅱ章 調査資料の整理・研究および公開・活用

### 第1節 調査資料の整理

#### 1. 整理事業概要

本年度は、発掘調査報告書刊行へ向けて以下のような整理作業を行った。

- ・本郷 54 (HES99) 経済学研究科棟遺構図版編集・報告書執筆・編集・刊行。
- ・本郷 55 (HHC299) 医学部附属病院第2中央診療棟遺構・遺物図版編集・遺物デジタルトレース。
- ・本郷 60 (HWK6) 医学部附属病院基幹整備外構施設等遺構図版編集。
- ・本郷 65 (LS03) 法学系総合研究棟 遺構図版編集。
- ・本郷 74 (HHN308) 医学部附属病院看護師宿舎Ⅲ期遺構図版編集。
- ・本郷 76 (HVP06) ベンチャープラザ 遺構断面図デジタルトレース
- ・本郷 78 (HJF06) 情報学環・福武ホール 遺物写真撮影。
- ・本郷 81 (HEA07) 経済学研究科学術交流棟 遺物デジタルトレース・写真合成。
- ・本郷 93 (H7I09) 伊藤国際学術研究センター 遺物実測・撮影。
- ・本郷 94 (HNS09) 分生研・農学部総合研究棟 遺物接合・実測・撮影。
- ・本郷 101 (HMH10) 医学部附属病院ドナルド・マクドナルド・ハウス地点 遺物接合・実測・撮影。
- ・本郷 115 (HTP12) 図書館前クスノキ移植 遺物接合・実測・撮影。
- ・本郷 143 (HKO13) 議事堂改修 遺物接合・実測・撮影。
- ・白山 9 (B-KSH-H28) 国指定名勝及び史跡小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）第1地点 報告書執筆・編集（文京区委託事業）。

#### 2. 外部委託

- ・本郷 54 (HES99) 経済学研究科棟 自然化学分析。
- ・本郷 60 (HWK6) 医学部附属病院基幹整備外構施設等文献調査。
- ・本郷 74 (HHN308) 医学部附属病院看護師宿舎Ⅲ期古墳時代土器実測・旧石器実測。
- ・本郷 55 (HHC299) 医学部附属病院第2中央診療棟遺構図版作成
- ・本郷 74 (HHN308) 医学部附属病院看護師宿舎Ⅲ期石器実測。

- ・本郷 174 (HAC13) アカデミックコモンズ遺物分類・接合。
- ・その他 23 (メジロ 15) 目白台国際宿舎文献調査。

### 第2節 調査・研究成果の公開・活用

#### 1. 報告書・年報

- ・東京大学埋蔵文化財調査室 2022 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 17 東京大学白金台構内の遺跡（港区 No.135 遺跡） 医科学研究所附属病院 A 棟地点研究編』
- ・東京大学埋蔵文化財調査室 2023 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 18 東京大学本郷構内の遺跡 経済学研究科棟地点』
- ・東京大学埋蔵文化財調査室 2021 『東京大学構内遺跡調査研究年報 15（2021 年度）』

#### 2. 広報活動

- ウェブサイトで活動内容を紹介するとともに、下記の3点の刊行物についてPDF版を公開した。
- ・東京大学埋蔵文化財調査室 2022 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 17 東京大学白金台構内の遺跡（港区 No.135 遺跡） 医科学研究所附属病院 A 棟地点研究編』
  - ・東京大学埋蔵文化財調査室 2023 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 18 東京大学本郷構内の遺跡 経済学研究科棟地点』
  - ・東京大学埋蔵文化財調査室 2021 『東京大学構内遺跡調査研究年報 15（2021 年度）』

#### 3. 教育・普及

- ・「調査研究プロジェクト8 大名屋敷跡遺跡研究の新潮流」3月開催。東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室共催。

## 4. 資料の提供・貸出

貸出先	目的	貸出・掲載内容	貸出・掲載資料
東京国立博物館	展示	平成館考古展示室常設展	1. 色絵大皿片（伊万里・古九谷様式）/HW 地点 1 点 2. 色絵亀甲文皿片（伊万里・古九谷様式）/HW 地点 2 点 3. 染付吹墨鷲図皿片（伊万里）/HHC 地点 6 点 4. 色絵花卉文大皿片（伊万里・柿右衛門様式）/HGS 地点 1 点 5. 染付八宝文大皿片（景德鎮窯）/HGS 地点 7 点 6. 白釉鉄絵人物草花文壺片（磁州窯）/HGS、U 地点 7 点 7. 色絵福字鉢片（呉須赤絵）/HGS 地点 1 点 8. 織部脚付平向付片（美濃）/HGS 地点 2 点 9. 織部筒向付片（美濃）/HGS 地点 1 点 10. 染付脚付向付片（景德鎮窯）/HGS 地点 1 点 11. 染付八角瓢形德利片（景德鎮窯・祥瑞）/HGS 地点 1 点 12. 染付水注蓋片（景德鎮窯）/HGS 地点 1 点 13. 色絵皿片（景德鎮窯）/HGS 地点 2 点 14. 黄地緑彩鉢片（大明嘉靖年製）/HW 地点 10 点 15. 色絵壺片 /HW、HGS 地点 2 点 16. 色絵大皿片（呉須赤絵）/HGS 地点 1 点 17. 黒釉兔毫斑碗片（建窯）/HN 地点 1 点 18. 染付小杯（五良大甫呉祥瑞造）（景德鎮窯）/HGS 地点 1 点 19. 魚屋茶碗片 /HN 地点 1 点 20. 青磁袴腰形香炉片（龍泉窯）/HN 地点 2 点 21. 青磁獅子紐香炉蓋片（龍泉窯）/HN 地点 1 点 22. 青磁算木文瓶片（龍泉窯）/HN 地点 1 点 23. イズニック陶器皿片 /HW 地点 14 点 24. 塩釉水注片（ドイツ）/HN 地点 1 点 25. デルフト陶器片 /HGS、U 地点 4 点
国立 歴史民俗博物館	展示	総合展示「都市の時代」資料展示	1. 灰和碗（呉器手）/HW 地点 1 点 2. 灰釉鉄絵碗（京焼風）/HW 地点 1 点 3. 青緑柏輪剥皿（内野山窯）/HW 地点 1 点 4. 染付皿（草花文）/HW 地点 1 点 5. 染付皿（菊文）/HW 地点 1 点 6. 輪剥皿 /HW 地点 1 点 7. 三島手鉢 /HW 地点 1 点 8. 染付大皿（網干文）/HGS 地点 1 点 9. 染付大皿（海浜文）/HGS 地点 1 点 10. 染付瓶（草花文）/HGS 地点 1 点 11. 染付組皿（草花文）/HGS 地点 5 点 12. かわらけ /HHC 地点 2 点 13. 木製品（折敷）/HHC 地点 7 点 14. 木製品（はし）/HHC 地点 2 点 15. 金泥かわらけ /HIKN 地点 2 点
松山恵	掲載	「Edo-Tokyo and the Meiji Revolution」 『Journal of Urban History』SAGE Publications 掲載 2022 年 4 月 28 日発行	U 地点、HGS 地点附図 81 点
ニューサイエンス社	掲載	「発掘された大名屋敷」考古学ジャーナル 2022 年 6 月号表紙写真	「発掘された大名屋敷」考古学ジャーナル 2022 年 6 月号表紙写真

貸出先	目的	貸出・掲載内容	貸出・掲載資料
根津美術館	展示	企画展「注文された舶来物」資料展示 5月28日～7月3日	染付脚付向付片（景德鎮窯）/HGS 地点 1点
			イズニク陶器皿片 /HW 地点 14点
			塩釉水注片（ドイツ）/HN 地点 1点
			デルフト陶器片 /HGS、U 地点 4点
テレビ朝日	放映	「サンドウィッチマン & 芦田愛菜の博士ちゃん」 放映6月11日 18:56～20:00	埋蔵文化財調査室内及び東大構内遺跡出土金箔瓦の撮影
石川県立美術館	掲載	企画展「加賀宝生のすべてー能面と能装束」 パネルおよび図録掲載5月28日～7月3日	HIKN 地点能舞台跡写真1点
大阪府立 弥生文化博物館	掲載	特別展「南関東の弥生文化」部六、リーフレット、パネル、HP、報道提供7月16日～9月19日	TS 地点1号方形周溝墓写真1点
			TS 地点1号方形周溝墓出土ガラス小玉・管玉写真1点
			TS 地点1号方形周溝墓出土ガラス小玉写真28点
			浅野地区出土弥生土器集合写真1点
紅ミュージアム	展示	企画展「ちいさい、ちっさい、ちっちゃ」展示、 図録掲載10月18日～12月17日	東京大学構内遺跡出土まご道具 36点
富山市教育委員会 埋蔵文化財センター	掲載	ミニ企画展「ざくざく・ドキドキ・埋蔵銭」掲載 7月21日～12月4日	NK84 地点出土瓦写真1点
株式会社雄山閣	掲載	「日本列島の人類史と製塩」『季刊考古学』 別冊38号所収論文中掲載2022年8月10日 発行予定	HHC 地点池遺構写真1点 / 東大構内遺跡出土焼塩壺写真1点
岩手大学名誉教授 津田智俊	掲載	小銃弾頭の鉛同位体組成の計測2022年8月4日調査	東大構内遺跡出土弾頭 15点
文京ふるさと歴史館	掲載	特別展「小石川植物園異聞-白山御殿跡いま、むかし」2022年10月29日～12月11日	小石川植物園出土縄文土器
勉強出版	掲載	月刊『アジア遊学』所収コラム中掲載2022年8月発行	HW 地点 C2層出土南川原窯染付皿写真1点
武蔵野文化財修復 研究所	掲載	企画展「芸工展」2022年10月9日～10月16日	TS 地点1号方形周溝墓調査写真1点
			追分国際舎地点出土剪定鋏写真1点
			東大構内遺跡出土弥生土器写真1点
考古学研究会東京 例会	掲載	例会要旨「消費地遺跡における近世陶磁器 研究の可能性」表紙2022年11月13日	HGS 地点出土皿1点
榎屋友子	掲載	「overview of Islamic artifact brought to Japan before the modern period」 『Jonathan Bloom and Sheila Blair eds.』 2023年発行予定	HW 地点 C2層出土トルコ・イズニク片写真1点
九州国立博物館	調査	令和4年度鍋島報効会研究助成「柿右衛門 門窯の御用注文」に関する調査2023年3月1日	HW 地点 C2層出土磁器片 5点
金沢城調査研究所	掲載	webサイト「金沢城デジタル長屋-金沢城資料 叢書」『金沢城跡埋蔵文化財確認調査 報告書1』掲載2023年3月17日公開	K14 地点 SK326 出土遺物写真2点

調査地点名

FE1：工学部 1 号館  
HCRA12：クリニカルリサーチセンター A 棟 I 期  
HEA07：経済学研究科学術交流棟  
HES99：総合研究棟（文・経・教・社研）  
HG：医学部附属病院外来診療棟  
HGS：御殿下記念館  
HHB：法学部 4 号館（法）・文学部 3 号館（文）  
HHC：医学部附属病院中央診療棟（病中）・設備管理棟（エネセン）・給水設備棟（給水）・共同溝（共同溝）  
HHC299：医学部附属病院第 2 中央診療棟  
HI709：伊藤国際学術研究センター  
HIKN：医学部教育研究棟  
HJF06：情報学環・福武ホール  
HN：医学部附属病院看護師宿舎  
HW：医学部附属病院入院棟 A  
HS7：理学部 7 号館  
HIKN：医学部教育研究棟  
K14：工学部 14 号館  
NK84：農学部共同溝  
OKS07：追分国際宿舎  
SBS00：医科学研究所附属病院診療棟・総合研究棟  
SK：教育学部総合研究棟  
TS：工学部武田先端知ビル  
U：山上会館

## 附 埋蔵文化財調査室要項

東京大学埋蔵文化財運営委員会は、全学委員会の見直しに伴い、以下の通り廃止され、埋蔵文化財調査室は、キャンパス計画室下部組織に改組された。

東京大学における全学委員会の見直しに伴う関係規則の整理等に関する規則（平成22年3月25日東大規則第133号）（抜粋）

（略）

（東京大学埋蔵文化財運営委員会規則の廃止）

第17条 東京大学埋蔵文化財運営委員会規則（平成元年7月11日制定）

### 埋蔵文化財調査室規則

平成元年7月11日

評議会可決

（設置）

第1条 キャンパス計画室の下に埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

（業務）

第2条 調査室は、東京大学構内の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査（以下「遺跡調査」という。）に関し、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) 遺跡調査に対する総括的指導助言
- (2) 文化庁等に提出する報告書の作成、監修及び指導
- (3) 遺物等の保管及び管理
- (4) 遺跡調査の方法に関する調査研究
- (5) 前各号に定めるもののほか、研究報告書の作成等遺跡調査に関し必要と認められる事項

（室長）

第3条 調査室に室長を置く。

2 室長は、東京大学専任の教授又は准教授のうちから総長が委嘱する。

3 室長は、調査室の業務を総括する。

（室員）

第4条 調査室に室員若干名を置く。

2 室員は、室長の指示に従い、調査室の業務に従事する。

（庶務）

第5条 調査室の庶務は、本部施設企画課において処理する。

附 則

この規則は、平成8年5月21日から施行し、改正後の埋蔵文化財調査室規則の規定は、平成8年5月11日から適用する。

附 則 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

### 埋蔵文化財調査室組織表

室長（人文社会系研究科教授）	芳賀 京子	教務補佐員	小川 祐司
室員（キャンパス計画室准教授）	堀内 秀樹	教務補佐員	香取 祐一
室員（キャンパス計画室助教）	成瀬 晃司	事務補佐員	青山 正昭
室員（キャンパス計画室助教）	山下 優介	事務補佐員	今井 雅子
室員（キャンパス計画室助手）	大成 可乃	事務補佐員	大貫 浩子
室員（キャンパス計画室助手）	追川 吉生	事務補佐員	小林 照子
		事務補佐員	杉浦 あかね
		事務補佐員	渡邊 法彦



# 報告編

東京大学構内遺跡発掘調査報告





東京大学本郷構内の遺跡

# 工学系総合研究棟立坑地点

## 例 言

1. 本報告は、東京大学工学系総合研究棟立坑新設に伴う埋蔵文化財発掘報告である。
2. 本地点の略称は「KOS05」とする。
3. 調査地点は東京都文京区本郷7丁目3番1号、東京大学本郷構内に所在している。
4. 調査面積は17.0㎡であった。
5. 本地点は文京区No.47「本郷台遺跡群」内に位置している。
6. 本地点の試掘調査・事前調査は、東京大学埋蔵文化財調査室が行い、原 祐一（故人）が担当した。
7. 調査期間は、平成17（2005）年9月13日～9月14日である。
8. 本報告の編集は成瀬が行った。
9. 本報告の執筆は、第Ⅰ、Ⅱ章を成瀬が行い、第Ⅲ章は調査担当者の原（故人）が年報（東京大学埋蔵文化財調査室2008）に掲載した略報に一部加筆の上、再録した。
10. 遺構写真は原が、遺物写真は青山正昭が撮影した。
11. 遺物の実測・採拓およびデジタルトレースは杉浦あかねが、遺構図のデジタルトレースは加藤建設（株）が行った。
12. 発掘調査に伴う図面、写真、出土文化財は東京大学埋蔵文化財調査室が駒場リサーチキャンパス（東京都目黒区駒場4-6-1）、東京大学柿岡教育研究施設（茨城県石岡市柿岡414）内にて保管、運用している。
13. 発掘調査及び報告書作成にあたり下記の諸氏、機関より御協力・御教示を賜った。記して敬意を表する。（敬称略、五十音順）

加藤建設株式会社 東京大学施設部

### 発掘調査参加者

加藤建設株式会社

### 整理作業参加者

青山正昭 杉浦あかね（埋蔵文化財調査室）

## 凡 例

1. 遺構番号は通し番号を付した。また冠詞に付けた略号は以下の通りである。  
SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 SU 地下室
2. 遺構実測図の縮尺は、原則1/50である。
3. 遺物実測図は基本的に1/3であるが、それ以外は個別に示す。
4. 遺構断面図に記載された標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準とし、基標番号「郷（3）」弥生一丁目1 弥生町交番前（T.P.：20.6682 m）から、小数点第四位を四捨五入して算出した。なお「郷（3）」の値は、平成17年7月東京都土木技術センター（現：東京都土木技術支援・人材育成センター）刊行の『水準基標測量成果表』に基づいている。
5. 遺物図版に使用している記号は、以下のことを示している。
  - ・▲は、高台、見込みなどの軸際を表している。
  - ・\—／は、口唇部の口鏽を表している。
  - ・遺物中心線上下の破線は、それぞれ推定口径、推定底径を表している。
  - ・—は、断面を表している。
7. 本文中に記載した陶磁器・土器類は、「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類」（いわゆる東大分類）の最新バージョンである『医学部附属病院入院棟A地点』で示した分類（東京大学埋蔵文化財調査室2016）に準拠している。
8. 本地点の調査では、調査区の形状に適した任意点を設定して行ったが、その後に作成した東京大学本郷構内遺跡グリッド（東京大学埋蔵文化財調査室2017）を用いて表記した。なお東京大学本郷構内遺跡グリッドの方眼北は、真北より2分25秒西偏している。

## ○胎質

J (磁器)      T (陶器)      D (土器)

## ○生産地

A - 輸入陶磁器

- A1 景德鎮窯系
- A2 漳州窯系
- A3 德化窯系
- A4 龍泉窯系
- A5 宜興窯系
- A6 朝鮮
- A7 ベトナム
- A8 ヨーロッパ
- A9 福建・広東系
- A10 西アジア

B - 肥前系

C - 瀬戸・美濃系

D - 京都・信楽系

E - 備前系

F - 志戸呂系

G - 常滑系

H - 萩系

I - 万古系

J - 大堀・相馬系

K - 丹波系

L - 堺系

M - 益子・笠間系

N - 九谷系

O - 壺屋系

P - 淡路系

Q - 江戸在地区

R - 三田系

S - 飯能系

T - 薩摩系

Z - 不明

## ○器種

- |           |          |           |           |          |
|-----------|----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 碗      | 2. 皿・平鉢  | 3. 大皿・大皿鉢 | 4. 爛徳利    | 5. 鉢     |
| 6. 坏      | 7. 猪口    | 8. 仏飯器    | 9. 香炉・火入れ | 10. 瓶    |
| 11. 御神酒徳利 | 12. 油壺   | 13. 蓋物    | 14. 筆立て   | 15. 壺・甕  |
| 16. 急須    | 17. 爛鍋   | 18. 合子    | 19. 水滴    | 20. 蓮華   |
| 21. 植木鉢   | 22. 花生   | 23. 片口鉢   | 24. 灰落し   | 25. 鬢水入れ |
| 26. 茶入れ   | 27. 水注   | 28. 漚瓶    | 29. 播鉢    | 30. 餌入れ  |
| 31. 火鉢    | 32. 柄杓   | 33. 鍋     | 34. 土瓶    | 35. 戸車   |
| 36. ちろり   | 37. 薬研   | 38. 手焙り   | 39. おろし皿  | 40. 油受け皿 |
| 41. 油徳利   | 42. 行平鍋  | 43. 十能    | 44. ひょうそく | 45. 瓦燈   |
| 46. カンテラ  | 47. ほうろく | 48. 七輪    | 49. 涼炉    | 50. 五徳   |
| 51. 塩壺    | 52. 燭台   | 53. 蒸し器   | 54. 懐炉    |          |
| 63. あんか   | 64. 煙硝播鉢 | 65. 乳棒    | 66. 硯屏    | 67. 釜    |

※本報告では人形・玩具のみで使用

東京大学構内の遺跡陶磁器・土器の分類

東京大学本郷構内の遺跡  
工学系総合研究棟立坑地点発掘調査報告

目 次

例 言  
凡 例  
目 次

第 I 章 調査の経緯と概要	
第 1 節 調査に至る経緯と経過	47
第 2 節 調査地点の地理的・歴史的環境	47
第 3 節 基本層序	
第 II 章 遺構・遺物	
第 1 節 遺構	49
第 2 節 遺物	52
第 III 章 成果と課題－調査地点と「御歩町」長屋、位置関係、地形の検討－（再録）	55

遺構写真図版  
報告書抄録

## 第I章 調査の経緯と概要

### 第1節 調査に到る経緯と経過

発掘調査は東京大学が予定する東京大学（本郷）工学系総合研究棟新営工事（仕上）（その4）立坑建設に伴うものである。当初、立会調査終了後、調査体制を整えて発掘調査を行う予定であったが、立会調査の時点で、遺構数が少なく短期間で調査を行うことが可能であると判断し、埋蔵文化財調査室、施設部建築課（現・計画課）との協議の結果、立会調査を本調査に切り替え、9月13・14日の2日間で調査を実施した。

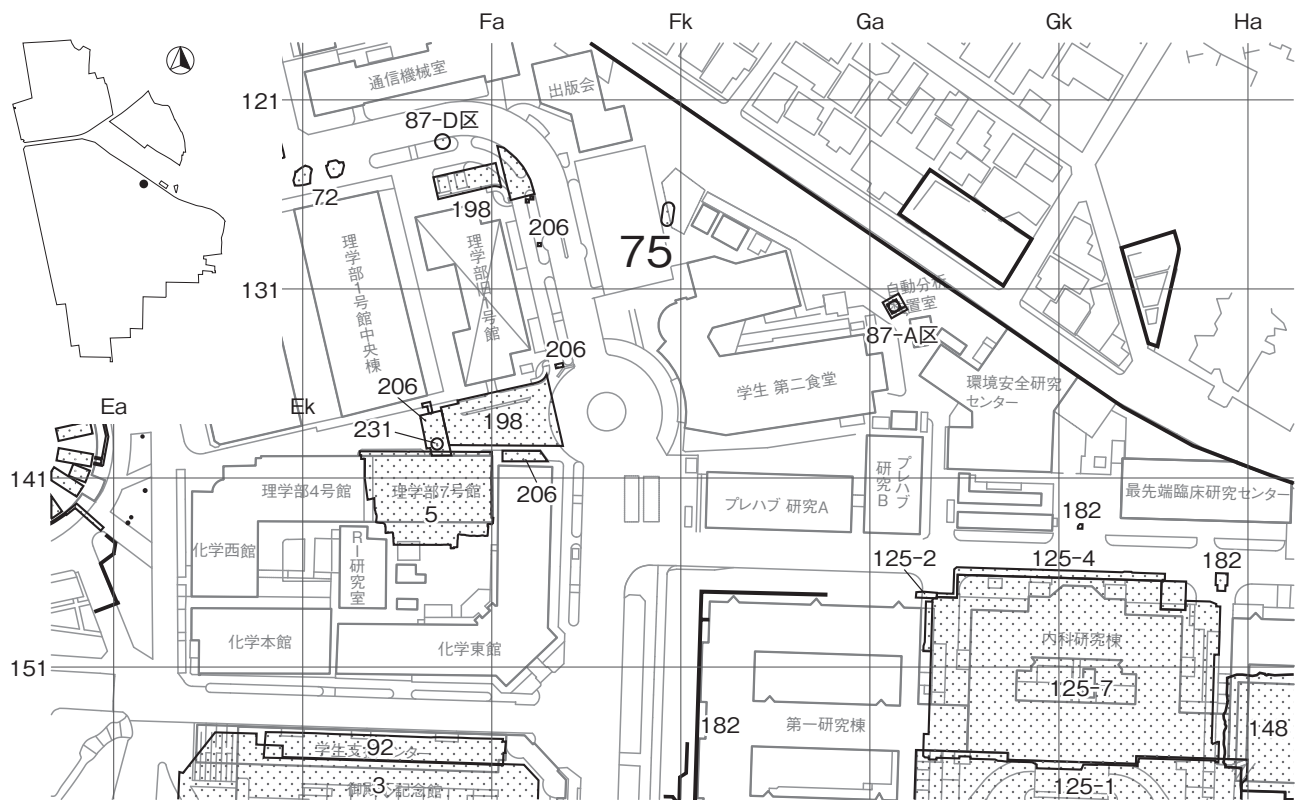
### 第2節 調査地点の地理的・歴史的環境

調査地点は、文京区No.47「本郷台遺跡群」内にあり、武蔵野台地東端、本郷台地M2面上、標高17m付近に位置している（1図75）。本地点南西部の三四郎池は自然の湧水地で、明治以降の大学開発までは、池北東部より弥生門方向に北流する支谷が存在し、工学部3号館地

点の調査で流路が確認されている（東京大学埋蔵文化財調査室 2015）。この支谷が等高線表記されている明治16年『参謀本部陸軍部測量局五千分一東京図測量原図』（以下、参謀本部測量図）から本支谷に向う東西方向の小支谷が確認され、本地点はその北側台地上に位置していることが確認される。なお本地点を含む本郷キャンパス北東部の地理的・歴史的環境は、既刊報告書等に詳細を記しているのをそれを参照されたい（東京大学遺跡調査室 1989、東京大学埋蔵文化財調査室 2006）。

本地点が位置する2つの小支谷に挟まれた台地上には理学部1号館前地点（72）で縄文時代早期末の屋外炉（東京大学埋蔵文化財調査室 2006）、東京都下水道地点（87-D区）で弥生時代中期宮ノ台式期の竪穴建物（東京大学埋蔵文化財調査室 2021）が検出されているが、本地点では江戸時代の遺構・遺物のみ確認された。江戸時代に帰属する遺構面は2面検出され、それに伴う遺構・遺物が確認された。

江戸時代の土地利用状況に比定させるために、調査室ではこれまでの報告書、展示会図録などで、江戸時代屋



75:本地点

3:御殿下記念館、5:理学部7号館、72:理学部1号館前、87:東京都下水道、100:工学部3号館、92:学生支援センター、125-1:クリニカルリサーチセンターA棟I期、125-2:クリニカルリサーチセンターA棟II期（13区）、125-4:クリニカルリサーチセンターA棟II期（14区）125-7:クリニカルリサーチセンターA棟II期、134:工学部3号館施設整備、182:医学部附属病院CRC棟ほか外構、198:理学部1号館、206:理学部1号館外構

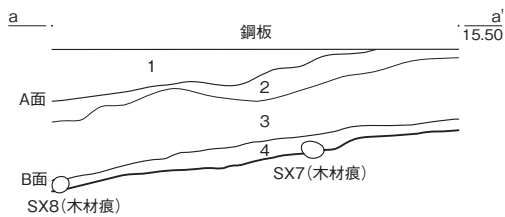
1図 調査地点の位置

敷割図を参謀本部測量図を介して現況図との対比を行ってきた（西秋編 2000 など）。その成果に基づくと本地点は加賀藩本郷邸北東部に比定され、現存する天和3（1682）年以降の上屋敷期絵図との対比から、幕末まで一貫して詰人空間内貸長屋区域に該当する。

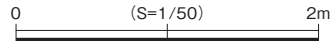
### 第3節 基本層序

1～4層の近世盛土層を確認した（2図）。2層、4層は砂利を含む非常にしまった層序で、各々上面が生活面を形成していたと考えられる。4層はハードルーム層直上に盛土され、北東方向へ緩やかに傾斜している。従って自然地形をハードルームまで掘削して緩斜面上に盛土

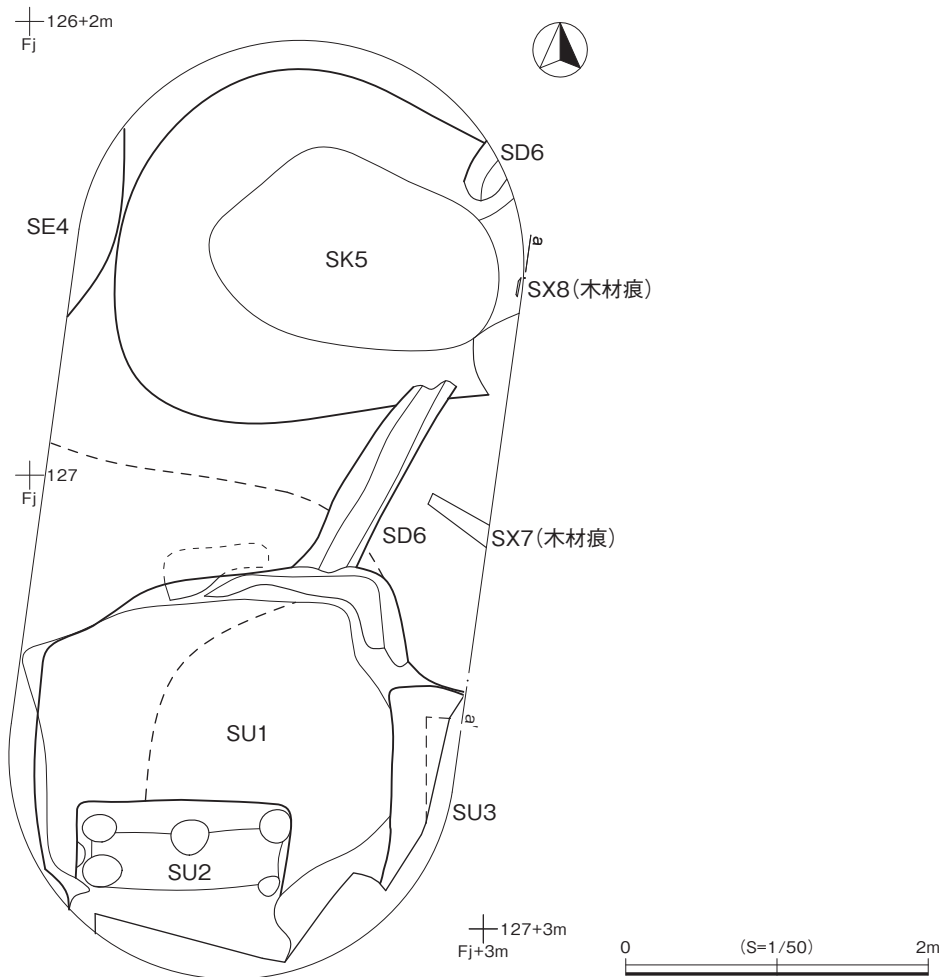
整地したことが窺われる。4層表面をB面とする。3層を介して盛土された2層もB面とほぼ平行して整地され、新たな生活面を作出している。2層上面をA面とする。A面直上には北に向かって焼土主体層（1層）が堆積している。1層中には被熱した瓦片が含まれ、火災後の瓦礫整理を兼ねた盛土層と考えられる。検出された遺構は、A、B面いずれかに伴うと推定されるが、ローム層を確認面としたため、全遺構の帰属面を確認することができなかった。



- 1 赤褐色土（焼土主体、黒ボク土含む。しまりなし）
- 2 暗灰色土（砂利主体、しまり強、路面か）
- 3 灰褐色土（黒ボク土主体）
- 4 暗褐色土（砂、黒ボク土主体、ローム土含、しまり強）



2図 調査区東壁土層堆積状況



3図 調査地点全体図

## 第Ⅱ章 遺構・遺物

### 第1節 遺構

#### 概要

地下室3基、土坑1基、井戸1基、溝1基、木材痕2基の8基の遺構が検出された(3、9図)。当初方針を立会調査としたため、検出遺構は全てローム層上面で確認した。遺構検出状況を受けて急遽本調査に切り替えたため、各遺構の帰属面は壁面の土層観察から判断するに止まった。従って既述した様に壁面土層観察から、A、B2枚の遺構面を確認したが、全ての遺構の帰属面を把握することはできなかった。以下、各遺構の詳細を記載する。

#### 遺構

##### SU1 (4、10図)

調査区南部より検出された地下室である。南東側が調査区外へ延びるため、詳細な平面形態は不詳であるが、調査区内では、北東角に入隅を有する方形を呈している。南側でSU2、東側でSU3と重複し、いずれよりも古い。主軸方向角はほぼ南北方向を示す。調査区内での規模は東西235cm以上、南北250cm以上を測る。床面西側はほぼ平坦であるが、東側は緩やかに傾斜している。確認面からの最大深度は140cmを測る。また北壁床面上約50cmには幅70cm、高さ35cm、奥行15cmを測る棚状施設が構築されている。

覆土は、ローム粒を少量含む暗褐色土が堆積していた。

遺物は、SU1～3一括で取り上げた。コンテナ約1箱で19世紀前半を下限とする陶磁器類が出土している。

##### SU2 (4、11図)

調査区南端部より検出された地下室である。壁面観察よりA面に帰属する遺構である。重複するSU1より新しい。南側は調査区外へ延びるため全容は不明であるが、平面形は方形もしくは長方形を呈すると考えられる。主軸方向角はほぼ東西方向を示す。規模は東西140cm、南北60cm以上、壁面観察による確認面からの深さは約255cmを測る。坑底には北壁両角及び中央に、東西両壁には北壁角から30～40cmに柱穴が存在し、やや壁を削り抜いて掘り込まれていた。柱穴内には15cm角の角材痕が確認されたが、調査範囲が狭小のため、深さは確認できなかった。SU1重複部の土留め施設と考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面は平滑に整形されている。

覆土は上下2層に大別され、短期間で埋め戻された様相を呈している。

##### SU3 (5、12図)

調査区南東部で検出された地下室である。壁面観察よりA面に帰属する遺構である。重複するSU1より新しい。遺構主体は調査区外に存在し、西壁、北壁の一部が検出された。検出範囲の壁面は直線的な鉤形を呈していることから、平面形全体像は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向角はほぼ南北方向を示す。規模は南北130cm以上、東西50cm以上を測る。SU1坑底よりさらに深く掘られているため、坑底を確認することはできなかったが、壁面内側約20cmに板枿痕が確認されたことより、掘方内側に方形内部施設を有していたことが確認できる。

確認範囲内での板枿内覆土はローム粒を含む暗褐色土の単層であるが、最下層付近からロームブロックが含まれる様になる。掘方覆土はロームブロック主体層で埋め戻されている。

##### SE4 (5、13図)

調査区北西部で検出された井戸で、ほとんど調査区外にあり、ごく一部が確認されたに過ぎない。壁面観察よりA面に帰属する遺構である。確認範囲内での規模は最大125cmを測り、比較的大形の井戸と推定される。

1層は焼土主体、炭化材を含む赤褐色土で火災後の瓦礫処理で埋め戻された様相を呈す。本遺構確認レベルと東壁基本土層の位置関係から、基本土層1層の焼土層と同一要因と考えられる。出土遺物の下限年代より天和2(1682)年もしくは元禄16(1703)年の藩邸火災に伴う廃棄と推定される。

焼土層中出土陶磁器類が数点である。漳州窯色絵大皿片、肥前系青磁鉢片、瀬戸・美濃系灰釉ヒダ皿片など17世紀後半に比定される資料が含まれる。

##### SK5 (5、14図)

調査区北部から検出された土坑である。壁面観察よりA面に帰属する遺構である。重複するSD6より新しい。東壁が調査区外に延びているが、平面形は概ね卵形を呈していると考えられる。規模は南北230cm、東西270cm以上、確認面からの深さ80cmを測る。坑底は中央部がやや低く凹凸が認められる。壁は波状に拡がって

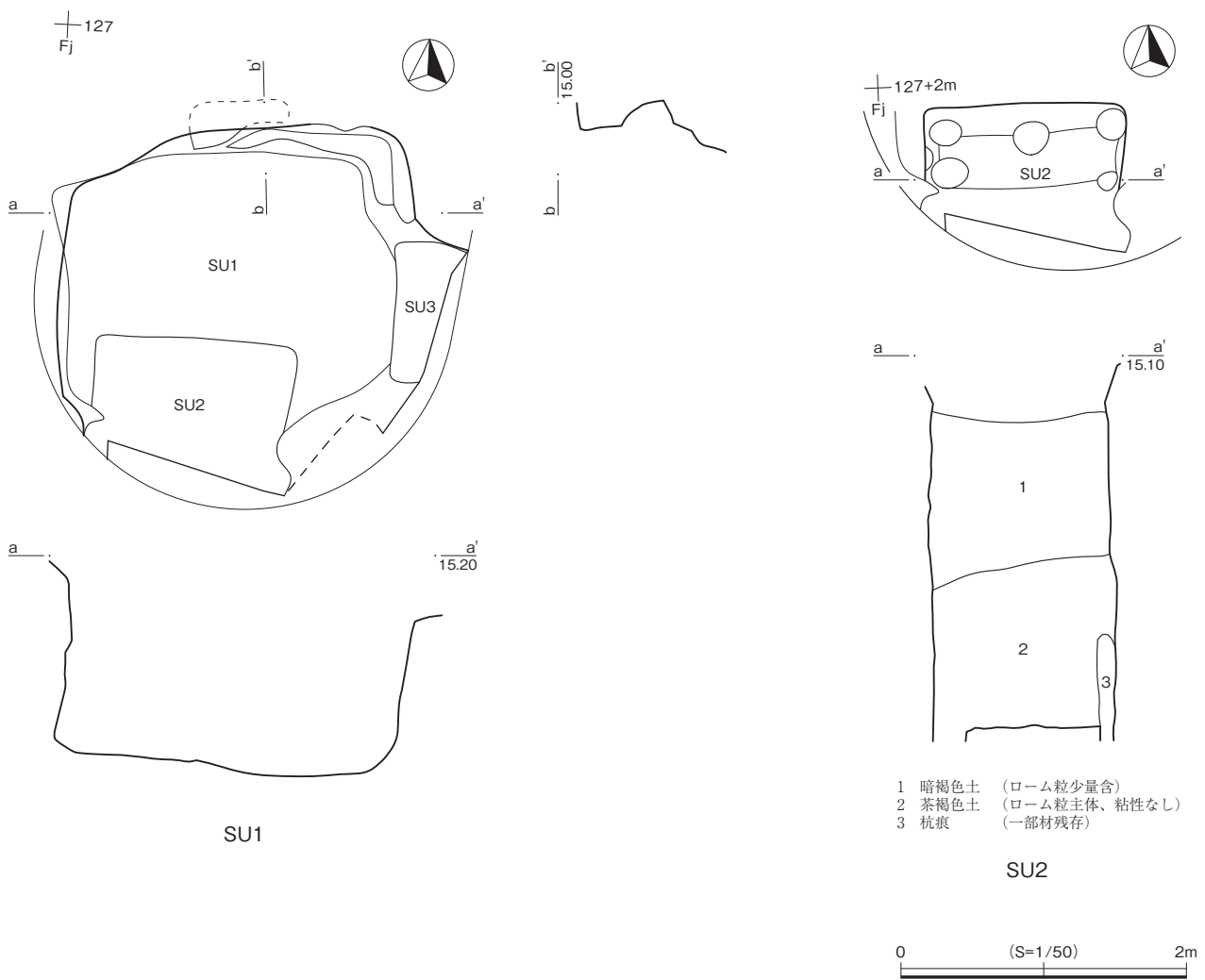
立ち上がり、坑底上約 20cm 付近ではテラス状の張り出しが認められる。

遺物は、コンテナ 1 箱程度出土している。陶磁器の生産年代は、18 世紀後葉から 19 世紀前半が中心であるが、17 世紀後葉から 18 世紀初頭の遺物に被熱痕が認められる。

SD6 (5 図)

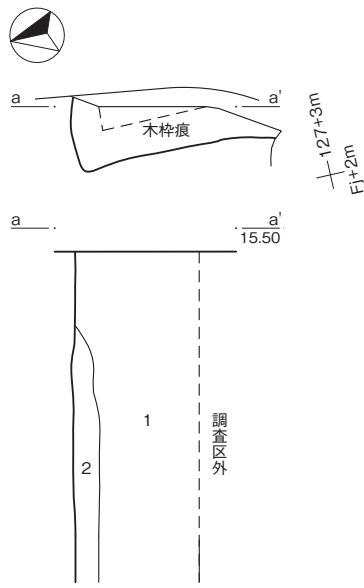
調査区北東部を南北方向に延びる溝で、B 面で検出された。従って重複する SU1、SK5 より古い。主軸方向角は N-29.5° -E を示す。確認範囲での全長は 305cm、幅約 30cm、確認面からの深さ 10cm を測る。断面形は逆台形状を呈す。

遺物は出土していない。



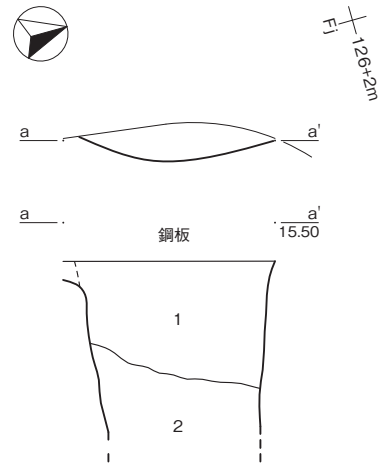
4図 SU1、SU2





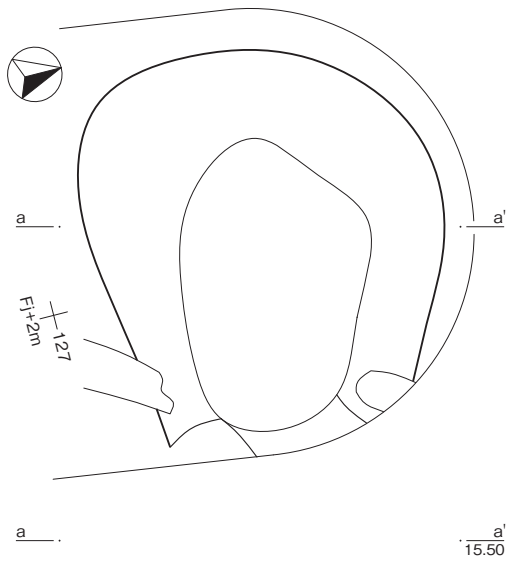
- 1 暗褐色土 (ローム粒少量含)
- 2 暗黄褐色土 (ロームブロック主体)

SU3

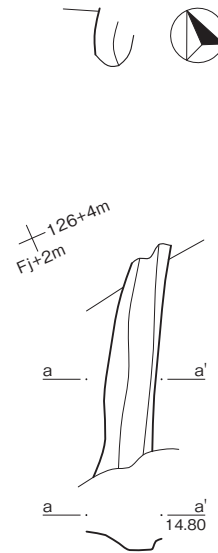


- 1 赤褐色土 (焼土主体、しまりなし)
- 2 暗褐色土

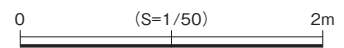
SE4



SK5



SD6



5図 SU3、SE4、SK5、SD6

## 第2節 遺物

### SU1～3（6図）

遺物はSU1範囲内を一括で取り上げたため、SU2、SU3出土遺物も含まれていると推定される。

1は肥前系仏飯器でJB-8-bに分類される。胎土は灰白色を呈し、体部から脚にかけてラフな染付が施されている。2は瀬戸・美濃系灰釉植木鉢でTC-10-eに分類される。肩部割れ口には連続敲打痕が認められ、何らかに再利用されたことが窺われる。体部には点刻によって「玉」「|」?が書かれている。3は瀬戸・美濃系鉄釉植木鉢で、TC-21に分類される。胎土は灰白色を呈し硬質である。口縁部は鏝状を呈し、外端下がわずかに張り出している。高台には2箇所半円形の削り込みが、底部中央には直径22mmの穿孔が認められる。釉は内底部中央を除く内面全体に拭き取ったように薄く施した後、口縁部内側から外面に掛けて厚く施されている。4は瀬戸・美濃系半胴甕でTC-15-aに分類される。胎土は黄白色を呈し、やや軟質である。体部上半に2条の沈線が巡る。口唇部には重ね焼きによる団子状の溶着痕が認められる。釉は外底部を除き施されている。底部中央には直径約30mmの二次穿孔が認められる。5は土師質施釉油皿で、DZ-2-hに分類される。胎土は橙褐色を呈する。底部には左回転の回転糸切り痕が認められる。透明釉が全面に施されているが、剥落が著しい。口唇部には灯心痕が付着している。6は脚付き油受け皿で、DZ-40-eに分類される。胎土は橙褐色を呈し、比較的硬質である。底部を除き透明釉が施されている。7はロクロ成形の塩壺で、DZ-51-wに分類される。底部には左回転の回転糸切り痕が認められる。

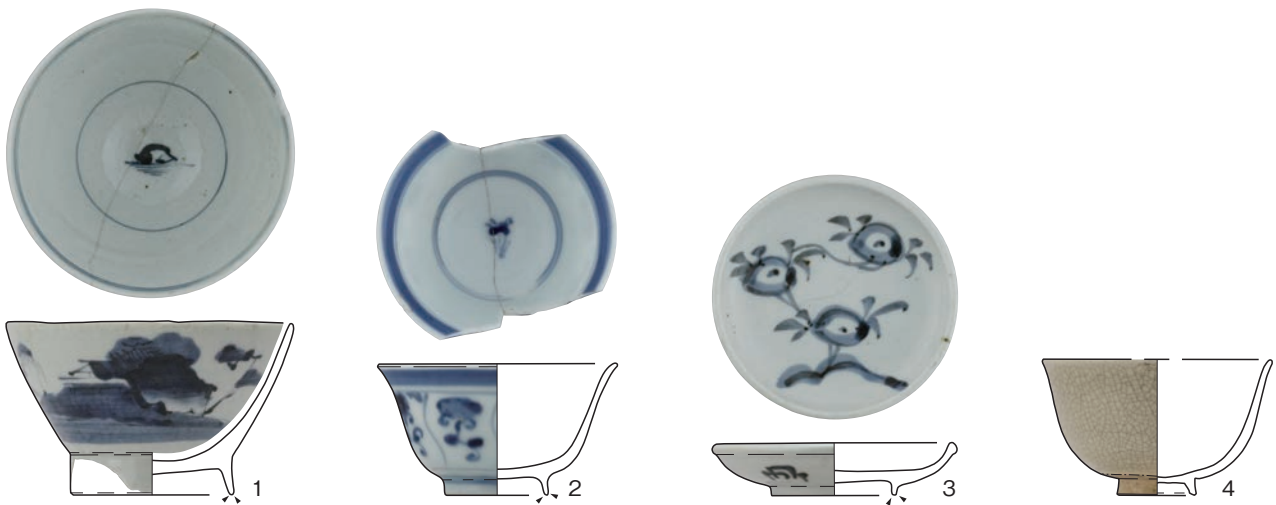
### SK5（6、7図）

1は肥前系染付広東碗で、JB-1-mに分類される。胎土は灰白色を呈する。2は瀬戸・美濃系染付端反碗で、JC-1-dに分類される。胎土は白色を呈する。釉はほぼ全面に微細気泡を伴っている。3は肥前系染付皿で、JB-2-eに分類される。口縁部は玉縁状に成形される。胎土は灰白色を呈する。4は京都・信楽系灰釉端反碗で、TD-1-gに分類される。胎土は黄灰白色を呈し硬質である。畳付外側にはわずかに面取り整形痕が認められる。釉は底部を除いて施され、全面に細かい貫入が認められる。5は瀬戸・美濃系半胴甕でTC-15-aに分類される。胎土は橙褐色を呈し、白色微砂粒を含む。口唇部には重ね焼きによる楕円状の溶着痕が認められる。底部を除き

鉄釉が施されている。底部には外面からの敲打による直径約12mmの二次穿孔が認められる。6は瀬戸・美濃系灰釉植木鉢で、TC-21に分類される。胎土は黄白色を呈する。体部はやや外反して立ち上がり、口縁部は端部に向けて肥厚する鏝状を呈する。底部中央には直径約25mmの穿孔が、高台には幅約20mmを測る半円形の削り抜きが4箇所認められる。釉は口縁部内側から外底部付近まで灰釉が施されている。7は土師質施釉油皿で、DZ-2-hに分類される。底部には左回転の回転糸切り痕が認められる。全面に透明釉が施されているが、剥落が著しい。口唇部には灯心痕が認められる。8は土師質施釉油受け皿で、DZ-40-bに分類される。胎土は橙褐色を呈し、比較的硬質である。底部には左回転の回転糸切り痕が認められる。器面全面に透明釉が施されている。9は硬質瓦質筒形焜炉で、DZ-31-jに分類される。胎土は灰白色を呈し、やや軟質である。口縁部残存部内側には円錐形状の調理具受けが剥落した馬蹄形状の剥離痕が1箇所認められる。底部には円錐台形状の脚が3箇所貼り付けられている。脚周囲は丁寧なナデつけられ、脚先端部は平坦に研磨されている。また底部には板状圧痕が認められる。口唇部から口縁部下沈線までと体部の2条沈線間は丁寧に磨かれ光沢を発している。体部沈線間には唐草状の陰刻文が回転施文具によって施されている。それ以外の器面にはやはり回転施文具によって横方向の陰刻カタピラ文が施されている。

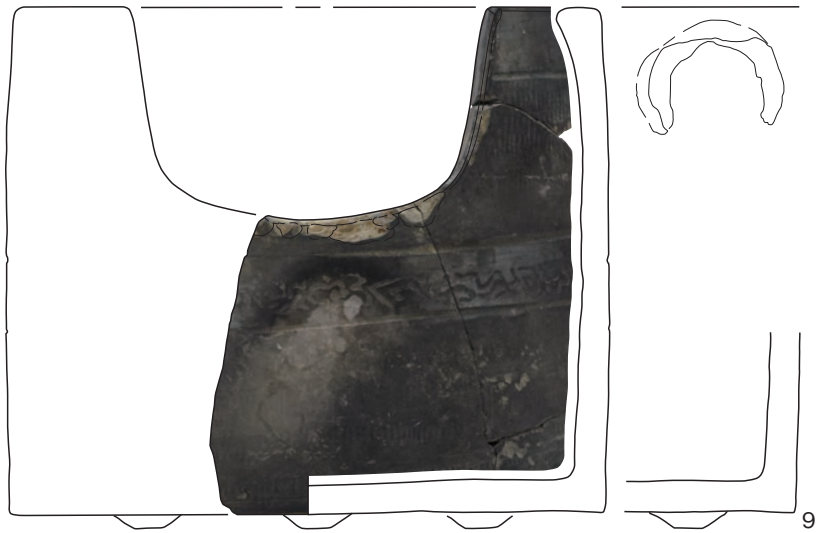
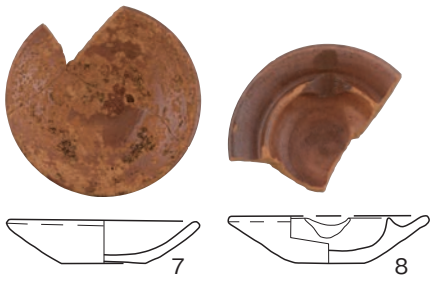
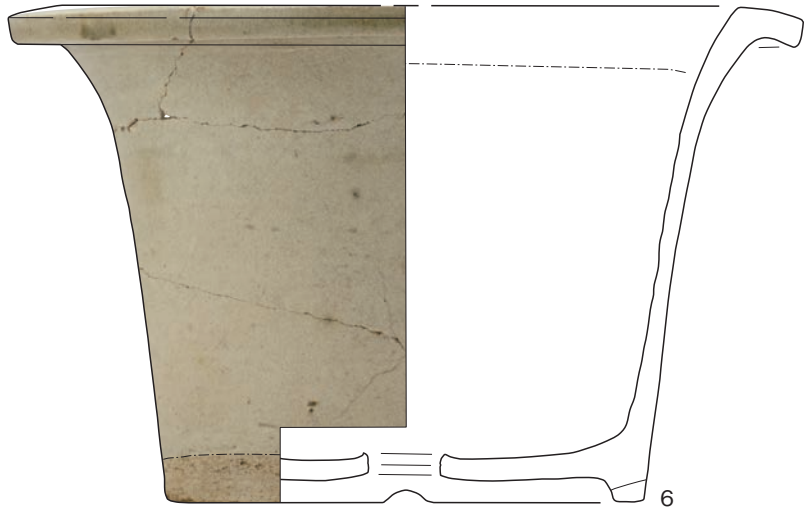
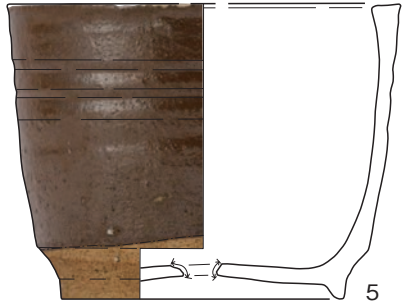


SU1 ~ 3



SK5 (1)

6図 SU1 ~ 3、SK5 出土遺物 (1)



7 図 SK5 出土遺物 (2)

### 第三章 成果と課題 – 調査地点と「御歩町」長屋、位置関係、地形の検討 –

#### はじめに

今回調査を行った、東京大学（本郷）工学系総合研究棟新営工事立坑地点（2005年度）（以下、工学部立坑地点）は東京大学本郷地区の北東部に位置する。調査地点は江戸時代の加賀藩邸北東部に該当する。調査面積は17㎡で、建物跡を示す遺構は検出していないが、土地利用状況を検討する上で重要な地下室、井戸を検出し、遺物は収納箱で11箱が出土した。本考察では、主に、工学部立坑地点の加賀藩邸内の位置について、隣接する理学部7号館地点（東京大学遺跡調査室1989）の研究成果を用いて検討する。

#### 1. 理学部7号館地点の成果

理学部7号館地点報告書では、「江戸御上屋敷絵図」（金沢市立図書館近世史料館蔵 清水文庫、1840～1845）を用い、絵図と現在の地図との重ね合わせが行われた。重ね合わせのポイントは、赤門、心字池（三四郎池）、「御殿空間」の北端・東端の境（御殿下グラウンドの北端・東端）などで、他の絵図でも検討が行われた。検討の結果、理学部7号館地点は「八筋長屋」の三番、四番の中央付近に該当することが明らかになった。絵図面と検出した井戸の配置を検討した結果、絵図に記載された井戸の一部が、検出した井戸と合致すること、地下室などを検出した遺構密度が高い部分が空地（庭）部分に該当すること、長方形土坑のうち3基が絵図面に記載された「廁」の位置と一致することなどが指摘された<sup>(1)</sup>。

#### 2. 「江戸御上屋敷絵図」と調査地点の位置関係、地形

筆者は、これまで『参謀本部陸軍部測量局五千分一東京図測量原図』（明治16年、以下「参謀本部地形図」）<sup>(2)</sup>の等高線と遺構検出面の標高等から、江戸時代から明治時代に行われた開発について検討を行ってきた<sup>(3)</sup>。当地点でも同様の検討を行った。

加賀藩の絵図を現在の地図に重ねて遺跡の検討を行うには、成瀬が指摘するように「地境の変化と絵図面の精度問題」<sup>(4)</sup>、作成意図の違いから単純に重ね合わせ検討することができない。本地点でも同様のことが指摘できるが、理学部7号館地点では、上記のように調査地点と絵図との重ねあわせが詳細に行われていることから、理

学部7号館地点を基準に絵図との重ね合わせを行った。8図は、調査地点と理学部7号館地点、「江戸御上屋敷絵図」との位置関係を示したものに、「江戸御上屋敷絵図」の井戸（理学部7号館地点の成果から）、「参謀本部地形図」の等高線を加えた図である。以下の作業を経て作成した。

- ① 山上会館・御殿下記念館地点報告書（東京大学埋蔵文化財調査室1990）の「附図8 加賀藩本郷邸図」に、理学部7号館地点報告書の「図230 1840年代前半の絵図面と理学部7号館地点との対比図」を重ねる。
- ② ①の図に「本郷キャンパス発掘地点マップ」（西秋編2000）の理学部7号館地点の位置を基準に、工学部立坑地点と2004年に調査を行った理学部1号館前地点（東京大学埋蔵文化財調査室2006）を重ねる。
- ③ 「江戸御上屋敷絵図」には、「御歩町」長屋の道路部分には井戸〔○〕が記載されているため加筆。
- ④ 「参謀本部測量図」を「御殿空間」の北端・東端の境（御殿下グラウンドの北端・東端）によって重ね合わせ、等高線を加筆。

その結果、調査地点は、藩主やその夫人、女中らの生活空間である「御殿空間」の北東、「八筋長屋」の北、「御歩町」長屋に位置し、藩邸内の諸用役及び、詰人の居住区である「詰人空間」にあたる（8図）。南北に長い形態の「御歩町妻小屋」1棟を除いて、東西に長い形態を示す長屋8棟が道路を隔てて南北に連なる。道路には井戸が配置されている。各長屋の建物の前（南側）には空地（庭）が存在する。御歩町壺番町、御歩町式番町、御歩町三番町、御歩町四番町の長屋の部屋は、ほとんどが三間もしくは三間半の間口で、「八筋長屋」の長屋の部屋に比べ小さく区画されている。調査地点は、地下室の検出からも長屋の空地（庭）に該当すると考えられる。

参謀本部測量図には、調査地点周辺の平坦地には「荒」と記載されている。この部分の等高線を見ると、長屋の西側、標高16mの等高線は、ほぼ長屋、道の配置と重なる。また、「御歩町」と「八筋長屋」の間の道にも等高線が確認できる。この等高線の状況は、自然のものではなく土木工事によるものと考えられ、長屋と道路との関係を示しているといえる。「参謀本部測量図」の調査地点周辺には、標高と等高線が記載されていないため標高による江戸時代から明治時代の開発について検討でき



8図 調査地点と理学部7号館地点、「江戸御上屋敷絵図」(1840～45年)との位置関係、地形

ないが、遺構を検出した標高は約 15.4 m、調査地点南側の等高線 16 m で、調査地点からは硬化面を確認したことから、明治時代以降、大規模な掘削が行われたとは考えにくく、明治 16 年以降、盛土が行われ、現在の地形になったと考えられる。「江戸御上屋敷絵図」には「御歩町妻小屋」「八筋長屋」の西側に土手が描かれるが、明治 16 年にはなくなり平坦地となっている。

調査地点の東、現在の東京大学と弥生町の境界に石垣がある。この石垣は加賀藩の絵図と「参謀本部測量図」の比較から、明治時代以降に作られたものと考えられる。加賀藩の地境は緩やかな曲線であったのに対し、「参謀本部測量図」、現状は直線になっていることから、大規模な土木工事が行われたと考えられる。この地境は、文部省用地、警視局の地境、後に東京帝国大学と向ヶ岡弥生町の地境となる<sup>(5)</sup>。石垣に使用されている石材の加工方法、積み方には、少なくとも 3 種が確認されている。これらのなかには、地境の変化を反映したものと考えられるものがあることから、この件については今後の課題としたい。

## まとめ

理学部 7 号館地点を基準に、地形図、絵図との検討を行った。調査の結果、調査地点は 1840～45 年頃の段階で「御歩町」長屋の一角に位置することが明らかになった。今回は調査面積が狭く、土地利用状況、考古学の成果による文献資料の再検討などができなかったが、隣接

する理学部 1 号館前地点の調査では排水溝、道（硬化面）を検出しており、これらのデータから今後、検討が可能であると考えられる。出土遺物は少なく数量による分析を行うことはできないが、陶器の割合が多く、日常雑器の割合が多い傾向がみられた。

1840～1845 年に「御歩町」長屋の建物があった区域は、理学部 7 号館地点で「八筋長屋」の変遷の検討に使用されている「武州本郷第図」（前田育徳会所蔵、元禄元年〈1688〉）、「上中下屋敷絵図」（原題「御上屋敷惣絵図」、前田育徳会所蔵、1865～1868）他によれば、建物の増改築等が確認できる<sup>(6)</sup>。絵図、文献資料から読み取れる長屋の変遷、空間構成、下級武士である「御歩」の文書での記述については今後の課題としたい。

本郷構内の長屋の調査（既報告地点）は、理学部 7 号館地点、山上会館龍岡門別館地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2004）等で行われている。これらの成果と文献資料の検討を行った上で、土地利用状況の比較、遺物による具体的な中下級武士生活の復元を行う事によって、大名屋敷における「御殿空間」と「詰人空間」についてより明確にしていきたい。

## 【註】

- (1) 細川 義 1989「第 8 章 第 1 節 文献史料からみた理学部 7 号館地点」『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 1 東京大学本郷構内の遺跡 理学部 7 号館地点』pp.480-506、山口剛志、羽生淳子 1989「第 8 章 第 2 節 考古学資料からみ

た理学部7号館地点』『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』pp.506-511、山口剛志、羽生淳子、細川 義 1989「第8章 第3節 絵図面と考古資料との対比」『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』pp.511-518

(2) 建設省国土地理院所蔵、(財)日本地図センター複製 1984『参謀本部陸軍部測量局 五千分一東京図測量原図』

(3) 原 祐一・小泉好延・森本幹彦・堀江武史・石原道知 2004「東京大学工学部武田先端知ビル地点検出の方形周溝墓ーガラス小玉の材質分析・土器・保存公開・弥生町遺跡と江戸から明治の開発ー」『有限責任中間法人日本考古学協会第70回総会研究発表要旨』pp.85-88

(4) 成瀬晃司 2000「考古学からみた加賀藩本郷邸「詰人空間」」『東京大学コレクションX加賀殿再訪』p.167

(5) 明治6年『活券図』（東京都公文書館蔵）、明治7年『東京大小区分絵図』他 納ノ命アルトキハ従ラニ耗費ニ属スルノミナラス警備上尤モ支障アルヲ以テ該地ヲ還納シ更ニ第四大區六小區向ヶ岡彌生町東京府属地三萬八千九百歩餘ヲ以テ本庁属地三萬八千九百歩餘ヲ以テ本庁用地射的場用地ニ為サンコトヲ内務省ニ申請シ其ノ允許ヲ得タリ 七年十月九日九年四月二十七日参観]

警視庁 1893『警視廳史稿下巻 警視庁史卷十五』pp.17-18

「(明治9年5月)二十六日向ヶ岡彌生町舊文部省用地ヲ受領ス内務省特達

府下向ヶ岡彌生町舊文部省用地内四千六百歩ヲ第二種官有地ニ属シ本庁ニ下付ス

是ヨリ先キ五月十六日本廳用地向ヶ岡ニ接続スル文部省用地ノ内凹地ニシテ射的場ニ恰當スルモノ四千六百歩アルヲ以テ本廳用地一萬三千歩ヲ以テ之ニ交換センコトを文部省ニ協議シ其肯諾ヲ得更ニ之ヲ内務省ニ稟議セシニ令シテ本廳用地一萬三千歩ヲ東京府ニ還付セシメ文部省用地内需求ノ件ハ更ニ指示ス可ヲ以テ是ニ至テ此令アリ

按スルニ向ヶ岡ノ地所ハ射的演習廢止廢止後即チ明治十八年十月七日一社ヲ營ミ之ヲ弥生社と稱シ廳員ノ事ニ死セシ者ヲ茲ニ祠祀ス其後明治二十年四月五日該社ヲ芝公園内ニ移シ 舊地所建造物ヲ併セテ之ヲ賣却ス 一月二十四日四月二十七日参観]

(6) 「武州本郷第図」(前田育徳会所蔵、元禄元年(1688))、「前田家本郷御屋鋪図」(三井文庫所蔵、(1761~1771))、「江戸本郷御上屋敷」(金沢市立図書館蔵 加越能文庫、1802~1825)、「御上屋敷圍并惣御小屋割図」(金沢市立図書館蔵 加越能文庫、1802~1825)、「本郷邸図」(前田育徳会所蔵、1827~1829)、「江戸御上屋敷絵図」(金沢市立図書館蔵 清水文庫、1840~1845)、「上中下屋敷絵図」(原題「御

上屋敷惣絵図」)(前田育徳会所蔵、1865~1868)

#### 【参考文献】

田中善男、宇佐美美孝、屋敷道明 1989「金沢藩」『藩史大辞典 第3巻 中部編I 北陸/甲信越』木村礎、藤野保、村上直編、雄山閣 pp.159-184

東京大学遺跡調査室 1989『理学部7号館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室 1990『山上会館・御殿下記念館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室 2004「山上会館龍岡門別館地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報(2000・2001・2002年度)』4

東京大学埋蔵文化財調査室 2006「理学系研究科・理学部1号館前地点発掘調査報告」『東京大学構内遺跡調査研究年報(2003・2004・2005年度)』5

西秋良宏編 2000『加賀殿再訪』東京大学総合研究博物館

宮崎勝美 1990「第1節 加賀藩本郷邸とその周辺」『山上会館・御殿下記念館地点 第3分冊 考察編』pp.5-23

山口恵一郎構成、師橋辰夫・清水靖夫執筆 1984「参謀本部陸軍部測量局「五千分一東京図」測量原図 複製版(36面) 解題」



9図 調査地点全景



10図 SU1



11図 SU2



12図 SU3



13図 SE4



14図 SK5



15図 調査風景



## 報告書抄録

ふりがな	とうきょうだいかくこうないいせきちようさけんきゅうねんぼう
書名	東京大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
巻次	16
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	成瀬晃司(編)、原 祐一
編集機関	東京大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1 駒場リサーチキャンパス内 TEL: 03-5452-5103
発行年月日	令和6年1月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	所在地	遺跡番号	° ' "	° ' "			
とうきょうだいかくほんごうこうないの 東京大学本郷構内の いせき 遺跡 こうがくけいそうごうけんきゅうとう 工学系総合研究棟 たてこうちてん 立坑地点	とうきょうと ぶんきょうく 東京都 文京区 ほんごう 本郷 7ちようめ 3ばん 1ごう 7丁目3番1号	13105	47	35° 42' 50"	139° 45' 51"	20050913 ~ 20050914	17.0㎡	工学系総合 研究棟新営 に伴う外構工 事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東京大学本郷 構内の遺跡  工学系総合研究棟 立坑地点	包蔵地 屋敷	近世	近世 溝1基、井戸1基、 地下室3基、土坑1基 木材痕2基	近世 陶磁器、土器、 金属製品、 動物遺体	硬化面を伴う遺構面2 面を検出。上位面上 には火災後の瓦礫整 理盛土層が堆積。

### 要 約

加賀藩邸北東縁辺部に比定される調査地点で、検出された地下室、井戸などの遺構は絵図面との対比から、「御歩町」勤番武士長屋に伴う施設と考えられる。



東京大学本郷構内の遺跡

野球場北側擁壁改修地点

## 例 言

1. 本報告は、野球場北側擁壁改修にともなう埋蔵文化財調査報告である。
2. 本地点の略称は「HYK20」とする。
3. 調査地点は東京都文京区弥生1丁目1番1号、東京大学本郷構内に所在している。
4. 調査面積は386.6㎡であった。
5. 本地点は文京区 No.47「本郷台遺跡群」内に位置している。
6. 本地点の試掘調査・立会調査は、東京大学埋蔵文化財調査室が行い、堀内秀樹、香取祐一が担当した。
7. 調査期間は、令和2年（2020）年1月9日～11月9日である。
8. 本報告の編集は堀内、香取が行った。
9. 発掘調査に伴う図面、写真、出土文化財は東京大学埋蔵文化財調査室が駒場リサーチキャンパス（東京都目黒区駒場4-6-1）、東京大学柿岡教育研究施設（茨城県石岡市八郷町柿岡414）内にて保管、運用している。
10. 発掘調査および遺構図版作成にあたり加藤建設株式会社より御協力を賜った。

### 東京大学本郷構内の遺跡 野球場北側擁壁改修地点発掘調査報告

## 目 次

### 例 言 目 次

第Ⅰ章 調査の経緯と概要	
第1節 調査に至る経緯と経過	63
第2節 調査の概要	63
第Ⅱ章 調査の成果	67
遺構写真図版	
報告書抄録	

## 第 I 章 調査の経緯と概要

### 第 1 節 調査に到る経緯と経過

東京大学施設部は、老朽化した弥生キャンパス野球場北東側、民地との境にある擁壁の改修工事を計画している。工事地点は文京区 No.47 本郷台遺跡群、および文京区 No.28 弥生町遺跡群として、周知の遺跡に登録されている（1 図）。このことから埋蔵文化財の遺存状況を確認する必要があった。

試掘調査を 2020 年 1 月 15～17 日に、立会調査を 2020 年 1 月 9 日～11 月 9 日まで断続して行い、調査面積は 386.6m<sup>2</sup>である。調査は埋蔵文化財調査室が行ない、堀内秀樹・香取祐一が担当した。

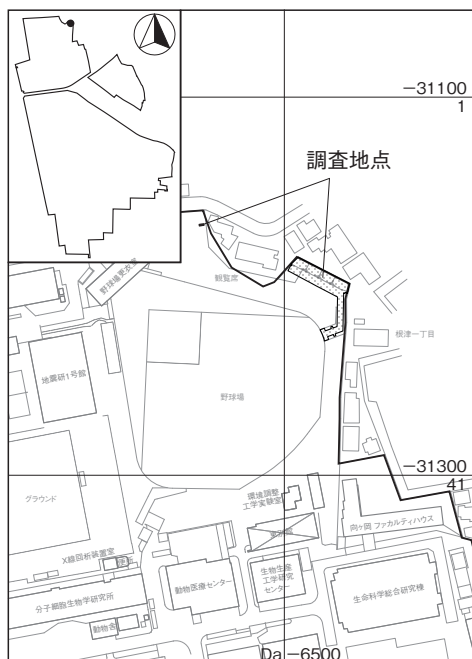
### 第 2 節 調査の概要

改修工事は擁壁にかかる土圧の減少と、補修を目的とする。そのため、現在擁壁南西側の控え部分上部の盛土を、軽量盛土へ変更をし、さらに長さ 14m の山留め杭を幅 1m 間隔で打設し、この山留め杭を、擁壁の反対方向へアースアンカーで固定する工事である。

調査対象エリアは掘削深度や調査方法により、A・B・C・D 区の 4 箇所に分かれる（2 図）。

#### A 区（2 図）

2 図下方、野球場の外壁からゲートを越え、北東から



1 図 調査地点位置図

北へと傾斜するスロープを下り、擁壁上部に至る工事車両の動線が予定されている。スロープから擁壁上部までの不均一な地盤をフラットにするために、現地表面から T.P.13.2m までの掘削が予定される範囲である。面積は 204.0m<sup>2</sup>である。

この区に 2m × 4m のトレンチ 4 箇所の設定を予定していたが、T.P.13.2m まで掘削する予定の A1 区を試掘調査対象に変更し、コンクリートスロープ上部の、表土除去のみを行った範囲を、A2 区とした。

#### 立会調査

当概区の地形は、野球場外周が盛り上がり、北西側に傾斜している。工事車両の通路として、T.P.14m までフラットな地盤を作る掘削に対し、立会調査を行った（11～14 図）。

A1 区ではレンガ・コンクリートガラが大量に出土している。A2 区では現況で東側に露出していたコンクリートスロープが、北西側・西側の擁壁と一体の通路であることが確認された（13,14 図）。またコンクリートスロープ北端部には、端部の形状に沿って排水溝が検出されている（14 図）。スロープ上部の覆土は、すべて近現代の盛土と思われる。

#### 試掘調査

立会調査の際に上述のコンクリートスロープを壊すことなく進められることになったため、A1 区ではトレンチを 3 箇所設置し、試掘調査を行った。

##### トレンチ 1（3、15～19 図）

南西から北東 2m、北西から南東 4m の矩形を設定した。掘削深度は約 0.8m である。GL - 0.2m で硬化面を検出した（1 面）。検出された遺構は 2 基で、ともにレンガ・コンクリートガラを含むことから、近現代の遺構と思われる。1 面下 0.3～0.4m で土質に変化が見られたためプラン確認を行った。南西側に約 0.4m の円形のプランを確認し掘削を行った。板ガラス片などを含むしまりの弱い覆土で、円形に検出されることから、近現代の植栽痕と思われる。この 2 面以下を T.P.13.2m まで掘削を行った。南西から北東へ傾斜を持って堆積しており、現況地形の傾斜と一致する。坑底では縞状にプランが検出されたが、これは壁面の状況から覆土の傾斜を反映したものである。坑底付近でもレンガ・コンクリートガラが検出されている。

## トレンチ 2 (4、20～24 図)

南西から北東 2m、北西から南東 4m の矩形を設定した。掘削深度は約 0.8m である。GL - 0.2m で灰・炭化物を含む面が検出された。土質にやや相違はあるが、トレンチ 1 の 1 面に相当すると考えられるが、それほどの硬化は見られない。また GL - 0.6～0.9m で土管を使用した排水溝が検出された。この排水溝はコンクリート枡を有し、北側へと傾斜する径 12.5cm の土管が検出された。上記、立会調査で検出されたコンクリートスロープ端部の排水溝に接続していたと思われる (6 図)。

坑底で縞状のプランが検出されたが、これはトレンチ 1 同様に堆積土の傾斜によるものと思われる。トレンチ北東では大型コンクリートガラが検出されている。このコンクリートガラは、捨てコン様を呈している。

## トレンチ 3 (5、25～27 図)

南西 5.4m、北東 4.5m、北西から南東 2m の台形状のトレンチを設定した。これは北東側に立会調査で検出されたコンクリート基礎のためである。掘削深度は約 0.8m である。

GL - 0.4m で北西側に暗灰色砂層・焼土粒・炭化物を微量含む、しまりのやや強い層位が検出された。トレンチ 1・2 の表土下に検出される土質と類似し、検出レベルも T.P.14m 前後と同レベルである。硬化の様相は一定ではないものの、A1 区全体に面をなしていると考えられる。坑底で検出された P1 は、コンクリートスロープ基礎の掘方と思われる。P2 は堆積土の傾斜によるものと思われる。トレンチ北隅で P3 が検出されたが、坑底でコンクリートガラが検出され、攪乱と思われる。

## B 区 (2、28～30 図)

A1 区での T.P.14m までの立会調査、および T.P.13.2m までの試掘トレンチ調査の際に、多量なレンガ・コンクリートガラの出土し、山留め杭打設の支障物が予想された。このため予め山留め杭の打設範囲に、重機による掘削を行った範囲を B 区とした。面積は 31.8m<sup>2</sup> であるが、A 区・C 区ともに重複エリアを有する。概ね GL - 2.5m まで掘削を行った。底部付近でも大型のレンガ・コンクリートガラを含んでいた。コンクリートスロープ端部の、排水溝の続きが検出されている。

## C 区 (2、31～46 図)

山留め杭と北西側擁壁の間である。面積は 204.0m<sup>2</sup> である (2 図)。この擁壁は昭和 11～12 年の構築されたもので、東京大学施設部に保存されている工事図面から、基礎コンクリートを有した逆 T 字状を呈し、基礎コン

クリート範囲は、2 図の破線で示した範囲が考えられた。範囲内はすでに、擁壁構築時に掘削され、遺構の遺存度は低いことが予想されたため、立会調査で対応した。掘削深度は擁壁基礎コンクリートまでで、北側 T.P.7.14m、南側が T.P.6.42m が予定されていた。

覆土は予想通り、擁壁の埋め立て土で形成され、コンクリートガラ・レンガを多量に含む近現代の暗褐色土の盛土であった (31～38 図)。また擁壁に沿って、現況では傾斜面に 7.7m 幅でコンクリート土間が設置されていたが、全体では幅 1.6m × 20.3m の規模であることが判明した (6、33 図)。これは、構築時の擁壁上部を解体したものと考えられる。さらにこのコンクリート土間下部には、北側で擁壁に接した、コンクリート排水枡が検出された (6、36 図)。規模は北東-南西約 1.1m、北西-南東 0.9m で、厚みは約 0.13m である。検出標高は T.P.11.9m である。A1 区トレンチ 2 で検出された土管と接続していたと考えられる。

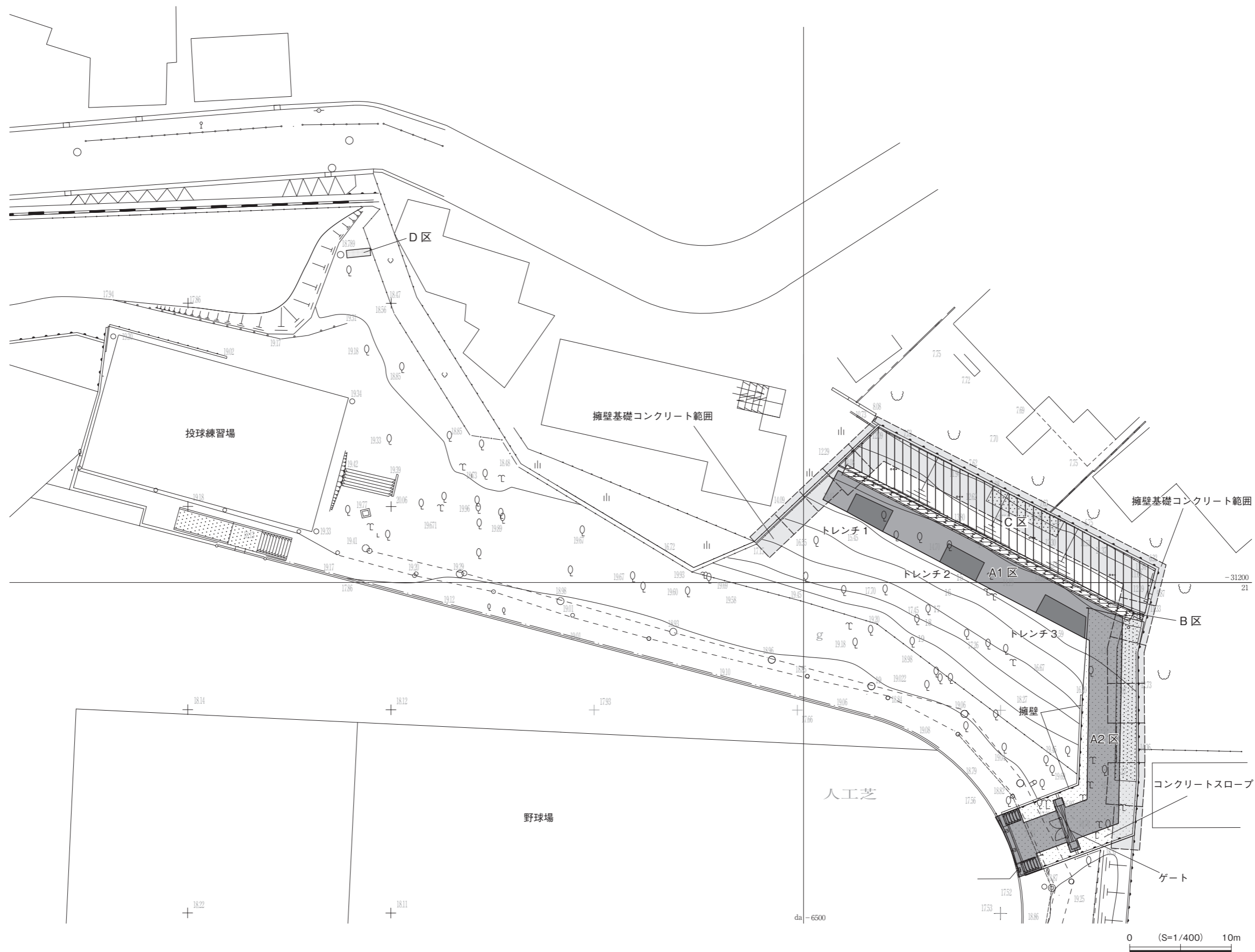
下部の覆土は、6 図 a 地点の T.P. 約 8.1m 以下に、青灰色粘土・シルトを微量含む粘性の強い、泥炭層に類似する黒色土が堆積していた (39、40 図)。黒色土上部には水付きローム、青色砂、黄色砂が不均質に堆積している。この黒色土は a 地点付近で検出標高が一番高く検出されている。

事前のボーリング調査の結果から、床付けレベルでは砂層が堆積し、雨水は自然浸透による排水が想定されていたが、この泥炭層に類似する黒色土は、浸透を阻害すると考えられたため、設計の変更が検討された。そこで黒色土の堆積厚を調べるために試掘を行った結果、黒色土の堆積は 1.1m で下部に砂層の堆積が確認された (42 図)。予定された床付けレベルからさらに 1.1m レベルを下げることは、設計上無理があったため、浸透桝とポンプによる強制排水設備の設置へと変更され、これにもなう掘削範囲、北西-南東 7.6m、北東-南西 1.7m (6 図 浸透桝設置部分) を、床付けレベルから 1.1m 掘削を行った結果、坑底では北西側は黄橙色シルト・砂層、中央部は青灰色粘土・シルト層、南東部は上部と同じ、泥炭層に類似した黒色土であった。

## D 区

上述、C 区での設計変更にともない、排水施設が必要となったため、C 区から投球練習場北の D 区で、既存の人孔に接続することとなった (1 図)。

掘削範囲は接続枡および人孔へ接続する埋設管のための掘削範囲で、東西 2.3m、南北 0.7m、深さ 0.65m である。掘削土はすべて表土中であった (47 図)。



2図 調査区配置図



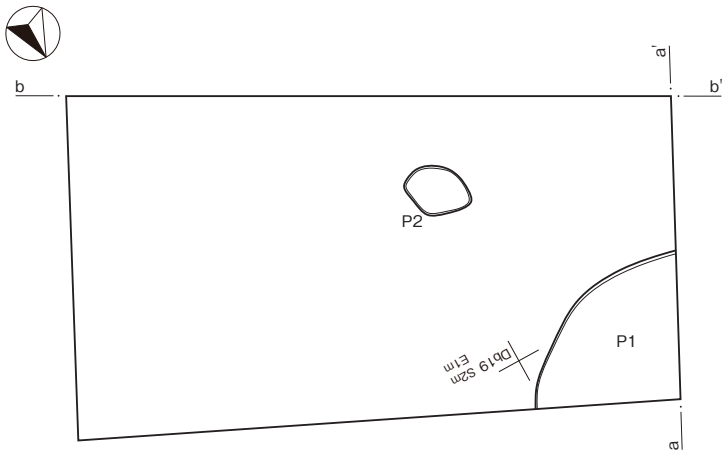


## 第Ⅱ章 調査の成果

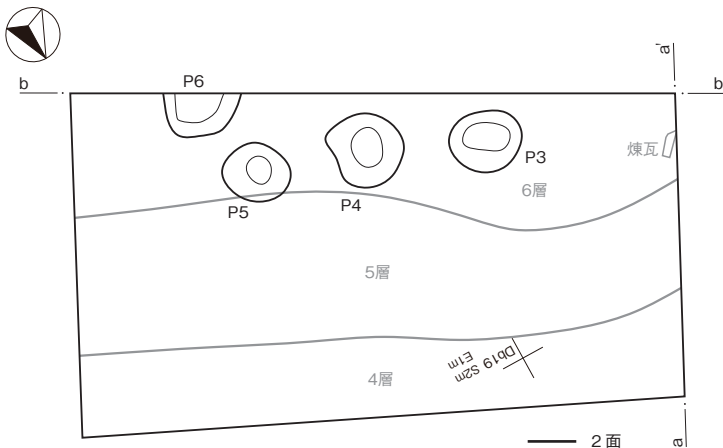
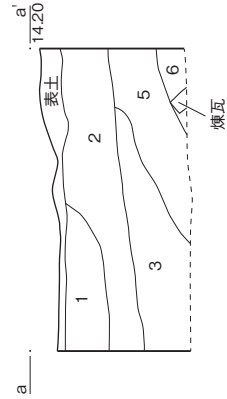
今回の調査では、近世以前に遡る遺構、またそれにもなう遺物は検出されていないが、近現代に行われた、大がかりな土木工事の一片を、うかがうことができた。

東京大学施設部に保存されている工事図面から、昭和11年に野球場が構築された時点での、状況を読み取ることができる(7、8図)。この図によると、調査地点周辺の、野球場周囲の土手状のマウンドは、盛土であることが判る。また試掘調査の各トレンチで検出された硬化面が、そのレベルから、この工事で構築された整地面に相当すると考えられる。

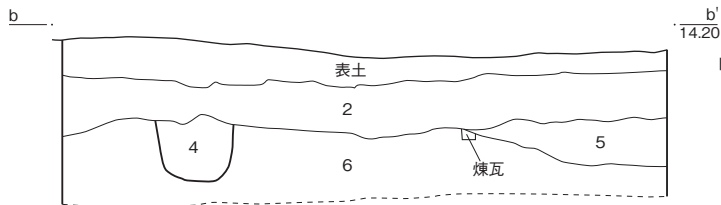
また、C区の最下部で検出された、泥炭層に類似する黒色土の帰属時期については、遺物が出土しなかったことから不明であるが、江戸初期の「(江戸全図)」(白桦市教育委員会)の記載から、当該区には北側から、谷が入り込んでいる様子が描かれている(9図)。この谷は明治11年「東京府下向ヶ岡地所交換ノ儀伺」(国立公文書館 公02312100)にも描かれており(10図)、江戸期を通じて開析していたと考えられ、擁壁部分は谷の下部にあたると思われる。



1面

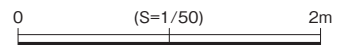


2・3面

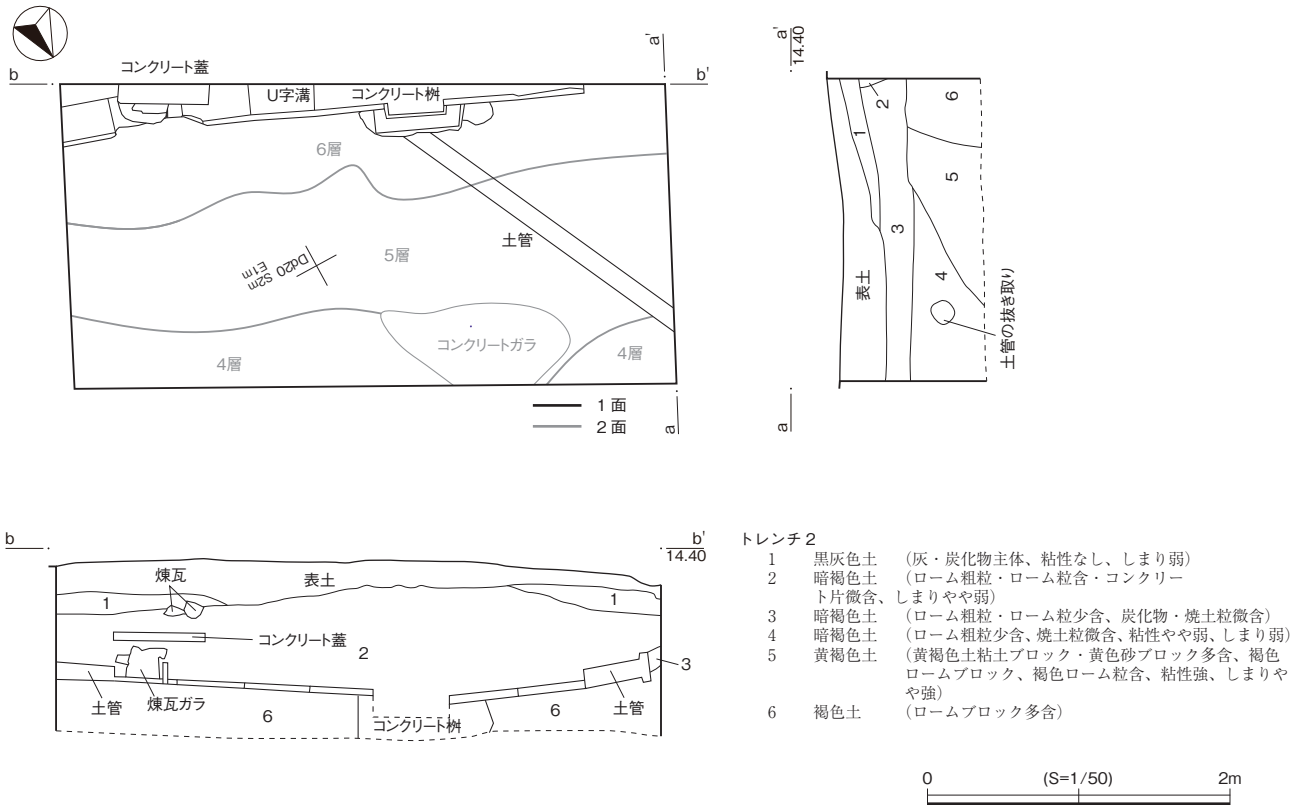


トレンチ 1

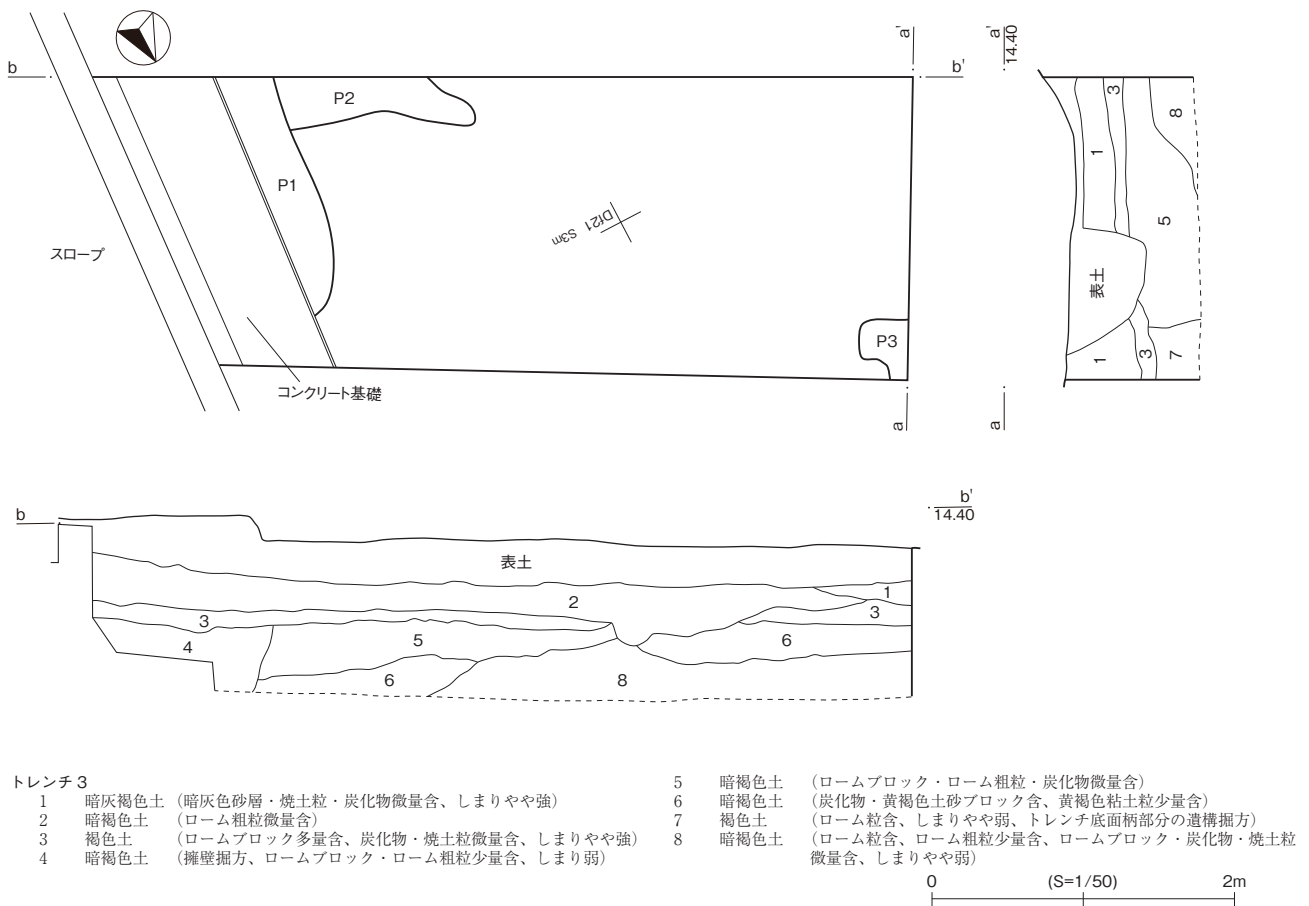
- 1 暗褐色土 (P1、ローム粗粒微量含、炭化物・焼土粒極微量含、粘性弱、しまりやや弱)
- 2 暗褐色土 (炭化物・焼土粒・ローム粗粒微量含、土部が硬化)
- 3 暗褐色土 (ロームブロック・ローム粒少量含、しまりやや弱)
- 4 暗褐色土 (P6、板ガラス含、炭化物微量含、根穴、しまり弱)
- 5 黒褐色土 (ロームブロック・ローム粒微量含、しまりやや弱)
- 6 黄褐色土 (ロームブロック主体、しまり弱)



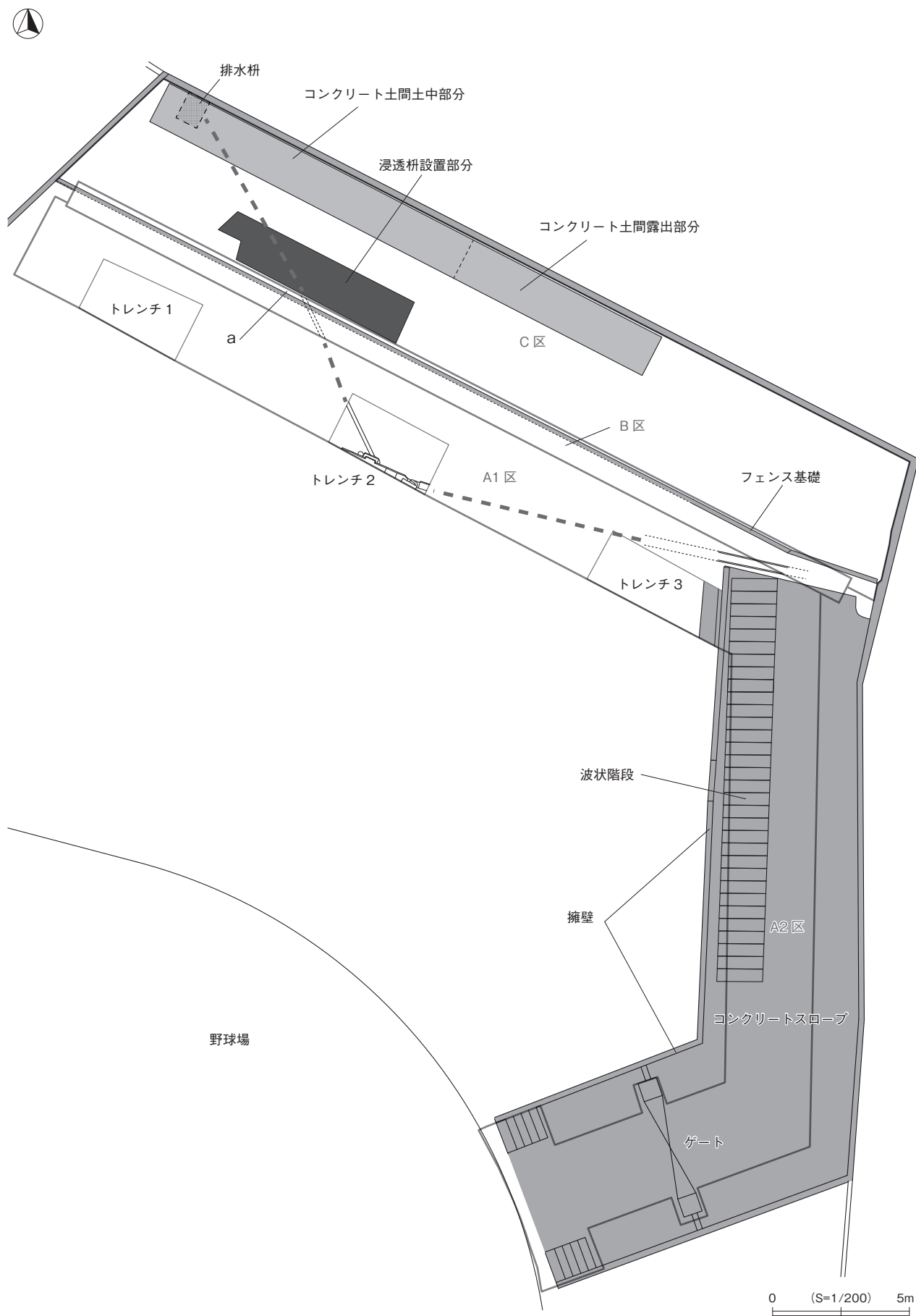
3図 トレンチ1



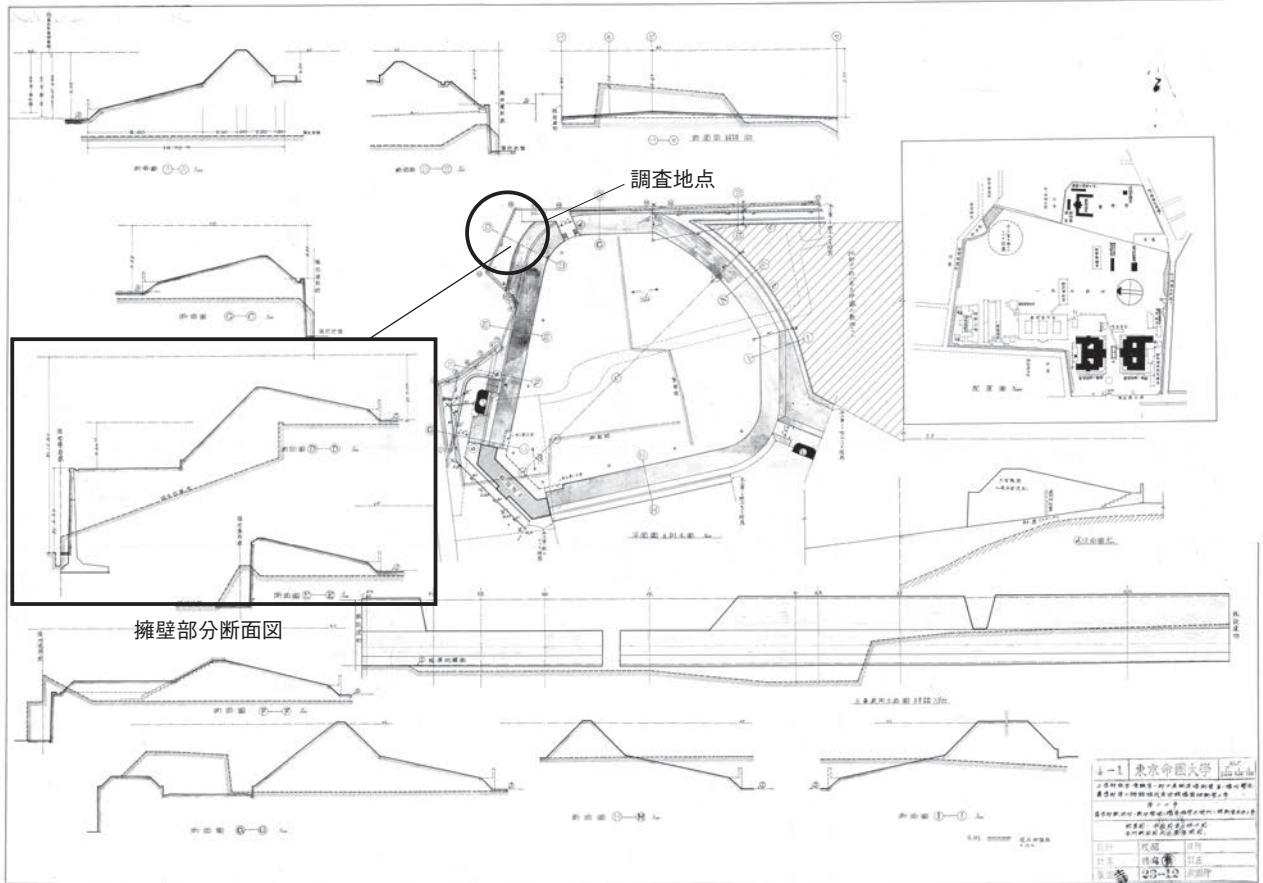
4図 トレンチ2



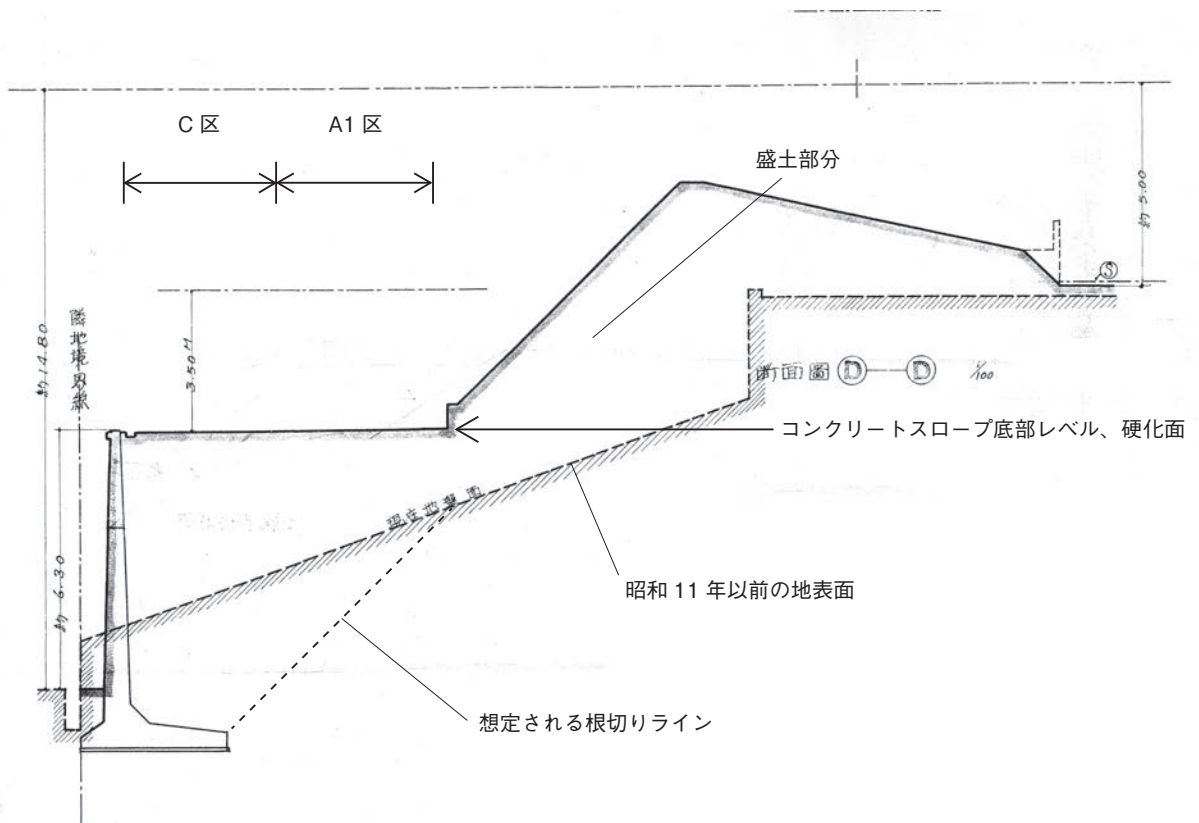
5図 トレンチ3



6図 検出された近現代の遺構



7図 昭和11年野球場工事図面（東京大学施設部蔵）



8図 擁壁部分断面図拡大



9図 「江戸全図」(白杵市教育委員会)と調査地点



10図 「向ヶ岡地所交換ノ儀伺」(国立公文書館蔵 公02312100)と調査地点



11図 A1区掘削前状況（南東から）



12図 A1区立会状況（北東から）



13図 A2区立会状況（南東から）



14図 A2区立会状況（南東から）



15図 トレンチ1 1面検出状況（北西から）



16図 トレンチ1 2面検出状況（北西から）



17図 トレンチ1 3面検出状況（北西から）



18図 トレンチ1 南西壁堆積状況（北東から）



19図 トレンチ1 北東壁堆積状況（南西から）



20図 トレンチ2 排水溝検出状況（北西から）



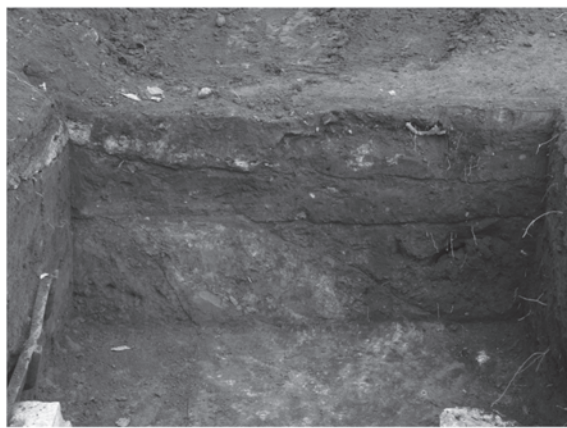
21図 トレンチ2 土管検出状況（北西から）



22図 トレンチ2 北西壁堆積状況（南東から）



23図 トレンチ2 検出状況（南西から）



24図 トレンチ2 北西壁堆積状況（南東から）



25図 トレンチ3 検出状況（南西から）



26図 トレンチ3 南西壁堆積状況（北東から）





27図 トレンチ3 北東壁堆積状況（南西から）



28図 B区掘削状況1（北西から）



29図 B区掘削状況2（北東から）



30図 B区掘削状況3（北東から）



31図 C区掘削状況1（南東から）



32図 C区掘削状況2（北西から）



33図 C区コンクリート土間検出状況（南東から）



34図 C区掘削状況3（北西から）



35図 C区掘削状況4 (南から)



36図 C区排水柵検出状況 (南東から)



37図 C区擁壁上部検出状況 (北から)



38図 C区掘削状況5 (北西から)



39図 C区a地点南西壁堆積状況 (北東から)



40図 C区南西壁堆積状況 (北東から)



41図 C区掘削状況6 (北から)



42図 C区浸透柵設置部分試掘抗 (北東から)



43図 C区浸透柵設置部分掘削状況（北から）



44図 C区浸透柵設置部分擁壁基礎コンクリート検出状況



45図 C区浸透柵設置部分南西壁堆積状況（北東から）



46図 C区浸透柵設置部分掘削状況（北西から）



47図 D区排水柵接続部壁堆積状況北から



48図 トレンチ1出土遺物



49図 トレンチ2出土遺物



50図 トレンチ3出土遺物



51図 A区立会出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	とうきょうだいがくこうないいせきちようさけんきゆうねんしほう
書名	東京大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
巻次	16
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	堀内秀樹、香取祐一
編集機関	東京大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1 駒場リサーチキャンパス内 TEL : 03-5452-5103
発行年月日	令和6年1月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	所在地	遺跡番号	° ' "	° ' "			
とうきょうだいがくほんごうこうないの 東京大学本郷構内の いせき 遺跡 やきゅうじょうきたがわようへき 野球場北側擁壁 かいしゅうちてん 改修地点	とうきょうと ぶんきょうく 東京都 文京区 やよい 弥生 1ちようめ 1ばん 1ごう 1丁目1番1号	13105	47	35° 43' 8"	139° 45' 42"	20200109 ~ 20201109	386.6㎡	野球場北側 擁壁改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東京大学本郷 構内の遺跡  野球場北側擁壁 改修地点	包蔵地 屋敷	近現代		近世 陶磁器、土器、 近代 陶磁器、レンガ、 ガラス製品 現代 陶磁器、ガラス製品	昭和11~12年の大規模な造成を確認。

### 要 約

水戸藩邸北東縁辺部に位置し、東側に低湿地へいたる地点に比定される。近代以降の東京帝国大学時代の野球場建築にともなう大規模な造成の痕跡を確認。



# 紀 要 編

---

東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要 16





# 前田邸御成記の分析 2

## 元禄

湯沢 丈

### 1. 目的

考古資料の使用モデル（道具を使用した場、すなわち人物・時機・場所等）の提示のために、藩邸で行われた行事・儀礼の中で格式が最上級と考えられる御成を取り上げる。

なお前稿（「前田邸御成記の分析：元和・寛永」本誌 15（2021 年度）に掲載）で元和度・寛永度を扱ったのに続いて、本稿では元禄の御成を取り上げる。

#### 1.1. 先行研究

江戸時代の将軍御成の先行研究については、前稿を参照されたい。

元禄の前田邸御成を取り上げた論考は 2 本確認できる。まず近藤磐雄の『加賀松雲公』である（近藤 1909）。近藤は金沢 4 代藩主である前田綱紀の生涯を記した。この中で元禄 15 年の前田邸御成を取り上げ、同書の 22 章「将軍臨邸」において、主に「参議公年表」を引用しながら、御成の詳細を述べた。近藤は御成の前後を含めて記述した。

次に斎藤悦正の論考である（斎藤 2011）。元禄度の御成御殿は金沢藩本郷邸の南側に建てられたが、当該地点の発掘調査報告書において、斎藤は元禄の御成を取り上げた。斎藤は主に『加賀松雲公』を引用して、御成の内容を整理し、加えて「御成御殿絵図」（加越能文庫 特 16.18-146）を用いて、御成御殿の構成についても言及した。

#### 1.2. 本稿の目的

前節の通り、次第を始め、御成の細部まで記述されているが、人物・場所・行為といった筆者の目的とする場の復元や、将軍と藩主以外を含めた全体像の復元が十分に行われているとはいえない。なお、これは近藤が綱紀の生涯に焦点を当てて記述し、筆者とは目的が異なるため致し方ない。そのため筆者が改めて御成記を取り上げ、場の復元を行う。

### 2. 御成記の分析

金沢藩邸への式正御成は、以下の通りである。

- ・元和 3 年（1617）5 月 13 日 将軍秀忠（辰口邸）
- ・寛永 6 年（1629）4 月 26 日 将軍家光（本郷邸）
- 同年          同月 29 日 大御所秀忠（本郷邸）
- ・元禄 15 年（1702）4 月 26 日 将軍綱吉（本郷邸）

#### 2.1. 対象史料

加越能文庫所収の史料から、記述内容が豊富で整理されている「参議公年表」を基準史料とし、他の伝本には片仮名を振った。なお元禄の御成についての記述は複数の史料で確認されたが、その中で比較的詳細に記述されている 2 点を取り上げ、異同を確認した。

・基準史料：「参議公年表」加越能文庫 特 16.11-75（金沢市立玉川図書館）

・異本イ：「御成一巻」加越能文庫 特 16.13-38（同上）  
    口：「太閤并将軍御成記」加越能文庫 特 16.13-25（同上）

・幕府側の史料：

「常憲院殿御実紀」巻 45、元禄 15 年 4 月 26 日条（黒板勝美・国史大系編修会 1981『徳川実紀』6（新訂増補国史大系）：471-473、吉川弘文館）、以下『実紀』と略称。

「柳営日次記」（「年録」129、国会図書館デジタルコレクション、請求記号：833-1）

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2561809>（2023 年 9 月 30 日確認）

各史料について、『加越能文庫解説目録』を参考にっていく（金沢市立図書館 1975、以下『目録』と略称）。基準史料は、5 代藩主綱紀の 42 歳から卒去まで、すなわち天和 4 年（1684）から享保 9 年（1724）までの年表である。元禄 15 年は上中下の 3 冊あり、本稿では中に記載された部分を扱う。

異本イは、表紙に「元禄十四辛巳曆御成一巻」と記され、元禄の御成について前年 12 月の御成の上意伝達から記

載される。文末に次のように記載され、文政10年(1827)に筆写されたものである。すなわち「文政十年日置知左衛門より借用いたし八月写之者也」また『目録』には前田貞発旧蔵とある。

異本口は、表紙に「太閤并將軍家御成記 完」と記され、文禄3年(1594)豊臣秀吉、元和3年(1617)徳川秀忠、寛永6年(1629)家光・秀忠、元禄15年綱吉の御成について記述されている。『目録』によると明治年間に前田家編輯方が手写したものである。

幕府側史料は、所謂『徳川実紀』を主に参照し、必要に応じて『実紀』編纂の原史料の1つとされる「柳堂日次記」も一部を引用した。

この他、同時期史料として『楽只堂年録』と『御当代記』を確認した。どちらも御成について贈答品等が簡潔に記載されていたが、今回は割愛する(宮川2014、塚本1998)。

## 2.2. 翻刻と異同の確認

翻刻は史料篇を参照されたい。なお基準史料との異同を傍線等で示した。

先述の通り、基準史料の記載内容が最も豊富であり、具体的には史料篇で示してあるため、本文では割愛する。

## 2.3. 次 第

基準史料に基づき、次第の概要を記す。

- ・巳下刻、入御。綱吉移動(「式台」→「御休息ノ間」→「御成御殿」)。「縁通」に献上物飾(A-1)。
- ・熨斗御祝。「奥御書院」へ移動。下賜(A-2・3)。
- ・献上・下賜。御目見(A-4～14)。
- ・御能始まり。七五三膳(C-1)。
- ・御能済み、「奥御書院」へ移動。御料理出て、御盃頂戴。下賜・献上。御講談。仕舞(C-2)。
- ・「御成御殿」へ移動。申下刻、還御(C-3)。

A-2とC-2では、共に「奥御書院」へ移動したと記されるため、A-3～14の一部または全ては「御成御殿」等の別所で行われた可能性がある。

参考として、幕府側史料の次第は以下の通りである。

- ・大駕門外で綱吉・吉徳が長袴を着して迎える。
- ・玄関に向かうと、門外で「一族、親縁の輩」と「家人」等が拝謁。
- ・綱吉は乗り物を降り、綱吉が先導して、「表書院の側奥廊」とどまる。
- ・御詞あって「奥書院」へ行き上段に着く。綱吉が長鮑を持出す。綱吉・吉徳に下賜。

1表 贈答

場所	下賜・献上	譲渡元	譲渡先	品数	記載	備考	柳堂日次記
御成御殿の縁通 (表書院の側奥廊)	献上	綱吉	綱吉	9	A-1	刀剣3、馬1	御盃之時：御刀(郷)、御脇差(新藤五国光) 御内証より：御茶入(きづや茶入)、御懸物(徐熙筆)、御肴一箱
奥御書院	下賜	綱吉	綱吉	9	A-3	刀剣3、茶入1	御盃之時：御刀(鳥津正宗)、御脇差(吉光) 御内証より：御茶入(師匠坊肩衝)
奥御書院	下賜	綱吉	吉徳	5	A-3	刀剣2、掛物1	御盃之時：御刀(貞宗) 御内証より：御掛物(卒翁筆、布袋絵、痴絶讃)
(表書院カ)	献上	吉徳	綱吉	4	A-4	刀剣2	御盃之時：御刀(左文字) 御内証より：御書棚、御肴二箱
(奥書院カ)	献上	節姫	表向	3	A-5		
(奥書院カ)	献上	豊姫	表向	3	A-5		
(奥書院カ)	献上	仙溪院	表向	3	A-5		
(奥書院カ)	献上	利直	表向	3	A-5	刀剣1	
(奥書院カ)	献上	利興	表向	3	A-5	刀剣1	
(奥書院カ)	献上	利昌	表向	3	A-5	刀剣1	
(奥書院カ)	献上	綱吉	内証向	3	A-6	茶入1	
(奥書院カ)	献上	吉徳	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	節姫	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	豊姫	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	仙溪院	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	利直	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	利興	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	利昌	内証向	2	A-6		
(奥書院カ)	献上	綱吉	奥向	14	A-7		
(奥書院カ)	献上	吉徳	奥向	5	A-7		
不詳	献上	綱吉	不詳	3	A-8	座敷飾	
不詳	献上	綱吉	御台所	3	A-8		
不詳	献上	綱吉	桂昌院	3	A-8		
不詳	献上	綱吉	五之丸、鶴姫、八重姫	2宛	A-8		
不詳	献上	綱吉	不詳	1	A-8		
(御休息所カ)	下賜	將軍家	節姫	3	A-9		御内証より：御文台、硯
(御休息所カ)	下賜	將軍家	豊姫	3	A-9		御内証より：御文台、硯
(御休息所カ)	下賜	將軍家	仙溪院	3	A-9		御内証より：十柱番(香カ)呂
(御休息所カ)	下賜	桂昌院	綱吉	1	A-10	御使堀筑後	
(御休息所カ)	下賜	桂昌院	吉徳	1	A-10	御使堀筑後	
(御休息所カ)	下賜	御台所	綱吉	1	A-11	御使小笠原源六	
(御休息所カ)	下賜	御台所	吉徳	1	A-11	御使小笠原源六	
(御休息所カ)	下賜	五之丸、	綱吉	1宛	A-12	御使	
(御休息所カ)	下賜	五之丸、	吉徳	1宛	A-12	御使	
不詳	献上	家臣13人	綱吉	2宛	A-13		
(表書院カ)	下賜	綱吉	家臣13人	2宛	A-14		

- ・柳沢吉保が先導して「表書院」へ。綱紀・吉徳献上。家人等が拝謁。一族が出て拝謁。
- ・再び「奥書院」へ。献上。(節姫、豊姫、仙溪院、前田利直、利興、利昌)
- ・綱紀・吉徳も内々の献上。
- ・雑煮・吸物。綱紀・吉徳伴食。
- ・盃事の時に、下賜・献上(綱紀・吉徳)。七五三膳。
- ・講書。綱紀・吉徳、一族、溜詰、譜代の衆、雁問詰、奏者番、家司が拝聴。綱紀もことさらの仰蒙りて進講す。
- ・猿楽。
- ・「御休息所」へ移動。「常のおもの進り御宴あり」 下賜
- ・「おもの」は御物、すなわち食事の意か。
- ・「表書院」へ移動。御仕舞。謁見。
- ・「奥書院」へ移動。熨斗奉る。
- ・還御

因みに『実紀』の「表書院」と「奥書院」は、その編纂の原史料とされる「柳営日次記」では「表之書院」と「奥之書院」とも記されていた。また前田家史料に記されるより、多く部屋の移動が記載されている。

## 2.4. 贈 答

贈答については1表にまとめた。「柳営日次記」には、下賜・献上品の詳細が記されており、一部には「御盃之時」や「御内証より」等、すなわち下賜されたタイミングや贈答した者が記されているため、基準資料に見られない情報のみ、1表に示した。

### 2.4.1. 下賜

綱吉・将軍家からは綱吉が9品で最多、次いで吉徳が5品、節姫・豊姫・仙溪院が各3品である。家臣は2品ずつだが、数量が異なり、4段階に分けられる。また下賜の後の御礼について、本多から奥村までの6人は1人ずつ、備前・勘解由は2人で、その後の不破・前田権佐・永原・菊池・西尾・成瀬の6人は並んでと記される。その他、謁見せずに下賜されたのが2人と記載される(A-14)。因みに異本イには、この6人は3人ずつ御礼したという記述がある(異同篇注7)。

桂昌院・鷹司信子・瑞春院・鶴姫・八重姫から綱紀・吉徳への下賜は各1品で数量に僅かな差が見られ、それぞれ人を遣わしている。この「御使」の人名を調べると、堀筑後守秀雪・小笠原源六郎持真・堀又兵衛長郷は、それぞれ桂昌院・鷹司信子・瑞春院の用人であった(高柳・岡山他1964)。当時の鶴姫と八重姫の用人は、曲淵軌隆と山高信賢であったため、史料の記述は誤記だろうか(東京大学史料編纂所1964)。

### 2.4.2. 献上

将軍への献上は、当主綱紀からが9品と最多で、次いで吉徳(利起)からが4品、そして綱紀娘の節姫・豊姫、利常娘の仙溪院が各3品、大聖寺第3代藩主の利直、後に富山第3代藩主となる利興、利直弟の利昌も同じく各3品である。男子からの献上は刀剣や馬を含む。また家臣も献上を行い、品数は同じだが、各数量が異なり、3段階に分けられる。

この他にも、「内証向」・「奥向」、「御台所」すなわち綱吉正室の鷹司信子(浄光院)、「一位尼」すなわち綱吉

2表 料理人数 (E)

日	場所	朝夕	人数	階層等	人数	献立	備考
御成二日前		朝	600人		100	二汁五菜、酒、肴一種	
					150	一汁四菜、酒不出	
		夕			150	二汁五菜、酒、肴一種	
同前日		朝	1250人		200	一汁四菜、酒不出	
					150	二汁五菜、酒、肴一種	
		夕			300	二汁五菜、酒、肴一種	
御成当日	御成御殿之分		1580人	御老中(50)、御出家方(10)、御小將衆(150)	210	三汁九菜	道永椀
				桐間衆(170)、御勝手方(600)	770	二汁	中之椀
				惣御振舞	600	-	新浅黄椀
	御居宅之分	朝之分	1750人	布衣以上(50)、諸役御番頭(200)、小役人(650)	(900方)	二汁	
				同心以下	900	一汁四菜	
		夕之分	4000人	布衣以上	100	三汁八菜	道永椀
				諸役人	350	二汁七菜	道永椀
				小役人	350	二汁五菜	
				御老中并供之侍分	250	二汁五菜	
				楽屋朝夕	300	-	
同心以下	650	-					
御道具送り并供之中間	2000	一汁三菜					

紀 要 編

3表 御居宅之分詳細

階層等	記載人数	献立	道具等	役職	個別人数	小計	異本
朝之分	1750人					1517人	
布衣以上	50	二汁五菜、酒、肴一種、銘々菓子三種	(イ 木具)	御奏者	2	33	(イ 3)
				〈御小将、御書院〉両御番頭	4		
				大御目付	2		
				新御番頭	1		
				御持頭	1		
				御先手頭	1		
				御目付	6		
				〈御小将、御書院〉両御番組頭	4		
				御使番	4		
				御納戸頭	2		
				御徒頭	4		
				小普請奉行	1		
御腰物奉行	1						
諸役御番頭	250	二汁五菜、酒、肴一種、銘々菓子三種	木具	新御番組頭	1	168	※イでは「御小将」と「御書院
				新御番	20		
				御懸物番	20		
				御小将	40		
				御書院番	40		
				道御奉行	2		
				御膳奉行	2		
				御賄頭	2		
				御納戸組頭	4		
				御台所頭	3		
				御厩方	1		
				御納戸衆	25		
				御腰物方	4		
				御同朋	2		
				御数寄屋頭	1		
二之御丸坊主頭	1						
小役人	650	二汁五菜酒肴一種 (イ 酒) 干菓子足打紙敷積	(イ 木具)	御徒目付頭	1	625	(イ 1)
				火之番組頭 (イ 火之番頭)	1		
				御徒組頭	8		
				御徒目付	30		
				御台所目付	1		
				御徒押	2		
				火之番	16		
				御徒衆	125		
				御台所衆	34		
				御賄衆	45		
				御小間遣衆 (イ 御小遣頭)	2		
				坊主衆	300		
				御持与力	10		
				御先手与力	30		
				六尺頭	8		
				新組頭	2		
				御小間遣与力	4		
御膳所六尺頭 (イ 与力頭)	1						
御馬乗	5						
同心以下	198	一汁四菜、酒、菓子	木具	小 (イ 御) 普請手代	3	198	(イ 50)
				人足方伊賀者	10		
				御持同心	15		
				御先手同心	150		
				御玄關番	10		
中之口御番 (イ 中御番)	10						
				御小人目付	20		
				御中間遣者	20		
				御小納戸六尺	10		
				御表六尺	8		

前田邸御成記の分析 2

階層等	記載人数	献立	道具等	役職	個別人数	小計	異本
々	602	一汁四菜、酒、菓子	木具	御小間遣	75	493	
				御膳所六尺、御風呂屋（イ方）共	20		
				御数寄屋露地者	35		
				御賄方六尺	185		
				二之御丸露地者	15		
				御用達町人	35		
				御厩方御中間	20		
御料理人	50						
夕之分	4000人					3721人	
布衣以上	100	三汁八菜、酒、吸物、肴一種、後段御茶、菓子銘々、後菓子縁高に盛、八寸二居、何も木具 （イ 三汁八菜附後段肴一種吸物酒茶菓子後菓子縁高盛八寸居何も木具）	道永椀	御譜代大名	13	73	
				（御小將、御書院）両御番頭	10		
				中奥御小將	10		
				中奥御番	8		（イ 9）
				（御小將、御書院）両組頭（イ 御小將組、御書院御番頭）	6		
				御持（イ 小將）頭	1		
				御先手頭	3		（イ 1）
				御使番	4		
				御徒頭	4		（イ 13）
				小従（拾カ）（イ 御小持十）人番頭	10		（イ 8）
				御納戸頭	2		
				御腰物奉行	1		
				御普請奉行	1		
諸役人	350	二汁七菜、酒、吸物、肴一種付、後段御茶、御菓子銘々、後菓子縁高盛、八寸居、何も木具（イ 二汁七菜附後段肴一種吸物酒茶菓子後菓子縁高盛八寸居何も木具）	道永椀	御進物番	20	251	
				新御番	20		
				（イ 御書院、御小將）両御番	160		
				道御奉行	2		
				御納戸組頭	4		
				小従（拾カ）（イ 十）人組頭	4		
				小従（拾カ）（イ 十）人	40		
				御厩方	1		
小役人	350	二汁五菜、酒、肴一種、吸物付、後段餅菓子片付、盛八寸に居、何も木具（イ 二汁五菜附後段肴一種吸物酒餅菓子片付盛八寸居）		御徒目付組頭	1	261	
				火之番組頭	1		
				御貝太鼓役	2		
				御徒組頭	10		
				御徒目付	35		
				御徒押	9		
				火之番	15		（イ 16）
				御歩（イ 徒）行	150		（イ 140）
				御中間頭	1		
				御持与力	10		
				御駕籠頭	1		
				御小人頭	1		
				御馬乗	5		（イ 四五）
御先手与力	20	（イ 30）					
同心以下	600 (650)	木具一汁四菜酒餅菓子、木地片付（イ 盛木具）		小（イ 御）普請手代	3	586	
				人足伊賀者同心	10		
				御納戸同心	35		
				御腰物同心	5		（イ 10）
				御持同心	50		（イ 50）
				御先手同心	150		
				御玄閤番	10		
				中之口御番（イ 中御番）	10		
				御小人目付	41		
				御役（イ 使）小者	80		
				御押小人	20		
				御小納戸（イ 御納戸）六尺	15		
				御中間諸役、御馬方共（イ 厩共二）	23		（イ 53）
				坊主方六尺	8		
				御風呂屋六尺	10		

階層等	記載人数	献立	道具等	役職	個別人数	小計	異本
				御数寄屋露地者	35	2000	(イ 47) (※イ 不記載)
				二之御丸露地者	15		
				御小道具者	46		
				御駕籠者	20		
御道具送り并 供之中間	2000	一汁三菜酒餅菓子、片付 (イ 盛) 木具		新組其外御道具持参者 (イ 人)、御老中其外御供 之中間 (イ 共)	2000	2000	
御老中并侍、 同供之侍分 (口 家来)	250	二汁五菜酒肴一種吸物付、後段餅菓子片 付盛木具 (イ 附後段吸物肴一種餅菓子 片付盛木具)		松平美濃守殿并御老中 (イ 方)、松平右京大夫 殿、若御年寄衆 (イ 老中方)、御奏者番 (イ 衆)、御側衆、御留守居 (イ 衆)、大御目付 (イ 衆)、御小将 (イ 衆)、桐之間御番頭 (イ 衆)、 御廊下御番頭 (イ 衆)、御納戸衆之家来侍分 (イ 右之御方御家来之侍【衆】〔分〕江)	250	250	
楽屋朝夕	300	(イ 朝夕) 此分一汁四菜酒菓子 (イ 出 ル)		御小屋	300	300	

生母の桂昌院、更に「五之丸」すなわち綱吉側室の瑞春院 (通称、伝)、綱吉娘の鶴姫・八重姫といった将軍以外への献上も記載される。

## 2.5. 饗応の献立と人数

御成当日に供された献立・人数、また対応した前田家側の人数等を整理したのが2～4表である。

### 2.5.1. 将軍

御能が始まると、将軍綱吉には七五三の膳が供され、盃事では、綱紀・吉徳が相伴した (C-1)。また能が済むと、奥御書院へ移り、御料理が供され、盃事が行われた (C-2)。どちらも料理等是不記載である。

### 2.5.2. その他

御成当日に食事が提供された人数等を2・3表にまとめた。

「御成御殿」だけで1580人、「御居宅」でも朝1750人、夕4000人の食事を用意したとある。3表の「記載人数」と「小計」を比べてみると、各客の人数の和よりも、少し多めに用意されたようである。

4表で献立が記載されているのはF-1～11であり、その中でF-1～5は三汁八菜、F-6～7は二汁七菜、F-8以下は二汁五菜である。「御給仕」はF-1～4は「長上下」であり、F-5～10は「半上下」と記される。また客の人数と「御給仕」の人数の比率を見ると、F-1～3は「御給仕」の方が客より多い。人数不記載のF-4・25を除き、F-5～24は殆ど、客が「御給仕」の数倍存在する。中でもF-17は突出して倍率が高く、逆にF-18は客より「御給仕」の人数の方が多。この点は今後の課題としたい。

これらは客の身分階層に応じて、前田家が対応を変えたと考えられる。とはいえ、彼等に供された献立は三汁八菜が最上であるが、「御居宅之分」すなわち御成御殿

ではない。

因みに詳しい献立・料理がG-1・2に記されているが、これは朝二汁五菜・晩二汁七菜、三汁八菜である。前者は表3における、「御居宅之分」記載のものだろう。後者は「御老中方」と記されるため、3表「御成御殿之分」の「御老中」に相当するだろう。基準史料では三汁九菜だが、異本口では八菜と記されていた。また2表 (E) にあるように、御成当日に供された献立では、階層によって椀も異なる。すなわち「道永椀」「中之椀」「新浅黄椀」である。詳細は不明だが、「浅黄椀」という名称から、これは漆器を指す可能性がある。

## 2.6. 用意・使用された道具

記された道具をまとめたのが、5表である。

室内装飾が多く、その他の道具は記載が少ない。Bにおける記載箇所は大きく「御成御殿」「御小座敷」「御湯殿御上屋」「御休息之間」「奥御書院」に分けられる。前稿で扱った寛永の御成記と比べて記載数が少なく、省かれたのだろう。省略されたとはいえ、「御成御殿」「御小座敷」「御休息之間」「奥御書院」には掛物の他に香炉や文房具等が記載される。中でも「御成御殿」は三幅対が掛けられ、記載された床飾の中では最上か。「御小座敷」の掛物「定家卿十五首」は、寛永の御成記で「黒御書院」に記載されたものと同様だろう。

また「御成御殿」の「下御棚」と「御湯殿御揚屋」には「御拝領」と記される道具が飾られ、将軍家より下賜されたものだろう。これについて、佐藤が尾張徳川家邸御成の分析でも指摘している (佐藤 1984)。

またC-1では、供される者の身分階層が膳によって区別されている。すなわち、将軍綱吉は「金」の三方、前田家当主綱紀は「木地」の三方、その息子の吉徳は足打である。詳しくは前稿 (130頁) を参照されたい。

5表には掲載していないが、献立 (基準史料G、異同

4表 御成饗応方 (F)

記載	場所	客	人数	献立	御馳走人	御料理出口取持	御給仕指引	御給仕	手長
F-1	御書院御客 (イ 御休息所御勝手)	御書院御番頭衆 (イ 頭)、御小將御番頭衆 (イ 頭)、新御番頭衆、中奥御小將衆、中奥御小番衆 (イ 御番衆)	30人程 (イ 朝7人程、夕30人程)	三汁八菜	3人 (口 長袴)	3人 (口 半袴)	-	27人、長上下 (イ 口 袴)	18人 (口 10人)、たはこ盆、手しよく、燗台取持かねて
F-2	御小書院 (イ 御休息所奥御書院)	(イ 御講代大名、御奏者番) 御話衆、大御目付衆	15人程 (イ 朝60人程)	三汁八菜	3人	3人 (口 半袴)	-	19人、長上下 (イ 口 袴) (「利重朝臣、利奥朝臣御家来」3人)	(口 7人)
F-3	奥御書院御勝手より御小書院御勝手まで	御侍頭衆、御先手衆、御使番衆、御小將組々頭衆、御書院組 (イ 番) 頭衆、御徒頭衆、小十人番頭衆、御納戸頭衆、御腰物奉行頭衆、小普請奉行組頭衆、新番組頭衆、遣奉行衆	40人程 (イ 朝23人程)	三汁八菜	3人 (口 長袴)	3人	-	41人、長上下 (イ 口 袴)	8人
F-4	表御居間	御家門方 (イ 御一門様)	-	三汁八菜	4人 (口 長袴)	2人	-	13人、長上下 (イ 口 袴) (「利重朝臣、利奥朝臣御家来」3人)	2人
F-5	御居間書院	御勝手御取持衆	-	三汁八菜	4人	2人	-	18人、半上下	3人
F-6	大御料理之間 (イ 御休息所御座敷)	御納戸組頭衆、小十人組頭衆、新御番頭、御納戸衆、御腰物奉行衆、小十人組衆、御毘 (イ 方) 衆、御膳奉行衆、御膳 (イ 頭) 衆、御台所頭衆、御同朋衆、御数寄屋頭衆、二御九坊主頭衆	100人程 (イ 朝55人程)	二汁七菜	3人	4人	-	40人、半上下	12人 (イ 手長役坊主10人、外小頭2人)
F-7	(イ 詰所) 御廣間一二ノ間并御勝手 (イ 但) 御鞆心所御廣間続御飯屋	御小將組頭 (イ 衆)、御書院番衆、御進物御番衆	180人斗 (イ 180人程、朝100人程)	二汁七菜	4人	4人	-	59人、半上下	10人 (イ 手長役10人組、たはこ(膳草)盆、手燗、燗台取扱(兼))
F-8	御使之間縁縁続御飯屋之上之方御客	御目付 (イ 組) 頭衆、火之番組頭衆、御具役衆、御太鼓役衆 (イ 御具役御太鼓役衆)、御徒目付衆、御台所目付衆、御能押衆、火之番衆	60人程 (イ 朝夕)	二汁五菜	2人	3人	2人	25人、半上下	-
F-9	同所下之方 (イ 右御使者之間続下之方)	御台所組頭 (イ 衆)、(イ 新御番頭)、御台所入、御膳人、御小間遣頭、六尺頭、新組御頭 (※イ不記載)、御小間遣組頭 (※イ不記載)、御膳所六尺組頭、(外) 御中間頭、御小人頭、御駕籠頭 (イ 御駕籠) 《此三頭之衆中階席》	100人程	二汁五菜	3人 (口 長上下)	3人	2人	31人、半上下 (口 鬘斗目半袴) (「安房守家来」2人、「近江守家来」1人、「山城守家来」1人、「伊予守家来」1人、「同席坊主」2人)	-
F-10	玉井御解由跡小屋	御徒組頭 (イ 衆)、御徒、御持与力、御先手与力、御馬乗	190人程 (イ 朝170人程)	二汁五菜	2人	3人	2人	40人、半上下 (「安房守家来」6人、「近江守家来」4人、「山城守家来」4人、「美作家来」13人、「伊予家来」3人、「備前家来」4人、「西尾集人家来」5人)	-
F-11	竹之間	奥坊主組頭衆 (イ 組頭)、同坊主衆、御数寄屋組頭衆、同坊主衆、(イ 表坊主組頭、同坊主衆、) 二之、御九坊主組頭衆、同坊主	220人程	二汁五菜	2人	3人	2人	「御給仕御徒」44人 (「同席坊主」4人)	-
F-12	稲垣三郎兵衛元小屋 (イ 御殿西之方御飯屋)	御徒町与力 (イ 御徒、町方向心与力)、町同心	120人程 (イ 220人程)	-	3人	3人 (「与力」3人)	-	30人 (「御徒」30人) (イ 右御給仕、御徒同前 (御徒、御家来より御雇中小將、四十人)	-
F-13	御殿西之方御飯屋	小普 (イ 御) 請 (イ 方) 手代、伊賀同心、御納戸同心、御腰物同心、御侍同心、御先手同心	140人程 (イ 朝130人程)	-	3人	3人 (「与力」3人)	-	44人 (「足軽」40人、「小頭」4人) (イ 右御給仕、足軽并小頭4人、□4十人)	-

記載	場所	客	人数	献立	御馳走人	御料理出口取持	御給仕指引	御給仕	手長
F-14	東御門統御長屋南之方 (イ 御殿東之方外御長屋)	御玄関番人、中之口(イ 中口)番人、御小人目付、御使小人(イ 者)、押小人(イ 者)、御中間、諸役(イ 御中間諸役)、御納戸六尺(イ 組頭、御納戸六尺)、御小人組頭(※イ 不記載)、御小納戸六尺(※イ 不記載)、坊主方六尺、御風呂屋六尺、御数寄屋露地(イ 路)者、御膳方六尺、御供廻、御駕籠之者(イ 御駕籠者)、(イ 御小間遣、御膳所六尺、二之御丸露地者(順不同))	400人程(イ 朝300人程)	-	3人	4人(「与力」4人)(イ 3人)	-	66人(「足輕」60人、「小頭」6人)(イ 右御給仕、足輕60人、小頭6人)	-
F-15	御殿東之方外長屋(イ 御殿東之方)	料理人、御用達町人	60人程	-	2人	2人(「与力」2人)	-	24人(「足輕」20人、「小頭」4人)(イ 右御給仕、足輕15人、小頭4人)	-
F-16	同所(イ 御殿東之外長屋)	(イ 御大工)大谷甲斐、(御聖師)伊阿弥新丞等、(御師)柏木土佐、(御殿治師)高井弥三(イ 惣)右衛門等	20人(イ 其外20人程、朝晩)	-	2人	2人(「与力」2人)	-	11人(「足輕」10人、「小頭」1人)(イ 右御給仕、足輕10人、小頭1人)	-
F-17	東御門統御長屋(イ 御殿西之方御小將部屋)	新組御道具持はこひ候者	900人程	-	2人(「与力」2人)(イ 3人)	3人(「足輕小頭」3人)	-	26人(「足輕」25人、「小頭」1人)	-
F-18	南之方中之口御門之向 (イ 御殿東之方外長屋)	大工肝煎、同仕手、鍛冶方肝煎(※イ 不記載)、同仕手(※イ 不記載)、御方肝煎、同仕手、張付方肝煎(※イ 不記載)、同仕手(※イ 不記載)、量(イ 方)肝煎、同仕手、石切肝(イ 方)煎、同仕手、小普請方杖突(イ 小普請杖突)、(イ 同仕手)	40人程	-	2人(「与力」2人)(イ 3人)	3人(「足輕小頭」3人)	-	41人(「足輕小頭」15人、「小者」25人、「小頭」1人)(イ 右御給仕、足輕小頭15人、小頭1人)	-
F-19	津田兵庫跡小屋	松平美濃守(イ 殿)并御老中方、松平右京大吏(去カ)殿、若年寄衆、御側衆、御奏者番衆、御留主(イ 守)居衆、大御目付衆之家来(イ 右御面々御家来侍)	60人程(イ 晩)	-	2人	4人(「与力」4人)(イ 3人)	4人(「御徒小頭」4人)	20人(「御徒」20人)(イ 右御給仕、御徒組御家来中之中小將外二小頭3人)	-
F-20	南馬場仮小屋(イ 御殿西之方御飯屋)	御小將衆、御小納戸(イ 納戸)衆、桐之間御番衆、御廊下番頭衆(イ 御廊下衆)、御次衆(イ 御次番衆)之御家来(イ 右之方々御家来侍分)	120人程(イ 晩)	-	2人	4人(「与力」4人)	-	33人(「足輕」30人、「小頭」3人)	-
F-21	同御飯屋つ、き(イ 右同前御飯屋統)	松平美濃守殿より御次衆迄之御席之下々中間(イ 右御席之後面々供之仲間)	220人程(イ 晩)	-	3人(「与力」3人)	1人(「足輕小頭」1人)	-	26人(「小者」25人、「小頭」1人)(イ 30人)	-
F-22	津田兵庫元小屋(イ 右同所御飯屋統)	御譜代大名衆供之(イ 家来侍分)	80人程	-	2人	3人(「与力」3人)	「御給仕取持」2人	25人(「御徒」25人)	-
F-23	御養屋(イ 会所)	御役者	270人程(イ 晩50人程)	-	3人	3人(「与力」3人)	-	55人(「足輕」50人、「小頭」5人)	-
F-24	本郷六丁目跡所(イ 下御台所)	御役者下々(イ 右役者下人)	150人程(イ 晩50人程)	-	2人(「与力」2人)(イ 3人)	2人(「足輕小頭」2人)(イ 3人)	-	16人(「小者」15人、「小頭」1人)	-
F-25	表御門(イ 之内)腰懸	御一門(イ 様)方御供之侍、為御用(イ 御用之為)相詰候人々	-	-	2人	2人(「与力」2人)	1人	10人(「御徒」10人「右御徒と有候内、御家来中之中小將多有之」)	-



5表 道具

場所	道具	用途	記載	備考
不詳	足打、大奉書紙	下賜品の台	A-14	家臣への下賜
御成御殿御飾床	三幅対<左上り竜、中寿老人、右下り竜>雪舟筆、立花二瓶	座敷飾	B	
同 御棚	香炉<獅子>	座敷飾	B	
同 下御棚	御拝領御硯箱、御文台、手鑑	座敷飾	B	
御小座敷	掛物<定家卿十五首>、香炉<唐金孔雀御香炉、香台唐物>	座敷飾	B	「御拝領ノトキ入」
御湯殿御揚屋	御拝領ノ銀ノ舟御香炉<御香台村梨子地、紫上巻附>	座敷飾	B	
御休息之間	御掛物御筆物<チャウシユン>・砂物<銀ノ大鉢>、御書物、文鎮<銀菊折枝>	座敷飾	B	
同 御棚下	蒔絵御香炉箱<十種香道具>	座敷飾	B	
奥御書院	御掛物<徳不孤>、御飾<大嶋台>	座敷飾	B	
同 棚下	盆山	座敷飾	B	
同 上段	御褥二畳、御刀掛<梨子地蒔絵金具銀>	座敷飾	B	
奥御書院御縁類	御簾銀白糸、花毛氈	座敷飾	B	
(奥書院カ)	金ノ三方	七五三膳、初献	C-1	綱吉
(奥書院カ)	木地三方	相伴	C-1	綱紀
(奥書院カ)	足打	相伴	C-1	吉徳
奥御書院	盃	盃事	C-2	
御成御殿上段	刀懸、御褥	座敷飾	柳営日次記	
御成御殿	三方	盃事	柳営日次記	熨斗

篇注2)には、食器等が記され、多くは材質が想定できる。すなわち「ちよく(猪口)」「大皿」「小皿」「皿」は陶磁器、「坪皿」「平皿」は漆器、「小角」「丸杉箱」「木地足打(イ木地足附)」は白木の木製品、「敷紙」は紙製品であろう。「縁高」は漆器あるいは白木の可能性がある。

また基準史料G・Eには献立に「木具」と記される。「木具」は檜の白木で作った器物という意味、また特に足付の折敷(足打折敷)を指すことがある(『日本国語大辞典』)。Eで「御老中」等は「御成御殿之分」において「道永椀」で三汁九菜(異本口では八菜)であるが、G-2「御老中方」の献立では「木具」と記される。またG-1の二汁五菜・二汁七菜は、Eの「御居宅之分」の朝之分「二汁」・夕之分「二汁七菜」に相当すると考えられ、Eでは「道永椀」と記される。Eには「道永椀」の他にも「浅黄椀」といった漆器と想定できる椀の記述があることから、「木具」は足打折敷を指す可能性が高いだろう。

## 2.7. 各場面の復元

場所は、前田家の基準史料の名称を用い、必要に応じて異本や幕府側史料の名称を併記する。

### ○御成(A-1)

・将軍綱吉は巳上刻に出御(熨斗目半袴を着用)、大広間御車寄から駕籠に乗る(柳営日次記)。

・綱吉が四時半時に玄関まで駕籠で御成。

因みに幕府側史料「柳営日次記」には、予参として側用人の柳沢吉保・松平輝貞、老中の阿部正武・土屋政直・秋元喬知・因幡正往等、御供(『実紀』では「供奉」として若年寄の稲垣重富・本多正永等(熨斗目半袴)が記される。

・前田綱紀と吉徳(「柳営日次記」熨斗目長袴)、家老・人持組が門外で出迎え。

異本口によると、出迎えたのは、本多安房守、横山山城守、奥村伊予、玉井勘解由、前田近江守、前田美作、前田備前、永原左京、菊池十六郎、成瀬左京、前田権佐、西尾隼人、不破彦三であり、「柳営日次記」によると御目見が仰せ付けられた「家来共」は熨斗目長袴着用と記される。また「柳営日次記」には、「一類共」すなわち前田家親族も熨斗目長袴で出迎えたと記載され、『実紀』では「一族、親縁の輩」として浅野綱長(吉長父)、池田吉泰(敬姫嫁ぎ先)、浅野吉長(節姫嫁ぎ先)、前田利直、浅野長澄(吉長叔父)、前田利興、前田利昌、前田利英(七日市藩主)の名が挙げられる。

### ○綱吉移動(A-1)

・綱吉が移動。式台→御休息ノ間→御成御殿。

縁通に献上品を飾り、上覧。この時の経路について「柳営日次記」では以下の様に記載する。すなわち「御成廊下より表書院へ脇奥之廊下通」

### ○御成御殿(『実紀』奥書院、「柳営日次記」奥之書院)(A-2)

・熨斗御祝い。熨斗を綱紀・利興が頂戴。

「柳営日次記」によると、上段には「刀懸」と「御褥」があり、熨斗を綱紀が綱吉御前に持ち出し、綱吉手ずから綱紀に下さつたと記される。また「御三方」を綱紀が「引」すなわち下げたと記されることから、熨斗は三方に載せられていたのだろう。

### ○奥御書院(『実紀』表書院、「柳営日次記」表之書院)(A-3～14)

・下賜：綱紀9品、吉徳5品。

・献上：

綱吉へ綱紀4品、吉徳4品。

この他、「表向」献上、節姫・豊姫・仙溪院3品ずつ。利直・利興・利昌3品ずつ。

「内証向」献上、綱紀3品、吉徳2品、節姫・豊姫・仙溪院・利直・利興・利昌2品ずつ。

「奥向」献上、綱紀14品、吉徳5品。

鷹司信子・桂昌院・瑞春院・鶴姫・八重姫へ献上、綱紀3品。

・下賜：

将軍家から節姫・豊姫へ2品、仙溪院へ3品。

桂昌院（御使）から綱紀・吉徳へ1品ずつ。

鷹司信子（御使）から綱紀・吉徳へ1品ずつ。

瑞春院・鶴姫・八重姫（御使）から綱紀・吉徳へ1品ずつ。

・献上、御目見・下賜、御礼：「御一門方」と家来13人。また御目見せずに下賜された者2人。

○前田家史料移動の記載なし（『実紀』ふたたび奥書院、「柳営日次記」重ねて奥之書院上段着座）（C-1）

・御能始まり、式正七五三。初献で綱紀と吉徳が御相伴し、御給仕を行う。

「柳営日次記」には、更に詳しく以下の様に記される。

御引渡 御雑煮（御引渡と替ル） 御吸物（御雑煮と替ル）

御捨土器 御盃之台 御押

加賀守、又左衛門江も引渡雑煮吸物出ル、加賀守給仕、又左衛門給仕共に名欠

御銚子 御加

更に、綱吉と綱紀、吉徳で盃事を行い、刀剣の下賜と献上を行った旨が記載される。

○奥御書院（『実紀』移動記載無し（奥書院）、「柳営日次記」奥書院）（C-2）

・御能済んで奥御書院へ入御。

・料理が出て、御盃頂戴、刀剣下賜・献上。

・御講談。綱紀・吉徳も講釈を行う。綱紀・吉徳、一族、家来が拝聴。幕府側史料には、松平頼常・酒井忠挙・井伊直通等も罷り出たと記される。

○移動記載なし（『実紀』御休息所、「柳営日次記」御休息間）

・前田家史料では不記載だが「柳営日次記」では以下のように記される。すなわち「常之御膳」を召し上がり、「御盃之台」が出る。綱紀・吉徳が呼び出され、綱紀に「御茶入」（『実紀』茶壺）を、吉徳に「御掛物」（『実紀』掛幅）を手ずから下さった（すなわち、A-3 記載の茶入と懸物）。

「御次」において、節姫・豊姫・仙溪院へ「御内証」からの下賜品を、綱紀に柳沢吉保が渡した。

節姫・豊姫・仙溪院への下賜品は目録で綱紀に土屋政直が渡した（すなわち、A-9 記載の下賜品）。

（以下、省略）

○移動記載無し（『実紀』表書院、「柳営日次記」表書院）（C-2）

・御仕舞。御敷舞台で綱吉・綱紀・吉徳・浅野綱長・池田吉泰・浅野吉長。幕府側史料には、松平頼常・酒井忠挙・井伊直通等、また家来共も拝見したと記される。

○御成御殿（『実紀』奥書院、「柳営日次記」奥之書院）（C-3）

・御成御殿へ出御。

「柳営日次記」には、綱吉が奥之書院上段に着座し、綱紀が熨斗を持ち出し、御前に備え、「御祝」遊ばされ、上意があって、吉徳も出座した。「但御三方加賀守引之」すなわち、三方を綱紀が下げたとあるが、これは熨斗が載っていた三方だろう。

○還御（C-3）

・申下刻、還御。

幕府側史料には、入御の時のように、お見送りしたと記載される。

○その他

上記以外にも、綱吉に同行した者、陪臣や役者等、また前田家親族に対して、料理・酒・菓子等が供された（E）。これは綱紀の家臣を中心に担当し、利直・利興の家臣や家老の家来等も動員された（F）。

## 2.8. 蔵帳・伝世品との比較

### 2.8.1. 蔵帳

前田家の蔵帳として「加賀前田家表御納戸御道具目録帳」（飯田1978、以下『蔵帳』と略称）を利用した。

まず5表に挙げた、用意された道具では、御成御殿御飾床の三幅対（『蔵帳』4冊152番、118頁）、御小座敷の掛物「定家卿十五首」（『蔵帳』1冊64番、23頁）、奥御書院の掛物「徳不孤」（掛物『蔵帳』4冊156番、119頁）である。また類似した記述では、以下のものが確認できた。すなわち、御成御殿御飾御棚の香炉（獅子）（『蔵帳』8冊9・28・31・45・60・67番、210～217頁、材質等は多様）、御小座敷の唐金孔雀御香炉（『蔵帳』8冊2番、209頁「銅之物孔雀香炉」）、御休息間の掛物（『蔵帳』4冊155番、119頁「御絵 花鳥 綱吉公御筆」）。

次に1表にまとめた贈答品では「柳営日次記」で「御内証より」と記された2品は、いずれも『蔵帳』で確認された。すなわち、綱紀に下賜された茶入「師匠坊肩衝」

(『蔵帳』6冊133番、178頁)、吉徳に下賜された掛物「布袋、卒翁筆、讚痴絶」(『蔵帳』4冊153番、118頁)である。

この内、飾られた三幅対、綱吉御筆の絵と書、また下賜された布袋の絵が、『蔵帳』上で比較的近くに記載されている点は興味深い。

また、基準史料Bに記載された道具は、座敷飾として用意されたと考えられ、一部は『蔵帳』に記載が確認でき、または類似した道具名が複数確認された。これは前稿で扱った寛永度と類似する。

### 2.8.2. 伝世品

御成記の記述と類似した名称・属性の伝世品を探した。まず5表、すなわち用意された道具では「定家卿十五首」は現在、前田育徳会所蔵である(石川県立美術館2015:88)。この掛物は寛永度にも認められたが、前稿で指摘しなかったため、今回補いたい。

次に1表、すなわち贈答品では「御内証より」綱紀に下賜された茶入「師匠坊肩衝」は現在、出光美術館所蔵(出光美術館1997:62)、吉徳に下賜された掛物「布袋絵、卒翁筆、讚痴絶」は現在、金沢市立中村記念美術館所蔵である(金沢市立中村記念美術館1999:22)。「師匠坊肩衝」は『大正名器鑑』の実見記には大正8年に前田利為侯邸で実見したとあるため(高橋1921-26:1編113)、拝領後は江戸時代を通じて前田家が所持していたと考えられる。また綱紀が献上した茶入「木津屋」についても『大正名器鑑』には次のように記される。すなわち、献上後の経緯は不詳だが、明治37年に深川の富商鹿島家で他の道具と共に同家六宝物とされた(高橋1921-26:3編193)。

因みに、綱紀に下賜された鷺絵(徐燕筆)は「柳営日記」では「徐熙筆」と記されていた。徐熙の鷺絵といえは、肩衝茶入・存星と共に「松屋三名物」が有名だが、これとは別のようなものである(加藤1975:391)。

## 3. 小結と課題

今回、史料を分析することで、複数の場所で、より多くの人々が従事していたことが分かった。特に、將軍綱吉、藩主綱紀と息子吉徳の細かい行動と、將軍に従って同行した者達への饗応である。その中で前稿同様、身分階層に応じた対応の差が確認された。すなわち、下賜・献上品の数量・種類、謁見の有無・順番・人数、盃事の有無・膳、供される献立・椀、饗応・給仕する者(人数・服装)、場所である。

また前田家と幕府側の史料を比較すると、場所の名称

や次第で異なる点が見付かった。更に今回取り上げきれなかった細かい記述もある。これらを屋敷図と共に検討すること、それから出土遺物との対比を今後の課題としたい。

### 謝辞

本稿執筆に当たり、前稿に続いて林大樹氏には様々にご助言をいただいた。伝世品については内田昌太郎氏よりご教示いただいた。

【参考文献】 史料は編纂者名等を冒頭に表記した。著者・編者と発行者が同じ場合、後者を省略した。

- 飯田瑞穂 1978 『加賀前田家表御納戸御道具目録帳』(茶道古美術蔵帳集成 下巻) 国書刊行会  
出光美術館 1997 『館蔵茶の湯の美』  
加藤藤九郎 1975 『原色茶道大辞典』 淡交社  
金沢市立図書館 1975 『加越能文庫解説目録 上巻』  
金沢市立中村記念美術館 1999 『加賀伝来の茶道具』  
近藤磐雄 1909 『加賀松雲公』 羽野知頭  
斎藤悦正 2011 「元禄度加賀藩本郷邸への將軍御成」『本郷台遺跡群第2地点』 文京区教育委員会  
高橋義雄 1921-1926 『大正名器鑑』 大正名器鑑編纂所  
高柳光寿・岡山泰四・齋木一馬 1964 『新訂寛政重修諸家譜』 続群書類従完成会  
塚本学校注 1998 『御当代記：將軍綱吉の時代』(東洋文庫643) 平凡社、戸田茂睡著  
東京大学史料編纂所 1964 『柳営補任4』(大日本近世史料) 東京大学出版会、なお史料編纂所データベース(編集・研究・公開/大日本近世史料) 利用 <https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/kinsei/>  
宮川葉子校訂 2014 『楽只堂年録3』(史料纂集古記録編 174) 八木書店、柳沢吉保著

御床

色絵香炉註

徳棚葉

香合、香箸、蒔絵盆載之

注7

廿六日朝より曇、昼前より雨、(金沢ハ朝曇、昼已後晴)

御成四ツ半時、還御七ツ半(ロ 廿六日六時迄為御迎、御登城、四半時少迄御成、七ツ

時迄三分 還御、朝之間少天氣曇り、八時雨降、還御之自分少雨)

入御之砌、還御ノ節も御成御門之処五相公様又左衛門様御伺公十三人御  
目見被ニ 仰付一之面々、両度共ニ近藤登之助殿御長屋之脇五罷出て平伏

御成日夜之内より十三人之面々も御殿迄相詰、此外御家中之者不ニ罷

越一候

(ロ 渡御之時、御父子様御門前迄御迎ニ御出、御門禁方八人御目見ニ 御出被レ成候

安芸守様 右衛門督様 肥後守様 飛騨守様 長門守様 土佐守殿 隼人殿 宋(采カ)女殿

一、御家来十三人 御目通御門前ニ平伏仕候

本多安房守 横山々城守 奥村伊予 玉井勘解由 前田近江守 前田美作 前田備前 永原

左京 菊池十六郎 成瀬左京 前田権佐 西尾隼人 不破彦三)

一、御成御殿五御通之節、御供

相国様〽〇〇新蔵、戸田清大夫、田尻孫次右衛門、杉口李太郎右衛門〽

御小将二人、

又左衛門様

一、御殿江御詰之御出家

「智足院、護国寺カリケン比丘

「護持院ナリ

一、公方様御供之大名

松平讚岐守殿 酒井雅楽頭殿

井伊掃部頭殿 松平美濃守殿

松原右京大夫殿 松平伊勢守殿

一、相公様、又左衛門様御礼相済候以後御家来御目見被ニ 仰付一候面々

「本多安房守

「前田近江守

老人宛御礼一横山々城守

「前田美作

「奥村伊予

「前田備前

兩人連御礼一

「玉井勘解由

「前田権佐

三人連御礼一永原左京

「不破彦三

「菊池十六郎

三人連御礼一西尾隼人

「成瀬左京

右十三人御成御殿放御溜り之間御襖之外ニ並居、御奏者御番三人伺公御襖之障  
子開キ一人宛名と御呼御礼申上候、御襖障子立候而退出、御奏者老人ニ太刀折  
紙御披露、名も御呼被レ成候由

安芸守様 田村、右衛門督様 船弁慶、備後守様 放下僧

一、御拝領物并御献上之品々詳此未見

一、御殿御飾品々并御能組に詳此未見

一、御父子様以下、御門葉方、御長袴御着用

一、御本宅御饗応之席分、上下都<sup>二</sup>二十七ヶ所

注4 口

御指舞、御番附

高砂 羽衣 国栖

相國様 自然居士 老松 又左衛門様 蘆荊 備前守様 放下僧

安芸守様 田村 右衛門督様 船弁慶

注5 口

一、還御之段、押付 上使本多伯耆守《若御老中》途中より御越、御殿御式台より二件目鷺之絵有<sup>レ</sup>之御間廊下<sup>三</sup>而 上意呉論述 御請相濟候<sup>而</sup>引渡出し引渡持参人長袴平袴之儀不<sup>二</sup>相極 御目付大久保甚兵衛殿御指図<sup>三</sup>而 両様<sup>二</sup>相心得兩人還御以前より御式台廊下迄相詰罷有候、御径目付始、径附居候、長袴着用可<sup>レ</sup>然<sup>二</sup>相極候

御刀置 青地源次郎 平袴

御引渡 梅 清吉 長袴

一、上使御帰以後、為<sup>二</sup>御礼<sup>一</sup>御父子様御同道<sup>三</sup>而 御登 城有、阿部豊後守殿《正武》、土屋相模守殿《正直》、稲葉丹後守殿《正通》、小笠原佐渡守殿《長重》、秋元但馬守殿《喬朝》、松平美濃守殿《吉明》、松平右京大夫殿《輝貞》、加藤越中守殿《明英》、井上大和守殿《正通》、稲垣对馬守殿《重富》、本多伯耆守殿《正永》、本庄安芸守殿《宗俊》被<sup>レ</sup>成<sup>二</sup>御座<sup>一</sup>夜五半時 御帰 館

注6 口

御殿御座敷飾付

奥書院

御床御筆、蓬菜（基大嶋台）、御棚左青磁香炉《獅子、松岳、御伽羅、香久山》

御棚中袋棚之内、銀香盆、香合、香箸、灰押

御棚下袋棚之内、手鑑

同右 古今集、為家筆

同 文台、硯、拝領

表書院 (※基準史料では、青磁香炉獅子、手鑑、文台、硯は御成御殿の御飾に記載)

表書院

御床 三幅対<sup>寿老人、左右竜、雪舟筆</sup>

立花銅、二瓶、花台桑

御棚左 八雲抄<sup>勅筆之由申伝、</sup>文鎮銅龜

同右 青磁香炉《風廬菱之盆<sup>二</sup>載<sup>レ</sup>之、御伽羅、初香》

同下 盆山、重山石、蔦盆<sup>二</sup>載<sup>レ</sup>之

同御小座敷

御床 一幅横物、定家自筆十五首歌

銅香炉<sup>孔雀、</sup>御伽羅無名

大卓 曲輪

御棚上 重硯<sup>下花入<sup>拜領薄板<sup>二</sup>載<sup>レ</sup></sup></sup>、<sup>上</sup>繪鏡、<sup>新筆</sup>狩野家歩合書

同右

御休息之間

御床 御絵<sup>銀砂物<sup>白果</sup></sup>

御棚 中、唐本四書、文鎮銅螭竜

同 左、硯箱、文匣、拝領

同 右、丁子釜、拝領

御湯殿 軸之物、子曰、御筆

二

丸杉箱《なまりめし<sub>レ</sub>か、くしこ、

川ちさ、わさひ<sub>ミ</sub>そ》

鮓<sub>ちやく</sub>《ます、あゆ、たて》

浜焼鯛《かけ塩、すりせうか》

向詰《小たい》

本地足<sub>紙</sub>附<sub>紙</sub> 肴、丸はんへん、さんせう、酒

吸物《ひれ、品川のり》

附後段

小皿 香の物

ちやく<sub>さ</sub>さとう うきふ

再進食鉢

緑高<sub>茶</sub>菓子《水くり、川たけ、小麦やき》

後菓子《ありへいと、松風、ゑたかき、せんへい、竜かんにく》

同日晩三汁八菜御献立木具

本膳

鱠《たい、防風、はせうか、

くり、きんかん》

汁《つみ入、丸うと、

やきとうふ、まつたけ》

香の物

御食

に物《鯛かまほこ、さからめ、生しいたけ、梅干》

二

丸杉やき《なまりめし<sub>レ</sub>か、くしこ、

川ちさ、わさひ<sub>ミ</sub>そ》

汁《たい、山升口》

すし《ます、あゆ、たて》

三

指身《かきたい、くり、せうか、

く<sub>年</sub>母、わさひ》

いり酒

はま焼、たい

向詰、小たい

肴《丸はんへん、山升》

吸物《ひれ、品川のり》

附後たん

かうの物

さとう うきふ

茶くわし《小麦やき、川たけ、水くり》

後菓子《あるへいと、竜かんにく、枝かき、松風、せんへい》

注3

一、還御以後、御途中御警固之面々引取候<sub>而</sub>、為<sub>ニ</sub>御礼<sub>一</sub>御父子様御登<sub>城被<sub>レ</sub></sub>

遊候所、御目見被<sub>ニ</sub>仰付<sub>一</sub>、御懇之上意すへ<sub>ニ</sub>、其外御御勤被<sub>レ</sub>遊せし刻時<sub>ニ</sub>

御帰被<sub>レ</sub>遊候

一、十三人御目見被<sub>ニ</sub>仰付<sub>一</sub>候面々も即刻御礼として御老中方其外被<sub>ニ</sub>相勤<sub>一</sub>

注4

一、御講釈<sub>レ</sub>（基談）、論語、為政篇、君子不<sub>レ</sub>器之章

一、御指舞、三番被<sub>レ</sub>遊、高砂、羽衣、国栖

右御講談、御指舞候、御家来十三人之者も拝聴被<sub>ニ</sub>仰付<sub>一</sub>

一、御指舞之音組

相公様《自然居士、老松》又左衛門様 芦刈

異同篇

異本

イ…「御成一巻」(加越能文庫 特一六・一三―一三八)

ロ…「太閤并將軍御成記」(加越能文庫 特一六・一三―二五)

異同 基準史料と異なる箇所傍線を引いた。また異本間での異同は傍破線で示した。

注1 イ

御家来中奉献上

《御太刀、銀馬代、御拾六ツ》

本多安房守

《御太刀、銀馬代、御拾五ツ充》

《前田近江守、横山々城守、前田美作、奥村伊予》

《御太刀、銀馬代、御拾四ツ》

前田備前

《御太刀、銀馬代、御拾四ツ》

玉井勘解由

《御太刀、銀馬代、御拾三ツ宛》

《前田権佐、永原左京、不破彦三、菊地十六郎、西尾隼人、成瀬左京》

注1 ロ

御家来献上物之覚

一、金馬代 拾六

本多安房守

一、銀馬代 拾五

横山々城守

一、同 同

前田美作

一、同 同

奥村伊予

一、同 拾四

前田備前

一、同 拾三

玉井勘解由

銀馬代 拾三宛

《前田権佐、菊池十六郎、永原左京、西尾隼人、不破彦三、成瀬左京》

拝領之覚

一、金子 十枚、拾五(基六、イ五) 御教官居 (二本多安房守) 欠カ)

一、金子 五枚、拾五充 四人

前田近江守 横山々城守 前田美作 奥村伊予

一、同 三枚、拾三充 前田備前 玉井勘解由

一、同 式枚、拾三充 人持六人

前田権佐 永原左京 不破彦三

菊池十六郎 西尾隼人 成瀬左京

注2 イ

御成日朝二汁五菜御献立

本膳

かきあへ(鯛)、くら(海月)け、きん(金柑)かん、いり酒 汁さくく

小角 香の物 食

和物 《くしこ、くしかい》

二ノ膳

鱧切焼、かけ塩 汁たい

和物 《うと、黒(胡麻)こま、ミ(味噌)そ》

小角 肴 《にしめふ、平かつほ》

後菓子 《大落雁、御ミとり、大わん、竹なかし、はりていと》

同夕二汁七菜御献立木具

鱧《たい、坊風、きんかん、 汁《つみ入、丸うと、ヤキ

くり、は(上)せうか》 とうふ、松たけ》

小角 香の物 食

に物 《細かまほこ、さかとめ、生しいたけ、梅干》

竹なかし、(有平糖)あるへいと(糖)

同 晩御饗応《木具二汁七菜》

本膳 汁《つみ入、丸うと、焼たうふ、松たけ》(粟) 鱈《たい、ほうふ、せうか、  
くり、きんかん》(相良布) 香物ちよく《塩さんしやう

煮物《細かまほこ、さからめ、生しゐたけ、梅ほし》(生)

二 汁《塩煮鯛、山升のめ》(根) 丸杉箱《なまりめちか、川ちさ、くしこ、  
わさひみそ》(山葵味噌) 鮭《ます、あゆ、たて》(大ちよく)

浜焼《かけ汁、摺せうか》(生) 小鯛一つやき(焼) 肴《丸はへん、  
山升たまり》(大皿) 吸物《ひれ、品川のり》(品川) 肴《丸はへん、  
山升たまり》(半片カ)

附後段 うきふ 香物 砂糖 再進食鉢

茶菓子《水くり、川たけ、小麦やき》縁高 後菓子《あるへいとう、  
りやうかんにく、まつかせ、ゑたかき、せんへい》(童眼肉)

御老中方《木具、三汁八菜》

G12

同 御老中方《木具、三汁八菜》

本膳 汁《つみ入、丸うと、焼たうふ、松たけ》(鱈) 鱈《たい、きす、くり、しそ、  
きんかん、葉せうか》(小角) 香物《塩、山枘》(根)

煮物《細かまほこ、さからめ、生しゐたけ》(相良芽) 或ハ坪皿 いろり物《すゝき、  
すりみ共、榎たけ》(挿身)

二 汁《塩煮鯛、山升のめ》(根) 杉焼《なまりめちか、わさひみそ、川ち  
さ》(根) 鮭《ます、あゆ、たて》

三 汁《もすく、のり》(水雲) 指躬《かきたい、くらけ、わさひ、くり、せ  
うか、いり酒、南天の葉》(種鯛)

向詰 小鯛 肴《丸はんへん、山升たまり》(花柚) 吸物《ひれ、品川のり》  
或 向詰小たい 引味噌漬の鱈《木具足打、敷紙》同肴 吸物《ひれ、山  
升、はなゆ共》

附後段 うきふ 香物 砂糖 再進碗

茶菓子《水くり、川たけ、小麦やき》縁高 後菓子《りやうかんにく、あ  
るへいとう、葛まきやき、胡せうあめ、ゑたかき》大ちよく 同 砂糖

御成前夜、御門外此方ノ足輕警固之及晩 公方ノ足輕弓鉄砲ニテ警固之二間ニ  
一ツ宛提灯出之

H

(以下、廿七日のため省略)

(注3)

(以下、廿七日のため省略)



御給仕 足軽小頭十五人、小者廿五人（并小頭老人）（イ右御給仕、足軽小頭式十五人、小頭老人）

F19

一、津田兵庫跡小屋 松平美濃守（イ殿 并御老中方、松平右京大吏（夫カ）殿、若年寄衆、御側衆、御奏者番衆、御留主（イ守）居衆、大御目付衆之家来（イ右御面々御家来侍）六十人程（イ晩）

御馳走人 石黒知左衛門 菊池（イ地）源兵衛

御料理出口取持 与力四（イ三）人

御給仕指引 御徒小頭四人

御給仕 御徒廿人（イ右御給仕、御徒組御家来中之中小将外二小頭式人）

F20

一、南馬場仮小屋（イ御殿西之方御仮屋） 御小将衆、御小納戸衆（イ納戸）、桐之間御番衆、御廊下番頭衆、御次衆之御家来（イ右之方々御家来侍分） 百廿人程（イ晩）（※口不記載）

御馳走人 堀平馬 宮崎平太（イ大）夫

御料理出口取持 与力四人

御給仕 足軽卅人（外小頭三人）

F21

一、同御仮屋つゞき（イ右同前御仮屋続） 松平美濃守殿より御次衆迄之両席之下々中間（イ右両席之後面々供之仲間） 式百卅人程（イ晩）（※口不記載）

御馳走人 与力三人

御料理出口取持 足軽小頭壹（イ三）人 小者廿（イ三拾）五人（外小頭老人）（※イ不記載）

F22

一、津田兵庫元小屋（イ右同所御仮屋続） 御譜代大名衆供之侍（イ家来侍分） 八拾人程（※口不記載） 御馳走人 湯原官進 内藤恒（イ権）丞 御給仕取持 伊さし引 水野源蔵 今壹人（※イ不記載）

御料理出口取持 与力三人 御給仕 御徒廿五人（※イ不記載）

F23

一、御楽屋（イ会所） 御役者式百七拾人程（イ晩五拾人程） 御馳走人 辻弥二郎 馬淵官進 木村伝助（イ介） 御料理出口取持 与力三人（※イ不記載）

御給仕 足軽五拾人（外小頭五人）

F24

一、本郷六丁目賄所（イ下御台所） 御役者下々（イ右役者下人） 百五十人程（イ晩五十人程）（※口不記載）

御馳走人 与力式（イ三）人

御料理出口取持 足軽小頭式（イ三）人

御給仕 小者十五人（外小頭老人）

F25

一、表御門（イ之内） 腰懸 御一門（イ様） 方御供之侍、為御用（イ御用之為） 相詰候人々

御馳走人 田辺次郎左衛門 谷七兵衛

御給仕指引 沢崎源五左衛門

御料理出口取持 与力式人

御給仕 御徒拾人（イ右御徒と有候内、御家来中之中小将多有之）

G11

御成当日諸御座敷 朝御賄御料理《木具二汁五菜》（イ御成日朝二汁五菜御献立）（注2）

本膳 汁（海月） かきあへ（一塩鯛、くらげ、いり酒、金かん）

二 汁（鯛） あへ物（黒こまあへ、うと） 煮物（串海胆） 《くしこ、くし貝》

肴《にしめ麩、平かつを》 面々菓子《大らくかん、大ミとり、大わん、鱒《焼て、かけ汁》

芝山藤七郎 岡嶋伴右衛門 宇野清吉左衛門 渡辺八郎左衛門  
 山辺仲右衛門 毛利津右衛門 若林金右衛門 武部利左衛門  
 山本安丞 近藤滝右衛門 上原吟丞 竹内五郎左衛門  
 吉岡権六郎 松田判左衛門 武部次郎左衛門 竹内仁八郎  
 多田十郎兵衛 大柳官之進 早川清左衛門 筒井安兵衛  
 木村勘助  
 石丸釣雪 武藤柳翠 児玉松斎 池上徳養

F12

一、稲垣三郎兵衛元小屋(イ御殿西之方御仮屋) 御徒町与力 町同心 合(イ式) 百廿人程(※口不記載)

御馳走人 坂井三郎兵衛 宮井彦大夫 中村四郎兵衛  
 御料理出口取持 与力三人

御給仕 御徒卅人(イ右御給仕、御徒同前(御徒、御家来より御雇中小将、四十人))

F13

一、御殿西之方御仮屋(イ御) 小普請(イ方) 手代 伊賀同心 御納戸同心 御腰物同心 御持同心 御先手同心 合百四拾人程(イ朝百三十人程)(※口不記載)

御馳走人 古屋喜左衛門 林八左衛門 稲垣八平

御料理出口取持 与力三人  
 御給仕 足軽四十人(外小頭四人)(イ右御給仕、足軽并小頭四人、口四十人)

F14

一、東御門統御長屋南之方(イ御殿東之方外御長屋) 御玄関番人 中之口番人  
 御小人目付 御使小人(イ者) 押小人(イ者) 御中間 諸役(イ御仲間諸役) 御納戸六尺(イ組頭、御納戸六尺) 御小人組頭 御小納戸六尺  
 坊主方六尺 御風呂屋六尺 御敷寄屋露地者 御賄方六尺 御供廻  
 御駕籠之者(イ御小間遣、御膳所六尺、二之御丸露地者(順不同)) 合四百人程(イ朝三百人程)(※口不記載)

御馳走人 中村権兵衛 堀次郎八 青山甚五兵衛  
 御料理出口取持 与力四(イ三) 人  
 御給仕 足軽六拾人(外小頭八人)(イ右御給仕、足軽六十人并小頭六人)

F15

一、御殿東之方外長屋(イ御殿東之方) 料理人 御用達町人 合六十人程(※口不記載)

御馳走人 深尾七之助 出口弥市左衛門

御料理出口取持 与力式(イ三) 人  
 御給仕 足軽廿人(外小頭四人)(イ右御給仕、足軽式十五人、小頭四人)

F16

一、同所(イ御大王) 大谷甲斐 伊阿弥新丞等 柏木土佐 高井弥三(イ惣) 右衛門等 廿人(イ其外式十人程、朝晩)(※口不記載)

御馳走人 嶋田清右衛門 福田弥平太夫  
 御料理出口取持 与力式人

御給仕 足軽拾人(外小頭一人)(イ右御給仕、足軽拾人、小頭一人)

F17

一、東御門統御長屋(イ御殿西之方御小将部屋) 新組御道具持(イ運) はこひ候者九百人程(※口不記載)

御馳走人 与力式(イ三) 人  
 御料理出口取持 足軽小頭三人

御給仕 小者廿五人(外小頭五人)(イ右御給仕、足軽式十五人、小頭三人)

F18

一、南之方中之口御門之向(イ御殿東之方外長屋) 大工肝煎 同仕手 鍛冶方肝煎 同仕手 飾方肝煎 同仕手 張付方肝煎 同仕手 疊(イ方) 肝煎 同仕手 石切肝煎 同仕手 小普請方杖突(イ同仕手) 合四拾人程(※口不記載)  
 御馳走人 与力三人  
 御料理出口取持 足軽小頭三人

坂井半之丞 嶋田源右衛門 森田新右衛門 佐伯隼之助  
早川伊左衛門 服部久平 高能安丞 高橋吉太夫  
中村助太夫 香野官丞

F19

一、同所下之方(イ 右御使者之間統下之方) 御客(江五葉) 御台所組頭(イ衆) (イ

新御番頭) 御台所人 御賄人 御小間遣頭 六尺頭 新組御頭  
御小間遣組頭 御膳所六尺組頭 御中間頭 御小人頭 御駕籠頭(此  
三頭之衆中隔席)  
合老百人程

(ロ) 御使者之間縁側統御飯屋下之方、御台所組頭衆、御台所衆、御賄組頭衆、御賄方、御小  
間遣頭、御取持、坂入半平殿、都合人数百三人)

御馳走(ロ長上下) 神尾孫九郎 青地弥四郎 有沢九八郎  
御料理出口取持 天野半右衛門 近藤伝兵衛 水野原八郎  
御給仕指引 牧又七郎 川嶋徳左衛門(※ロどちらでもなく、以  
下の人名記載…水野清兵衛、笹田権兵衛)

(※イ「右御給仕、御徒三十人」のみ記載、人名不記載)

御給仕御徒(ロ御給仕) 武藤十郎左衛門 山岸儀左衛門 藤井源太夫  
半田兵左衛門 丹羽十郎左衛門 小杉安大夫 牧田源右衛門  
勝尾源太夫 森政右衛門 野垣内右衛門 半藤政右衛門  
橋川元右衛門(ロ御用人) 立田岡丞 江口惣助 土山(ロ田惣二郎  
畑半十郎 隠岐六之進 清水勘十郎 雪野政右衛門  
畑弥五丞 中村左太夫 山本平八 中村七丞  
小嶋浅進 大津十助 奥田少吉 湯浅小平  
宮崎老太夫 富田浅右衛門 同 近江守家来  
伊藤習院 田嶋釣水(※ロ上記二名不記載) 同席坊主

F10

一、玉井勘解由跡小屋(江五葉) 御徒組頭(イ衆) 御徒 御持与力 御先手与  
力 御馬乗 合百九十人程(イ朝百七十八人程(※ロ不記載)

御馳走人 黒坂左兵衛 林助太夫  
御料理出口取持 中雄平右衛門 菅野彦兵衛 大嶋中太夫  
御給仕指引 齋藤田郎兵衛 村松二郎兵衛

(※イ「右御給仕、御徒、御家来より御雇中小将四十人」のみ記載、人名不記載)

御給仕(半十) 安房守家来 増田九朗右衛門 内本銀次 鱒部儀丞  
早崎治右衛門 同 三田村團七 同 桜井久右衛門 同 沢崎弥源次  
近江守家来 国分源左衛門 同 池田沢右衛門 同 笹井権右衛門 同 平田兵右衛門  
山城守家来 松枝次郎人 同 入江吉四郎 同 石黒式人 同 桜井豊次  
美作家来 大橋吉之進 同 佐藤源右衛門 同 岩本喜内 同 大瀬知太夫  
同 大橋老左衛門 同 石川善兵衛 同 明石喜内 同 栗野左太夫  
同 矢田喜三右衛門 同 猪子源兵衛 同 小林平次 同 布目政大夫  
同 黒田市郎左衛門 伊予家来 近藤老大夫 同 岸丹丞 同 中嶋政太夫  
西尾単人家来 橋川武右衛門 同 厚久太夫 同 長崎政大夫 同 吉田伝助  
同 名川彦右衛門 同 高桑清八 同 遠藤官右衛門 同 高嶋伝助  
同 安田左太夫

F11

一、竹之間 奥坊主組頭衆(イ組頭) 同坊主衆 御数寄屋組頭衆 同坊主衆  
(イ表坊主組頭、同坊主衆) 二二之御丸坊主組頭衆 同坊主 合式百廿人程

御馳走人 井上三太夫 近藤治右衛門  
御料理出口取持 高田作右衛門 寺西又六 熊内弥右衛門  
御給仕指引 三田十左衛門 笹田権兵衛  
(※イ「右御給仕御役四十人」のみ記載、以下人名不記載)  
御給仕御徒 小泉官丞 坂井宅左衛門 伊藤彦右衛門  
石田伝次 青地小平次 中村東左衛門 齋藤治助  
木村全四郎 溝口五左衛門 小野木惣右衛門 寺尾岡右衛門  
木村源太衛門 豊田梶右衛門 中村十郎兵衛 岸岡右衛門  
満田七郎左衛門 服部立右衛門 柘植紋左衛門 藤井源右衛門

三輪七郎兵衛  
御給仕(半上)

井上藤左衛門 土師団次郎 行山祖右衛門  
宿屋弥次兵衛 佐藤孫九郎 中村源八郎

馬場奎太夫

岡田又助 杉野源太夫 前波源右衛門

菊田逸角

前波長五郎 緒川丘之助 水野孫三郎

津田貞進

田中左源太 杉岡貞右衛門 渡辺孫左衛門

辻藤三郎

塚本貞丞 松田牧之助 多胡誠右衛門

大村武左衛門

奥村官之助 大窪左兵衛 石丸新八郎

河縁孫左衛門

大窪吟左衛門 福嶋平蔵 岡野孫右衛門

河北又吉

行山権蔵 吉田平九郎 木村助七

吉田岡右衛門

遠藤伴太夫 福嶋善大夫 田中貞進

植村彦八

手長拾人(イ手長役坊主十人、外小頭式人)

F17

一、(イ詰所) 御広間二二ノ間并御勝手イ但 御饗応所御広間統御仮屋御客三二

汁七菜(※口不記載)

御小將組頭(イ衆) 御書院番衆 御進物御番衆 合百八十人斗(イ程、朝百人程)

御馳走人

西尾四郎左衛門 矢部権丞 奥村助三郎

平野岡右衛門

神戸甚七郎 加藤弥市右衛門 山本源右衛門

石野権平

永井左門 松田六郎兵衛 河合惣九郎

御給仕(半上)

金子平八郎 国沢権六郎 池田十右衛門

山崎清兵衛

河村知太夫 和田伝八郎 杉山帯刀

藤掛十兵衛

村衣太夫 川嶋庄之助 久世伊織

大野主税

中村治兵衛 江守助丞 今村市六郎

千秋半太夫

渡辺弥市右衛門 野村逸角 大地彦右衛門

佐久間又太夫 笹井源右衛門 林弥平太 小幡平三

桜井喜宇右衛門 池田十郎左衛門 稻垣伝左衛門 木村造酒

前田弥平次 内田加藤次 山岸七郎左衛門 長田市左衛門

堀巻左衛門 多羅尾長太夫 山田新五 山岸七郎兵衛

郡左兵衛 富田忠三郎 富永造酒 田辺小兵衛

岡嶋忠三郎 加古右衛門 佃源右衛門 比良津太夫

千秋三太夫 蜂谷孫進 駒井銀丞 鴨野七郎兵衛

和田又八郎 富田助之進 今村庄太夫 今村治兵衛

吉田半太夫 津田伝八郎 田尻喜太夫 長谷川逸角

(イ中川官右衛門(順不同))

手長拾人 斎藤八右衛門 寺西助丞 跡地吉左衛門

島田六左衛門 植原勘右衛門 大村平八 加藤久四郎

松本与四兵衛 木嶋源六 沖津喜兵衛

(イ手長役十人組、たは盆、手燭、燭台取扱兼)

F18

一、御使者之間縁類統御仮屋上之方御客二汁五菜(※口不記載)

御徒目付(イ組) 頭衆 火之番組頭衆 御貝役衆 御太鼓役衆(イ御貝

役御太鼓役衆) 御徒目付衆 御台所目付衆 御徒押衆 火之番衆 合

六拾人程(イ朝夕)

御馳走人 成瀬内匠 芝山彦三郎

御料理出口取持 佐垣小平 有澤弥三郎 笹井甚丞

(※イ以下、「料理出口取持」は「出口取持」と記載)

御給仕指引 石田儀左衛門 水野清兵衛

(※イ「右御給仕、御徒式十五人」のみ記載、人名不記載)

御給仕(半上) 萩原源六 笹田安太夫 出口吟蔵

石田長右衛門 原田市之進 渡辺内治 夏目市郎左衛門

富田庄太夫 藤井喜平太 隱岐市郎兵衛 矢部官右衛門

井関金左衛門 八木十郎兵衛 水野喜六郎 五十嵐惣左衛門

手長 (口 手長役 七人)

F13

一、奥御書院御勝手より御小書院御勝手迄 御持頭衆 御先手衆 御使番衆  
御小将組々頭衆 御書院組 (イ番) 頭衆 御徒頭衆 小十人番頭衆 御  
納戸頭衆 御腰物奉行頭衆 小普請奉行組頭衆 新番組頭衆 道奉行衆  
合四拾人程 (イ朝式十三人程) 三汗八衆

(口) 〇奥御書院御勝手御挨拶、猪子左大夫殿、浅野左兵衛殿)

御馳走人 (口 長袴) 津田兵庫 村半蔵 大橋長兵衛 (口)

千秋孫兵衛

御料理出口取持 岡嶋兵右衛門 藤田五太夫 小原義左衛門

御給仕 (口 専) 長袴 溝口七太夫 寺嶋奥右衛門 渡辺伝蔵

安井源大夫 水原左太夫 村田半右衛門 進士源兵衛

指本十太夫 佐久間甚八郎 入江八郎七右衛門 脇田久太夫

脇田又八郎 浅野惣五郎 村田半太夫 伊藤孝丞

荒木伴太夫 松原右兵衛 春日弥七郎 加藤貞右衛門

佐藤弥太夫 生駒万兵衛 山崎九郎右衛門 津田権太夫

前田伝十郎 羽田帯刀 堀忠左衛門 浅野長八郎

磯松源左衛門 堀佐左衛門 村上助太夫 村瀬平右衛門

多賀判太夫 毛利滝右衛門 関沢安左衛門 陸田津左衛門

木村権兵衛 毛利伊平太 岡田仁右衛門 塩川孫作

宮川清左衛門 青木政大夫

(※イ 堀只衛門、毛利次左衛門、口 堀只右衛門 (順不同))

手長 (口 役) 八人 (口 山森十右衛門、岡本勝右衛門、小川老大夫、島田半大夫、高木

久大夫、北島伝兵衛、加藤惣十郎、水谷金石衛門)

F14

一、表御居間御客 御家門方 三汗八衆

(口) 〇表御居間御挨拶人、小堀土佐守殿、安芸守様、右衛門督様、備後守様、長門守様、飛騨  
守様、土佐守殿)

御馳走人 有賀内膳 塩川安左衛門 戸田靱負

福嶋権兵衛 (口 長袴)

御料理出口取持 津田藤蔵 青木信八郎

御給仕 (口 専) 長袴 富田主税 原十郎兵衛 鈴木清太夫

生駒藤九郎 丹羽沢右衛門 平井吉丞 梅又吉

(口 大御小侍) 羽田伝左衛門 松江源蔵 小林権之佐

朝臣御家来三人 (※口 不記載)

手長式人 小柳新四郎 竹中伊兵衛

(※イ 富田から手長まで不記載。「表小将、大小将、新番」のみ記載)

F15

一、御居間書院御客 御勝手御取持衆 三汗八衆 (※口 不記載)

御馳走人 村田縫殿右衛門 武藤列右衛門 青木与右衛門

斎藤吉左衛門

御料理出口取持 古屋逸角 飯田半六

御給仕 (口 専) 長袴 大河内助之進 小村三郎右衛門 有賀左平太

谷老左衛門 佐恒八左衛門 久能又三郎 岡田冲右衛門

河地七兵衛 清水助丞 浜名小源太 寺西新八郎

中村甚三郎 山下喜丞 川勝武大夫 吉野善八郎

伊藤帯刀 青木大助 鷹柄伴吉

(イ 三嶋安左衛門、笹嶋内丞、永原左六 (順不同))

手長三人 滝伊左衛門 斎藤善助 大菅新七

F16

一、大御料理之間 (イ 御休息所仮御座敷) 御客、御納戸組頭衆 小十人組頭衆  
新御番頭 御納戸衆 御腰物奉行衆 小十人組衆 御厩 (イ方) 衆 御膳  
奉行衆 御賄 (イ頭) 衆 御台所頭衆 御同朋衆 御数寄屋頭衆 二御丸  
坊主頭衆 合百人程 (イ朝五十五人程) 二汗七衆 (※口 不記載)

御馳走人 笹原刑部 岡田伊右衛門 野村勘兵衛

御料理出口取持 上月与左衛門 小泉浅丞 宮井十右衛門

拾五人 二之御丸露地者 四拾六人 御小道具者(※イ 不記載)  
廿人 御駕籠者

六五百拾人 此分木具一汁四菜酒餅菓子、木地片付(イ盛木具)  
式千人 新組其外御道具持参者(イ人)、御老中其外御供之中間(イ共)

此分一汁三菜酒餅菓子、片付(イ盛) 木具

式百五十人 松平美濃守殿并御老中(イ方)、松平右京大夫殿、若御年寄衆

(イ老中方)、御奏者番(イ衆)、御側衆、御留守居(イ衆)、大

御目付(イ衆)、御小將(イ衆)、桐之間御番頭(イ衆)、御廊

下御番頭(イ衆)、御納戸衆之家来侍分(イ右之御方御家来之侍一衆)

(分江)

此分二汁五菜酒肴一種吸物付、後段餅菓子片付盛木具(イ附後段吸物肴一種

餅菓子片付盛木具)

三百人 御小屋(イ朝夕) 此分一汁四菜酒菓子(イ出ル)

都合九千(口老万) 百人拾人内 《御成二日前数千八百五十人、御成当日

御殿人数千五百八拾人、同日御居宅朝千七百五十人、夕四千人》

F11

御成御饗応方(イ御饗衣(応方) 所并御馳走人、御通人等)

一、大御書院(イ御休息所御勝手) 御客 御書院御番頭衆 御小将御番頭衆

新御番頭衆 中奥御小将衆 中奥御小番衆 合三十人程(イ朝七人程、夕卅人

程也) 三十八人

(口) 大御書院 御挨拶人、本多市左衛門殿、岡田将監殿、長田喜左衛門殿、大久保甚兵衛殿、

津田三左衛門殿、荒木十右衛門殿、別所孫右衛門殿、浅野伊左衛門殿、野瀬市十郎殿、酒

井伊勢守殿、北条右近大夫殿、板倉筑後守殿、牧野内匠頭殿、土屋山城守殿、戸田土佐守

殿、小出和泉守殿、松平近江守殿、大久保淡路守殿、加藤周防守殿、阿部老岐守殿、宇津

出雲守殿、内田若狭守殿、石川越前守殿、本庄和泉守殿、松平筑前守殿、朽木土佐守殿、

前田権佐殿、伊东右衛門殿、大河内金兵衛殿、酒井与左衛門殿、織田左兵衛殿、服部庄右

衛門殿、倉橋監物殿、武田与左衛門殿)

御馳走人 九里右近 奥村湍兵衛 高田弥藤次(口原三

郎左衛門、長袴) 齋藤弥八郎 平岡長五郎 西尾佐伸(口

御料理出口取持 桑嶋半十郎 堀七左衛門 佐々木伊織(口

半袴) 御給仕 長中袴 青地源次郎 和田権五郎 宮崎宇右衛門

梅清吉 中村新平 富田吉太夫 西村彦兵衛

窪田弥八郎 半田八郎左衛門 高田五郎八 藤田求馬

里見孫太夫 氏家喜六郎 不破右太夫 菊池甚十郎

津田政太夫 田辺左太夫 千福久太夫 湯原長十郎

加藤金十郎 大屋権之進 金森右近 原源左衛門

不破新十郎 奥村造酒丞 不破弁六郎 中村長左衛門

(イ生駒藤九郎、神田左大夫、横田吉大夫、九里孫大夫、笠間源右衛門、口平岡長五郎、横田

吉大夫、笠間源右衛門) (※順不同)

手長十八人(口手長役十人) 《たばこ盆、手しよく、燭台、取持かねて》

F12

一、御小書院(イ御休息所奥御書院) 御客 (イ御譜代大名、御奏者番) 御詰衆 大

御目付衆 合十五人(イ朝六十人) 程 三十八人

(口) 小書院 御挨拶人、奥津能登守殿、中根老岐守殿、牧野備前守殿、青山下野守殿、蜂須

賀飛驒守殿、松平伊賀野守殿、松平遠江守殿、松浦老岐守殿、青山播磨守殿、松平日向守

殿、久世出雲守殿、松平彈正守忠殿、秋元伊賀野守殿、稲葉長門守殿)

御馳走人 不破平左衛門 高田久兵衛 板津権之助(口

御料理出口取持 桑嶋半十郎 堀七左衛門 佐々木伊織(口

半袴) 御給仕 長中袴 藤田源八郎 伊藤八郎右衛門 玉井藤左衛門

武藤権六郎 大島左平 中村吉郎兵衛 富田勝右衛門

野村貞四郎 永原小仲太 水越新次郎 山崎主税

伊藤図書 別所半六郎 松平内膳 長谷川主計

渡辺(口部) 伝兵衛 (イ安井源兵衛) 《利重朝臣、利奥(興力) 朝臣御家

来三人》(※イ口不記載)

拾五人<sup>イ</sup> 御持同心 百五拾人 御先手同心<sup>イ</sup>  
 拾人 御玄関番 拾人 中之口御番<sup>イ</sup>  
 (イ右一席二)  
 百九拾八人 此分木具一汁四菜酒菓子(イ出ル)  
 廿人 御小人目付 廿人 御中間遣者  
 拾人 御小納戸六尺 八人 御表六尺  
 七拾五人 御小間遣 廿人 《御膳所六尺、御風呂屋(イ方)共》  
 卅五人 御数寄屋露地者 百八拾五人 御賄方六尺  
 拾五人 二之御丸露地者 卅五人 御用達町人  
 廿人 御厩方御中間 五拾人 御料理人  
 (イ右一席)  
 六百式人 此分木具一汁四菜酒菓子(イ出ル)  
 四千人 夕(イ口晚)之分《百人 布衣以上 三汁八菜、三百五拾人 諸役人  
 (口御番衆) 二汁七菜、各道永椀、三百五十人 小役人 二汁五菜(口同断  
 (二汁七菜)、式百五十人 御老中并侍、同供之侍分(口家来) 二汁五菜、六  
 百(口五十)人 同心以下、三百人(イ二百五十同断(二汁五菜)) 楽屋朝夕(口  
 役者)、式千人 御道具懸り并供之中間(イ御道具廻り并供之者、口中間) 一汁  
 三菜 (口五百人 下人 一汁三菜)《※イ「御老中并侍、同供之侍分」「同心以下」不記  
 載》  
 拾三人<sup>イ</sup> 御譜代大名 拾人<sup>イ</sup> 御小將 御書院 両御番頭  
 拾人<sup>イ</sup> 中奥御小將 八(イ九)人<sup>イ</sup> 中奥御番  
 六人<sup>イ</sup> 御小將 御書院 両組頭 壹人 御持(イ小將)頭  
 三(イ壹)人 御先手頭 四人 御使番  
 四人 御徒頭 拾(イ八)人<sup>イ</sup> 小従(拾九)人番頭  
 式人 御納戸頭 壹人 御腰物奉行  
 壹人 御普請奉行

百百人 《此方三汁八菜酒吸物肴一種、後段御茶菓子銘々、後菓子縁  
 高に盛、八寸三居、何も木具》(イ三汁八菜附後段肴一種吸物酒茶菓子後菓子縁  
 高盛八寸居何も木具)  
 廿人 御進物番 廿人 新御番  
 百六拾人<sup>イ</sup> 御書院 御御番 三人 道御奉行  
 四人 御納戸組頭 四人 小従(拾九)人組頭  
 四拾人 小従(拾九)人 壹人 御厩方  
 百三十五拾人 《此分二汁七菜酒吸物肴一種付、後段御茶菓子銘々、後  
 菓子縁高盛、八寸居、何も木具》(イ二汁七菜附後段肴一種吸物酒茶菓子後菓  
 子縁高盛八寸居何も木具)  
 壹人 御徒目付組頭 壹人 火之番組頭  
 式人 御貝太鼓役 拾人 御徒組頭  
 卅五人 御徒目付 九人 御徒押  
 拾五人 火之番 百五(イ四)拾人 御歩(イ徒)行  
 壹人 御中間頭 拾人 御持与力  
 壹人 御駕籠頭 壹人 御小人頭  
 三四五人 御馬乗 卅(イ三)人 御先手与力  
 百三十五拾人 《此分二汁五菜酒肴一種吸物附、後段餅菓子片付、盛八  
 寸に居、何も木具》(イ二汁五菜附後段肴一種吸物酒餅菓子片付盛八寸居)  
 三人 小御 普請手代 拾人 人足伊賀者同心  
 卅五人 御納戸同心 五(イ七)人 御腰物同心  
 五拾人 御持同心 百五拾人 御先手同心  
 拾人 御玄関番 拾人 中之口御番  
 四拾壹人 御小人目付 八拾人 御役(イ使)小者  
 廿人 御押小人 拾五人 御小納戸六尺  
 廿三人 《御中間諸役、御馬方共》 八人 坊主方六尺  
 拾人 御風呂屋六尺 卅五人 御数寄屋露地者

南御門より西方出口仮番所 押足輕貳人、番人足輕  
御屋敷中、火廻り御近習番相廻り押足輕四人

E

今般 御成<sub>ニ</sub>付、御本宅<sub>ニ</sub>御料理出ル人数之分

御成二日前 (※以下、イには人数の後に「前」が付されるが割愛する)

六百人、内朝《百人(イ前)二汁五菜(イ干菓子)酒肴一種、百五十人一汁

四菜酒不<sub>レ</sub>出》夕《三百(イ百五拾)人二汁五菜(イ干菓子)酒肴一種、五

(イ<sub>キ</sub>百人一汁四菜酒不<sub>レ</sub>出》

同前日

千式百五十人、内朝《式百五十人二汁五菜(イ干菓子)酒肴一種、式百人一

汁四菜酒不<sub>レ</sub>出》夕《三百人二汁五菜酒(イ干菓子)肴一種、五百人一汁

四菜酒不<sub>レ</sub>出》

御成当日 御成御殿之分

千五百八拾人 内

五拾人 御老中(口並) 拾人 御出家方(口僧中) 百五拾人 御

小將衆

式百拾人 此分三汁九(口八)菜 道永椀

百七拾人 桐間衆 六百人 御勝手方

式百七拾人 此分二汁(口五菜) 中之椀(イ中椀)

六百人 惣御振舞(イ惣御振廻、口惣様) 此分新浅黄椀

御居(イ口本宅之分)

(口式)千七百五十人 朝之分《五十人 布衣以上、式百(口五十)人 諸

役御番頭(口人中)、六百五十(イ六百)人 小役人、各二汁(口五菜、九(口

八)百人 同心以下(口役者)(口五百人 下人)、一汁四菜》

(※以下、イでは役名の「御」の位置・有無が異なる場合があるが割愛する)

貳人 御奏者

四人 御小將 御書院 両御番頭

貳人

大御目付

壹人 新御番頭 壹人 御持頭

壹(イ三人) 御先手頭 六人 御目付

四人 御小將 御書院 両御番組頭 四人 御使番

貳人 御納戸頭 四人 御徒頭

壹人 小普請奉行 壹人 御腰物奉行

式五拾人 此分二汁五菜酒肴一種銘々菓子三種(イ木具)

壹人 新御番組頭 廿人 新御番

廿人 御懸物番 四拾人 御小將

四拾人 御書院番 貳人 道御奉行

貳人 御膳奉行 貳人 御賄頭

四人 御納戸組頭 三人 御台所頭

壹人 御腰物方 廿五人 御納戸衆

四人 御教寄屋頭 壹人 御同朋

式百五拾人 此分木具二汁五菜酒肴一種銘々菓子三種

壹人 御徒目付頭 壹人 火之番組頭

八人 御徒組頭 卅(イ壹)人 御徒目付

壹人 御台所目付 貳人 御徒押

拾六人 火之番 百廿五人 御徒衆

卅四人 御台所衆 四拾五人 御賄衆

貳人 御小間遣衆 三百人 坊主衆

拾人 御持与力 卅人 御先手与力

八人 六尺頭 貳人 新組頭

四人 御小間遣与力 壹人 御膳所六尺頭

五人 御馬衆

式六百五拾人 此分二汁五菜酒肴一種(イ酒)干菓子足打紙敷積(イ木

具)

三人 御小將 小普請手代 拾人 人足方伊賀者

三人 御小將 小普請手代 拾人 人足方伊賀者



御能相濟、奥御書院<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>ニ</sup>。入御<sup>一</sup>御料理出、御盃御頂戴、御腰物御拝領、御返盃ノ時、御腰物御献上、其後<sup>一</sup>御講談<sup>《君子不<sup>レ</sup>器之章、綱紀公平天下ノ</sup> 処<sup>一</sup> 利起公大学ノ内少御誦被<sup>レ</sup>遊<sup>云</sup>》<sup>（イ 論語、君子不器、以御直之上意、相公様御講</sup> 誦、大学、天下平）<sup>（注4）</sup> 其後於<sup>ニ</sup>御敷<sup>（イ 敷御）</sup> 舞台<sup>一</sup>御仕舞有<sup>レ</sup>之、御父子并御一族及御家人十三人拝聞拜見被<sup>ニ</sup>。仰付<sup>一</sup>《御父子初長上下、後御着替半上下》十三人ノ御家人御末席《其間六七間計》罷出各平伏之処、何モ頭ヲ可<sup>レ</sup>揚旨横目衆会釈<sup>ニ</sup>テ手付向ノ見ル程<sup>ニ</sup>列居。御仕舞《將軍家正面ヨリ。出御、拍子方橋掛ヨリ出ル。綱紀公初脇座ノ方ヨリ御出》

<sup>御公方様</sup>高砂

<sup>御公方様</sup>綱紀公

《弥右衛門、新九郎》《与左衛門、七左衛門》

自然居士

<sup>御公方様</sup>綱紀公

《三郎右衛門、五兵衛（イ 郎右衛門）》彦右衛門

芦刈

<sup>御公方様</sup>利起公

《伝八、五郎左衛門》又六

<sup>御公方様</sup>羽衣

<sup>御公方様</sup>田村

《弥右衛門、新九郎》《仁兵衛、七左衛門》

田村

<sup>御公方様</sup>綱長朝臣

《三郎右衛門、五兵衛》彦右衛門

舟弁慶

<sup>御公方様</sup>吉泰朝臣

《伝八（イ 三郎右衛門）、五郎左衛門（イ 兵衛）》又六（イ 彦右衛門）

放下僧

<sup>御公方様</sup>吉長朝臣

《弥右衛門、新九郎》七左衛門

<sup>御公方様</sup>国栖

<sup>御公方様</sup>彦右衛門

《三郎七右衛門（イ 三郎右衛門）、五兵衛（イ 仁兵衛）

老松

<sup>御公方様</sup>綱紀公

《伝八、五郎左衛門》《与左衛門、又六》<sup>（注4）</sup>

C-3

御成御殿へ 出御、申下克 還御自<sup>ニ</sup>途中<sup>一</sup>松平能登守殿為<sup>ニ</sup>上使<sup>一</sup> 御出追付

御父子

御登城《利起公暫先<sup>ニ</sup> 御出御登城、御下<sup>ニ</sup>御同道<sup>一</sup>》於<sup>ニ</sup>奥御書

院<sup>一</sup> 御对面御手自御熨斗御頂戴御満足ノ段 御帰館ノ時分、井上大和守殿、

土屋相模守殿、阿部豊後守殿、本多伯耆守殿、加藤越中守殿、秋元但馬守殿、

御勤正容朝臣工被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>。入暫御休息、夫ヨリ稲垣对馬頭殿、松平美濃守殿、

松平右京太夫殿、小笠原佐渡守殿、本庄安芸守殿、御勤戌下克御<sup>一</sup> 御帰

（注5）

D-1

今般 御成供奉ノ大名衆

松平讚岐守殿 <sup>十三万石</sup> 酒井雅楽頭殿 <sup>七万二千石</sup> 牧野備前守殿 <sup>四万石</sup> 松平遠江守殿 <sup>六万三千石</sup> 久世出雲守殿 <sup>五万石</sup> 青山下野守殿 <sup>御詔衆</sup> 蜂須賀飛驒守殿 <sup>四万石</sup> 阿部飛驒守殿 <sup>三万石</sup> 松平弾正忠殿 <sup>六万石</sup> 秋元伊賀守殿 <sup>御詔衆、但馬守</sup> 稻葉長門守殿 <sup>御詔衆、丹波守</sup> 此外 井伊掃部頭殿 <sup>卅万石</sup> 青山播磨守殿 <sup>四万八千石</sup> 松平日向守殿 <sup>三万三千石</sup> 三浦老岐守殿 <sup>三万石余</sup>

D-2

御本宅御用達

田嶋求琢 佐々木文齋 中村道勢 小谷最順

佐藤雲弥 寺町三智 黒木幸巴 東王地清悦

土田文賀 山田清勢 板倉喜広 池田慶儀

D-3

当日御本宅御門々之警固

御成御門 塩川安左衛門《組与力、同心共》 中之御門

御勝手御門 斎藤吉左衛門《同断》 表御門

大御門 稲垣三郎兵衛《同断》 南御門

御玄関前 別所孫太夫《大組足輕》 御台所門

追分口門 《割場奉行岸勘太夫、御横目足輕式人》御作事方御門

御小納戸御門 御横目別所善左衛門 御歩横目式人、押足輕式人、番人足

輕 乾御門 御横目横井甚五左衛門、御歩横目式人、押足輕式人、番人

足輕 東御門 御歩横目彦人、押足輕式人、番人足輕

御作事方御門 押足輕式人、番人足輕 木戸際御門 押足輕式人、番人

足輕 五玄関前仮番所 押足輕式人、番人足輕 南御門見付仮番所 同断

新口仮番所 同断 津田兵庫跡小屋仮番所 同断

右之通也御門<sup>ニ</sup>て組々合紋羽織袴着用

同三枚 同四

同式枚 同三宛

(※イで「黄金」は「判金」)

不破彦三 永原左京 菊池十六郎  
西尾隼人 成瀬左京

(イ 右御家来被<sub>レ</sub>下候物、足打台ニ黄金ならへ、御服は追而受取、黄金台之上、大奉書紙立札ニ切テ金子之向之方ニハサミ、則台共ニ頂戴ス

黄金五枚、時服五、横山々城守 何も如<sub>レ</sub>斯

御礼ノ次茅(第九)本多ヨリ奥村迄独礼、備前、勘解由兩人並ヒ出ル、其次彦三、権之佐、永原、其次十六郎、隼人、左京並ヒ出ル

奏者 太刀 同太刀 同太刀 礼人 礼人 礼人

拝領物ノ義、土屋相模守殿被<sub>レ</sub>仰渡 其後阿部飛騨守殿《奏者当番》一人宛御渡、此外拝領有<sub>レ</sub>之《但 御目見無<sub>レ</sub>之》

黄金式枚、時服式宛 不破平左衛門 津田兵庫

B

御成御殿(イ 御守殿) 御飾(注6)

御床 三幅对《左上り竜、中寿老人、右下り竜》雪舟筆、立花二瓶

御棚 (イ 青磁) 香炉<sub>獅子</sub> 下御棚《御拝領 御硯箱、御文台(イ箱)、手鑑》

御小座敷 御掛物(イ 御床) 《定家卿十五首》(イ 御懸物) 御床 唐金孔雀御香炉 香台唐物

御棚 御拝領ノトキ入(イ 御棚之下ニ 御拝領銀之御花入)

御湯殿御揚屋 御拝領ノ銀ノ舟御香炉(イ合) 《御香台村梨子地、紫上卷附(イ有)》

御休息之間 御掛物御筆物<sub>イヤウシユン</sub> (イ 御床 御筆長春之源山頼向之御絵) 砂物<sub>銀ノ大鉢</sub> 御書物 (※イでは「御書物」から「硯箱」まで「御棚」に記載)

文鎮《銀菊折枝》(イ 御拝領之料紙箱、御硯箱松梅之蒔絵) 御棚下(イニ 蒔

繪香炉箱《十種香(イノ)道具》

奥御書院 御掛物(イ 御床御筆) <sub>徳不孤</sub> (イ 大文字御銀地) 御飾<sub>大燈台</sub> 御棚下<sub>笠</sub>

御上段 御褥(イ畳) 二疊 御刀掛《梨子地(イ高)蒔絵、金具銀》

奥御書院御縁類(イ 側通り并物見御座敷) 共御簾銀白糸 花毛氈(イ 但シ御縁白キト赤キト大整花毛氈)

C1

御能初り式正七五三、初献出 綱紀公 利起公御相伴 《縁通御列居、將軍家

金ノ三方、綱紀公木地三方、利起公足打》御父子御給仕 御能 (イ於御本舞台御能)

翁(イ 觀世織部) 《千歳(イ 觀世藤十郎)、三番三、(イ 大藏) 弥右衛門》 高砂、觀世(ロ 大夫)、権右衛門 《三郎右衛門(イ 三右衛門)、清六(ロ 清六郎)》(イロ 《左吉、又六》)

東北、(イロ 竹田) 権兵衛、源七 《市郎兵衛、新九郎》 庄兵衛

祝言<sub>最</sub> 権之進(イロ 諸橋權進)、(イロ 春藤) 万右衛門 《弥三郎、長右衛門》(イロ 《三郎次郎、又三郎》

(ロ 呉服) 《連》 《長村林右衛門、宮川権兵衛》 (イ 狂言) 末広かり 鷺仁右衛門、ロ 末広かり 仁右衛門

(イ 御自分御役者相勤人 《相勤》 春藤万右衛門、《相勤》 永村駿右衛門、《拙者相勤》 芹川四郎左衛門、《相勤》 小谷半四郎、《相勤》 宮川權丞、《後見相勤》 竹田庄五郎、《相勤》 平井伝右衛門、《御樂屋ニ相詰罷在候》 山本甚右衛門)

能太夫の事、前日被<sub>レ</sub> 仰出、脇能は何方も觀世太夫、二番目権兵衛、祝言

ハ権之進と極、脇々<sub>ニ</sub>ハ能三番濟、御料理出候、此方<sub>ニ</sub>ハ祝言濟迄 上覽付、

東北之舞も三段に可仕哉奉<sub>レ</sub>候候処、五段<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>仰聞、権之進服舞有<sub>レ</sub>之、不<sub>レ</sub>苦旨 上意之由<sub>ニ</sub>相勤

権兵衛義、金春弟子と仕候<sub>ニ</sub>付、御僉義有<sub>レ</sub>之弟子の各目削申候也

C12

利興朝臣ヨリ 御檜重老組、御肴老箱  
采女殿ヨリ 同断

A17 御奥向御献上有之

綱紀公ヨリ 金入五拾卷、御彫物五拾通 ≡三所物三拾通、二所物式拾通、  
茶宇嶋(縞力)百卷、御文台、御硯箱(口梨地一通)、御見台、御印籠巾着  
百(口御印籠梨地五七)、御鏝(口象眼)百枚、御香炉銀孔雀、御舞扇拾五本、  
御触着付、御十種香箱老組、御糸物、御肴老箱 (口御香合梨子地蒔絵品々  
百、作物御重五)

(※口香炉・舞扇・触着付、香箱、糸物は不記載)

利起君ヨリ 御香炉(口銀)孔雀老、御(口中)屏風老枚(口双) 制秋伝、探信筆(口  
表口扇あふき、裏春秋ノ菊花、狩野探信筆)、茶宇嶋百卷 御肴老箱 (口御中口  
百)

A18 外 綱紀公ヨリ御座敷御飾御献上  
御書物九部、御黒棚老、御香合百

御台所(口御台様)エ 綱紀公ヨリ御献上

白銀百枚、紗綾百卷(口紅白)、二種老荷(※口二種)と「二荷」が別項目  
(口(利起献上) 白銀百枚、二種一荷)

一位尼公(口一位様)エ 同断 (口(利起献上) 白銀百枚、二種一荷)

五之丸并鶴姫君、八重姫君エ白銀五拾(口百)枚(口紗綾五十卷紅白)、二種  
老荷宛 (口(利起献上) 白銀五十枚(八重姫君のみ百枚)、二種一荷)

外 綱紀公ヨリ御献上  
御作物御重五ツ

A19 將軍家ヨリ各御拝領有之品々

綿百把 御文台、御硯  
同断

安芸御前(口御前様)江  
吉泰卿御内室(口右衛門督様御内様)江

綿百把 十種(口炷)香箱 仙溪院殿江

(口裕 十包熨斗 飛騨守様江

同 七同断 長門守様江

同 六同断 采女殿江)

A110 一位尼公ヨリ御使堀筑後守殿 (秀重)

綿三百把 綱紀公江

同式百把 利起公江

A111 御台所ヨリ御使小笠原源六(郎欠力)殿 (持真)

同式百把

A112 五之御丸ヨリ 御使堀又兵衛殿 鶴姫君ヨリ ≪御使曲淵兵太夫殿≫ 八重姫君ヨリ ≪御使  
嶋八右衛門殿≫ (山高信賢力)

綿式百把宛 御両方江

A113 御家来ヨリ献上ノ品々 (注1 異本イでは各「御太刀」も献上、口では本多安房  
守のみ「金」馬代、裕「六」で前田近江守から奥村伊予まで「銀」馬代、裕「五」)

銀馬代 裕六宛 安房守 (本多政敏) 近江守 (前田直盛) 山城守 (横山在盛)

銀馬代 裕五宛 美作 (前田孝行) 伊与(予力) 備前 (奥村有輝力)

銀馬代 裕三宛 勘解由 (全井信信) 権佐 (前田直盛) 彦三 (不波為忠)

左京 十六郎 隼人 (菊池武雄) (西尾宗長力)

左京 成瀬 (生忠)

A114 御一門方 御目見并御家来十三人 御目見被ニ 仰付「拝領物有之

黄金拾枚 時服葵(御紋)六(イ御時服五ツ、内三ツ白) 本多安房守

同五枚 同(内葵御紋)五宛(イ御時服五ツ宛、内老ツ自近江守、山城守) 前田近江守

横山々城守 前田美作 奥村伊与

A-3 (以下九品は、原文では上下二段に記載)

真御太刀 一腰《国宗、代金三百五十貫》(イ十七枚、ロ十七枚)

五両《》

黄金 五拾枚

白銀 三千枚

御裕 百領

繻珍 百卷

(ロ愚) 天鵝絨 五拾卷

御刀(イ腰物) 一腰《島津正宗、代金貳百》(イロ三百五十) 枚《》

御脇刺(ロ指) 一腰《吉光、代金三百五十》(イロ貳百) 枚《》

御茶入《師匠坊》(イロ四聖坊)、肩衝《 一《替蓋有》(ロ但替袋有之)《》

右 綱紀公<sup>エ</sup>(イ相公様御拝領、ロ右者、相公様御拝領) (※イでは「正宗」と「義

光」は「御盃之時御拝領」)

(以下五品は、原文では上下二段に記載)

真御太刀 一腰《長光<sup>イ二貫宗代金貳百枚</sup>、代金廿三枚》(イロ十枚)《》

黄金 五拾枚

御裕 五拾領

御刀(イ腰物) (ロ一腰) 《貞宗、代金百七十五枚》(イロ貳百枚)《》

御懸(ロ掛) 物《布袋、卒翁筆、讚痴絶》(ロ卒翁筆、布衣ノ絵、賛癡絶)《》

一幅

右 利起公(イ又左衛門様御拝領、ロ右者、又左衛門様江) (※イでは「貞宗」は「御

盃之時御拝領」)

此間 綱紀公御献上物、利起公御献上物、引替ノ由

A-4 利起公(イ又左衛門様) <sup>ヨリ</sup> 御献上

(以下四品は、原文では上下二段に記載)

真御太刀 一腰《助長、代金貳百貫、式(或カ)備前助宗、代

三百五十枚共》(イ助宗、代金貳百五十貫、ロ助長、代

(イ色) 羽二重 十枚

白銀三百枚 百疋

御腰物 一腰《左文字、代金百五十枚》

A-5

此外表向御献上物有之

吉長朝臣御前<sup>ヨリ</sup> (イ備後様御前様)

紗綾五十卷(ロ紅白) (イ綿百把) 御檜重<sup>ヨリ</sup> 御肴一箱 (イ御文台硯、

ロ御檜重御紋付一組、御肴一箱)

吉泰朝臣御内室<sup>ヨリ</sup> (イ右衛門督様御内室様、ロ御表向右衛門督様奥様御献上)

同断(イ綿百把、御文台硯、ロ紗綾五十卷紅白、御檜重一組、御肴一箱)

仙溪院殿<sup>ヨリ</sup>

同断(イ綿百把、十種香箱、ロ紗綾五十卷紅白、御檜重一組、御肴一箱)

利重朝臣<sup>ヨリ</sup> (ロ飛騨守様御献上)

御太刀(ロ一腰)、金馬代 綿百把

利興朝臣<sup>ヨリ</sup> (ロ長門守様御献上)

御太刀(ロ一腰)、金馬代 紗綾卅卷

采女殿<sup>ヨリ</sup>

御太刀(ロ一腰)、金馬代 紗綾拾卷

A-6

御内証向御献上 綱紀公<sup>ヨリ</sup> 御茶入《木津屋肩衝》、御懸物《鷲絵、徐燕筆》式(或カ)徹書記<sup>(御敬書物也)</sup>

トモ、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

利起公<sup>ヨリ</sup> 御書棚<sup>ヨリ</sup> (ロ梨地菊蒔絵、菊のすかし有)、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

吉長朝臣御前<sup>ヨリ</sup> 十種香具(ロ梨子地蒔絵) 奘通、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

吉泰朝臣御内室<sup>ヨリ</sup> 御伽羅箱(ロ梨地蒔絵橋)、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

仙溪院殿<sup>ヨリ</sup> 御丁字釜<sup>銀</sup>、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

利重朝臣<sup>ヨリ</sup> 釣花入<sup>銀</sup>、御肴<sup>ヨリ</sup> 奘箱

史料篇

翻刻要綱

- ・ 適宜、返り点、句読点等を付した。
- ・ 一部史料では、記述のまとまり毎にアルファベット・算用数字を付した。
- ・ 修正は次のように表した。 【修正前】(修正後)
- ・ 未解読の文字は□とし、墨塗の場合は■とした。
- ・ 割注等は以下のように区別した。 《割注・列記等》 〈小字〉 『朱書』
- ・ 助詞のニ・而は基本的に小書きとし、その他は史料に則した。
- ・ 欠字は一字空け、平出は二字空け、台頭は改行して一字上げとした。
- ・ 所謂旧字や異体字は基本的に常用漢字で表した。台・臺や余・餘等は字義が異なり、史料上で書き分けられるため本来区別すべきだが、本文と整合させるため、常用の字に統一した。
- ・ 異同の表記は、異本を示した上で、小字で次のように区別した。なお小書き等は反映しない。 …… (イ挿入語句) …… (イ入れ替わり語句) ……
- ・ 異同の表記が複雑な場合は注とし、異同篇に掲載した。
- ・ 異同の内、基本的に以下のものは取り上げない。
  - ・ よく混同される字…指・差、枚・牧等、人名の「大夫」と「太夫」
  - ・ 異体字…島・嶋、松・叅、鶴・鶺鴒等
  - ・ 繰り返し、同前の表記…山山・山々、同・同断等
  - ・ 数の表記…三・参、十・拾等
  - ・ 漢字・仮名…あハせ・拾、二て・にて、之・ノ・の等
  - ・ 一部の敬称…様・殿等
  - ・ 細目の表記……より……より御進上等
  - ・ 列記された進物や人名等の順序

目次 元禄一五年御成 基準史料(1) 異同篇(15)

元禄一五年御成

基準史料(「参議公年表」『加越能文庫』特一六・一一―七五、三冊の内、第二冊)

(表紙書題) 「元禄十五年中」

A11

四月

廿六日<sup>丑</sup>少曇午克過ヨリ小雨降 還御ノ時分晴《少々降》暮前ヨリ又雨天  
卯克過御迎為「御案内」 綱紀公 御登城被「仰置」御帰館 將軍家已下克過  
御成《但 御成以前御門外金助町迄 御父子共ニ 御出、御家老及人持組モ罷  
出ル》御玄関迄御駕籠<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup> 召御式台<sup>ヨリ</sup>御休息ノ間<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup> 入、御成御殿  
被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup> 入、此時御縁通ニ御献上物飾有<sup>レ</sup>之(注7)

綱紀公(イ相公様) ヨリ献上

(以下九品は、原文では上下二段に記載)

真御太刀 一腰《備前長光、代金三百(イロ十五)枚》

黄金 三百枚

御時服 百領

色繻子(イ金入織物) 五拾卷

猩々緋 三拾間(イ猩々皮 五十卷)

綿 五百把

御馬 壹疋《鞍置、白菊、白鶴毛》(ロ 御鞍伊勢因幡守作、御鎧伊勢備後守作、両様共代七百五十貫)

御腰物 一腰《郷義弘(イ義弘郷)、代金三百枚》

御脇刺 一腰《会津新藤五(イ国光)、代金三(ロニ)百枚》

(ロ 純子 五十卷)

A12

上覧<sup>ニ</sup>入、御熨斗御祝 御父子共御頂戴、其后奥御書院<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>入御<sup>ニ</sup>拜領物有<sup>レ</sup>之



---

---

# 東京大学構内遺跡調査研究年報 16

## 2022 年度

2024 年 1 月 31 日発行

編集・発行 東京大学埋蔵文化財調査室  
東京都目黒区駒場 4 - 6 - 1  
<http://www.aru.u-tokyo.ac.jp>

印刷 株式会社イセブ

---

---

